信濃町の埋蔵文化財

長野県上水内郡信濃町

霊仙寺遺跡

—牟礼村霊仙寺ため池整備工事に伴う発掘調査報告書—

2004

信濃町教育委員会

長野県上水内郡信濃町

霊仙寺遺跡

―牟礼村霊仙寺ため池整備工事に伴う発掘調査報告書―

2004

信濃町教育委員会

例　言

1．本書は平成15年度に実施した長野県上水内郡信濃町大字大井に所在する霊仙寺遺跡の発掘調査の内容を記録した報告書である。
2．発掘調査は牟礼村による霊仙寺ため池整備工事に伴い、信濃町教育委員会が牟礼村から受託して実施した。
3．本書の執筆、編集は渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
4．本調査の出土遺物と調査及び整理作業に係る資料はすべて信濃町教育委員会が保管・管理している。遺物の注記記号は「03RZ」である。
5．石器石材については一部を中村由克氏（野尻湖ナウマンゾウ博物館）から鑑定していただいた。
6．調査にあたり、牟礼村建設水道課、牟礼村教育委員会、及び、霊仙寺集落のみなさまには多大なるご協力をいただいた。感謝申し上げる次第である。

凡　例

1．図で使用した地図の方位の矢印は真北を指す。
2．出土した石器については石材名に対し、略号を用いた。本文中に用いた略号は以下の通りである。

略号	石材	略号	石材	略号	石材	略号	石材	略号	石材
Ch	チャート	An	無斑晶質安山岩	Tu	凝灰岩	TS	凝灰質頁岩	ST	珪質凝灰岩
Ob	黒曜石	Ag	玉髄	Sa	砂岩	And	安山岩	Hf	ホルンフェルス

3．発掘時に、移植ゴテ等によって石器に付けてしまった新しい剥離面（ガジリ）の部分は、実測図では黒く塗りつぶして表現した。

目　次

第Ⅰ章　調査の経過と方法 …… 1
1. 調査に至る経緯と手続きの流れ …… 1
2. 調査・整理の体制と期間 …… 3
3. 調査の経過（調査日誌抄） …… 3
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 4
1. 自然的環境 …… 4
2. 歴史的環境 …… 4
第Ⅲ章　調査の方法 …… 7
1. 発掘調査 …… 7
2. 整理作業の方法 …… 7
第Ⅳ章　発掘調査の概要 …… 7
1. 調査地周辺の地形と層序 …… 7
2. 遺構と遺物の出土状況 …… 10
第Ⅴ章　縄文時代 …… 15
1. 縄文時代早期の土器 …… 15
2. 縄文時代早期の石器 …… 35
3. 縄文時代中期の土器 …… 41
第Ⅵ章　古代 …… 41
1. 遺物の概要 …… 41
2. 遺物の分布状況 …… 41
3. 土器 …… 41
4. 所属時期について …… 41
第Ⅶ章　まとめと今後の課題 …… 43
成果の要約 …… 44
文献 …… 44
写真図版 …… 50

第Ⅰ章　調査の経過と方法

1．調査に至る経緯と手続きの流れ

霊仙寺遺跡は信濃町の南端に位置し（図１）、その範囲の一部は隣接する牟礼村まで達している（図２）。中世の山岳信仰の遺構が残り（信濃町文化財専門委員会，1985）、昭和54（1979）年に長野県史跡に指定された霊仙寺跡を含んでいる。『信濃町の遺跡分布図』では縄文時代、中世、近世の遺跡となっている（信濃町教育委員会，2003b）。

この遺跡の範囲内で、牟礼村によって農業用ため池を建設する計画が立てられた。平成14年８月に、ため池建設にあたり道路の付け替えが必要となったことから信濃町へ照会があり、開発計画が明らかになった。付け替えが計画された道路は史跡霊仙寺跡へ通じる参道として使われていた可能性がある（矢野，1998）こと、及び、開発予定地全体が霊仙寺遺跡の範囲内であることから、その旨を工事担当の牟礼村建設水道課へ伝えた。平成14年10月18日に長野県教育委員会（以下、県教委と表す）文化財・生涯学習課と牟礼村建設水道課、信濃町教育委員会（以下、町教委と表す）総務教育課の三者で、現地を確認しながら遺跡の保護協議を実施した。牟礼村からは農業用水用のため池が必要であり、南に別荘地があるためにこの場所以外につくれる場所がなく、すでに用地を取得している旨の説明がされた。町教委からは開発予定地が県史跡の範囲からははずれているが、霊仙寺遺跡の範囲内であること、中を通る道路が霊仙寺への参道として使われていた可能性があること、これまでこの遺跡内で発掘調査がおこなわれていないため、遺跡の詳細は不明であり、試掘調査を実施して状況把握をする必要があることなどを伝えた。県教委は、牟礼村が建設地を変更せず、ここにため池をつくるしかないということであれば、信濃町教育委員会に試掘調査を依頼し、その結果をふまえて再度協議してもらいたいこと、及び、試掘調査の調査費については、調査の結果によっては建設地の変更も考えられ、この場に建設できない可能性もありえるという理由から、牟礼村、信濃町の両者で負担してもらいたい旨の意見が出された。

町教委ではこの協議にもとづいて試掘調査の計画を立て、それにもとづき10月24日に牟礼村建設水道課と町教委の二者で２回目の遺跡保護協議をおこなった。牟礼村からは、建設地の変更はできないので、試掘調査をおこなって状況を把握してもらいたい旨の依頼があり、調査費は折半することが決められた。

試掘調査は牟礼村からの委託を受けて、信濃町教育委員会が平成14年11月５日から11月20日にかけて実施した（信濃町教育委員会，2003a）。開発予定地はかつて養魚場とそれに付帯した建物等があった場所で、土地の改変が広くおこなわれている状況が見られたため、重機によって埋め土等を取り除いたのち、試掘トレンチを設定して、手掘りにより試掘調査をおこなった。18ヵ所のトレンチを発掘し、３ヵ所のトレンチから遺物が出土した。遺物は16点出土し、内訳は縄文土器１点、土師器15点であった。

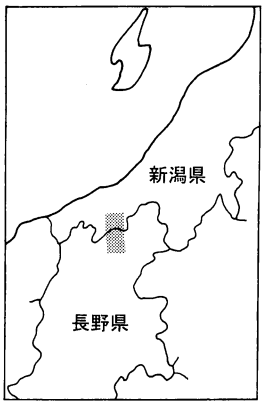
この試掘調査の結果を受け、平成14年11月15日に県教委、牟礼村建設水道課、牟礼村教育委員会（以下、村教委と表す）、町教委の四者による遺跡の保護協議がおこなわれた。町教委からは遺物が出土した地点をもとに、開発にあたって発掘調査が必要となる範囲を図で提示した。村教委からはこの遺跡に詳しい矢野恒雄氏から、この中を通る道は江戸時代からの道と考えられるので、保存してもらいたいという要望があり、村教委も同様の考えであるという意見が出された。県教委も同様に、県指定の史跡にとって重要な道と思われるので、この道を回避してため池を建設できないか検討して欲しい、とのことであった。牟礼村建設水道課はできれば道を迂回させ、道の部分もため池にしたいという考えをもっていたが、道路を残す方向で計画変更を検討することになり、図面を変更し、ため池の正確な位置が決まったところで発掘調査について協議することになった。なお、試掘調査の調査費は600,000円で、牟礼村と信濃町で300,000円ずつ負担した。

道を残すことになり、ため池の位置が変更されたため、平成15年５月９日に再度四者協議がおこなわれた。牟礼村建設水道課からは位置が変更された図面が提示され、県教委からはこの位置であれば問題ない旨の回答があった。町教委からは、計画変更によって以前の計画よりも西側へ拡大し、試掘調査未実施の面積が増えたため、調査日数、及び、経費が増加する可能性がある旨を伝え、その了解を得た。牟礼村から町教委へ調査が委託され、５月下旬から発掘調査を実施することになった。

平成15年５月12日付け15牟建第71号で文化財保護法第57条の３第１項にもとづく土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書が提出され、平成15年５月20日付けで埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書をとり交わした。調査面積は700㎡で、委託料は2,000,000円であった。

このため池の名称は「霊仙寺ため池」で、事業名は村単農業用ため池設置事業であった。計画時のため池の敷地面積は9,453㎡で、満水面積は4,500㎡、有効貯水量は7,700㎥で、型式は前刃金型、堤高3.3m、堤長150m、堤長幅３m、有効水深平均２m、堤頂標高879.5m、満水面標高878.2mであった。

発掘調査は６月11日から実施した。計画変更により工事の範囲が拡張されたため、試掘調査が未実施であった地点を優先して調査した結果、多数の土器が出土したため、面的に調査する範囲の拡張が必要となり、調査費の



1 西福田新田遺跡
2 八斗蒔原遺跡
3 上中島遺跡
4 南野畔遺跡
5 中の原D遺跡
6 窪畑B遺跡
7 寿池遺跡
8 小重遺跡
9 松ヶ峯遺跡群
10 関川谷内遺跡
11 中ノ沢遺跡
12 大堀遺跡
13 中古遺跡
14 慶沢A遺跡
15 慶沢B遺跡
16 桐久保遺跡
17 小本道遺跡
18 杉久保遺跡
19 琵琶島遺跡
20 海端遺跡
21 土橋稲荷遺跡
22 小丸山、土橋城跡
23 向新田A遺跡
24 雨池遺跡
25 仲町遺跡
26 神山北遺跡
27 狐久保遺跡
28 神山A遺跡
29 照月台遺跡
30 貫ノ木遺跡
31 星光山荘A遺跡
32 駒爪遺跡
33 上山桑A遺跡
34 大久保南遺跡
35 西岡A遺跡
36 上ノ原遺跡
37 小丸山公園遺跡
38 役屋敷遺跡
39 東裏遺跡
40 仁之倉A遺跡
41 長水B遺跡
42 鳥居川第二発電所遺跡
43 上島遺跡
44 清水東遺跡
45 吹野原A遺跡
46 大平B遺跡
47 琵琶ヶ崎遺跡
48 諏訪ノ原遺跡
49 日向林A遺跡
50 日向林B遺跡
51 七ツ栗遺跡
52 塞ノ神遺跡
53 戸草遺跡
54 荒瀬原原遺跡
55 石原遺跡
56 宮原遺跡
57 丸谷地遺跡
58 大道下遺跡
59 北信遺跡
60 市道遺跡
61 清水久保遺跡
62 星光山荘B遺跡
63 霊仙寺跡、霊仙寺遺跡

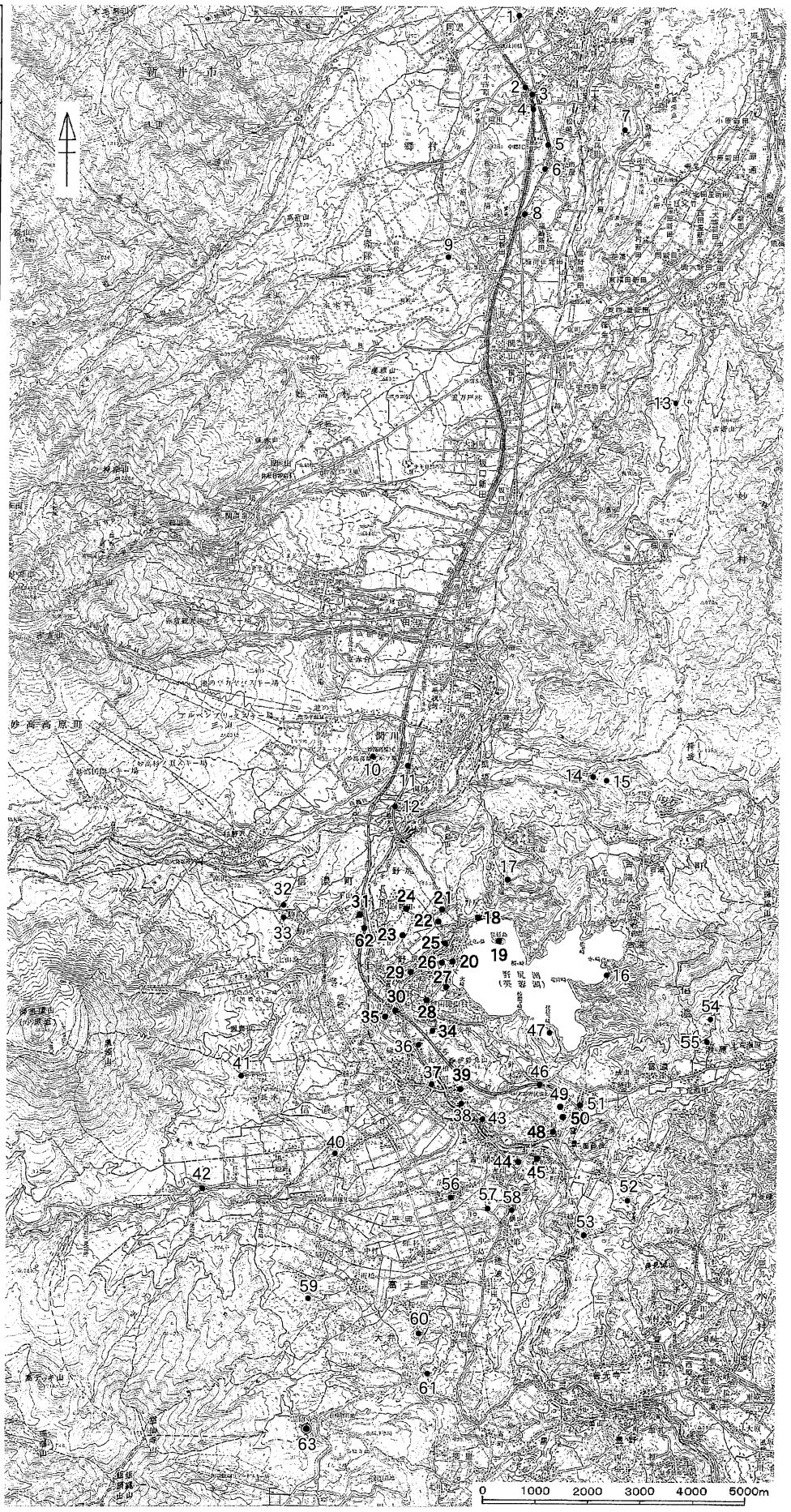


図1 調査地の位置と周辺の縄文時代早期の遺跡の分布（国土地理院平成10年5月1日発行1/50000「戸隠」「中野」平成13年4月1日発行「妙高山」平成15年8月1日発行「飯山」地形図を使用）

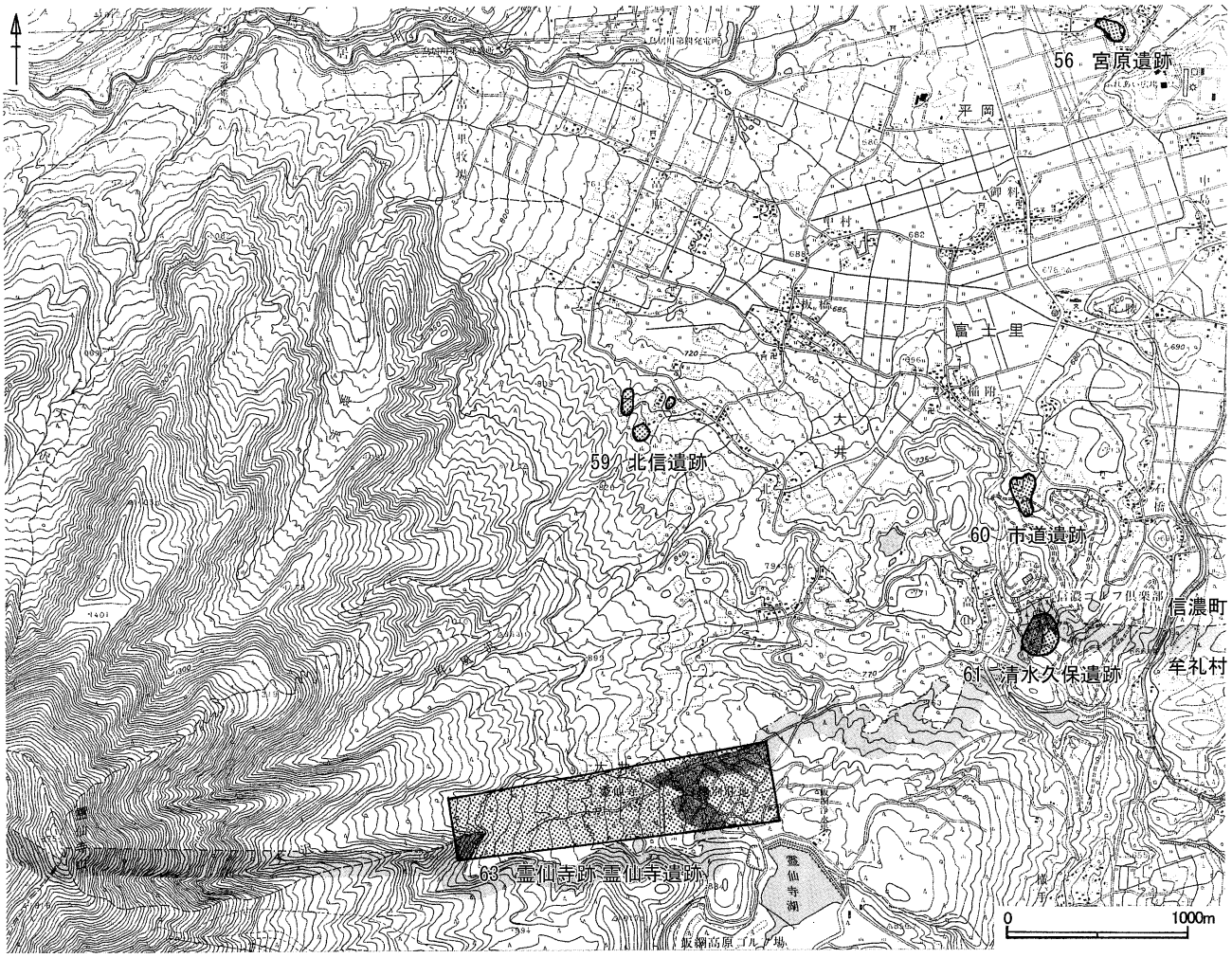


図2　遺跡の範囲と周辺の地形

増額も必要となったため、6月27日に牟礼村建設水道課、村教委、町教委の三者協議を実施し、牟礼村側の同意を得て、変更契約を結んだ。内容は発掘期間を8月12日までと改め、委託料を4,370,000円に改めるということであった。

発掘調査は7月29日に終了し、7月31日付けで発掘調査終了報告と埋蔵物発見届を提出した。

最終的に調査費は3,840,000円になり、平成16年2月26日付けで再度契約変更をおこない、委託料の変更をおこなった。

2．調査・整理の体制と期間

発掘調査及び整理作業の体制、及び、その期間は以下のとおりである。

調査主体者　信濃町教育委員会

事務局　教育長　小林豊雄
総務教育課長　佐藤謙一郎
総務教育係長　羽入田千恵子

調査担当者　総務教育係　渡辺哲也

発掘調査期間　平成15年6月11日～平成15年7月29日

発掘調査参加者　石田和子、大沢正志、落合春人、北村フクコ、小林八重子、佐藤孝治、渋沢ユキ子、菅谷澄子、高田昭夫、高遠三治、高橋是清、田村勇、徳永門、永原シズエ、中村幸治、平塚せつ子、藤田桂子、松木圭子、山嵜啓一

整理・報告書作成期間　平成15年12月12日～平成16年3月31日

整理・報告書作成参加者　佐藤美佐江、佐藤道子、篠崎和美、菅谷澄子、藤田桂子、松岡さとみ、松木圭子、宮川裕子

3．調査の経過（調査日誌抄）

5月20日　木の伐採（タケウチ建設へ委託）。

5月21日　重機による表土剝ぎ（5月22日まで）。
6月11日　発掘調査開始。重機でとりきれなかった表土の除去をおこなう。
6月16日　林の中に試掘用トレンチを設定し、遺跡の範囲確認調査を開始。西側へ遺跡が広がることを確認。牟礼村議会視察。
6月19日　南側の林地の試掘調査開始。
6月20日　南側の林地内の試掘では遺物が出土せず、遺跡が南へ広がらないことを確認。遺物の出土状況の写真撮影。南側の林地内、試掘調査終了。
6月27日　西調査区の内、北半分をほぼ完掘。写真撮影。調査範囲の拡張について、牟礼村建設水道課、村教委と町教委の三者で協議。牟礼村側、拡張に同意。
6月30日　拡張箇所を重機により表土剝ぎ（7月1日まで）。
7月14日　東調査区、写真撮影。
7月18日　拡張部の掘り下げ終了。
7月22日　遺物平面図の作成。
7月25日　地形測量。テント撤収。
7月29日　地形測量。撤収。調査完了。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1．自然的環境

霊仙寺遺跡が所在する信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県の妙高高原町と県境を接している。信濃町は日本海に面した海岸平野の高田平野と、内陸盆地の長野盆地との間にあたり、西には北から妙高、黒姫、飯縄の火山があり、東には斑尾火山がそびえている（図1）。これらの火山に挟まれた地域には、標高650～750mの起伏に富んだ高原状の台地が広がっている。

西側の3つの火山では、南に位置する飯縄山が最も古く、12、13万年前には活動を終了している。黒姫山は古期の活動が16から11万年前で、新期の活動がおよそ6万年前に活発になり、3万年前頃には活動が衰えている。妙高山は新期の活動が10万年前頃にはじまり、約6000年前に中央火口丘が形成され、現在に至っている。これら3つの火山の活発な活動により、各火山体の東側一帯には火山灰層が広く厚く分布している。中部更新統の火山灰層は20～30m、上部更新統の火山灰層は10m程である。東側にある斑尾山は西側の火山よりも古く、およそ30万年前には活動を終えていたと考えられている。この斑尾山の西麓に広がる緩やかな起伏の地形を、黒姫火山の崩壊によって生じた池尻川岩屑なだれ堆積物がせき止めたことにより、およそ7万年前に野尻湖の原形が誕生した。現在の野尻湖は面積が3.96㎢で、水面の標高が654mである。こうした東西の火山に挟まれて低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などが人びとの居住域となっている。

野尻湖の水は池尻川から西へ流れ出し、北へ向きを変えて関川に合流し、日本海へ注ぐ。戸隠村を水源とする鳥居川は南東方向へ流れ、千曲川と合流し、信濃川となって日本海へと注ぐ。二つの水系の分水嶺は現在の上信越自動車道信濃町インターチェンジ付近と考えられるが、この辺りはなだらかな高原状の地形となっている。

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的冷涼で、避暑地として利用されている。

霊仙寺遺跡は飯縄山（標高1917m）の北東側に位置する峰の霊仙寺山（1875m）の麓にあり、東へ下る緩斜面上に位置する（図2）。火山山麓の地形上にあり、大沢と呼ばれる沢の下流部にあたり、周辺に比べてなだらかな斜面が幅広く広がっている地域である。ここに霊仙寺の集落が形成され、その南側には大門川が西から東に向って流れている。

2．歴史的環境

A．信濃町について

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであった。野尻湖西岸の湖底に広がる立が鼻遺跡はおよそ4万年前の狩猟・解体場（キルサイト）と考えられており、ここをナウマンゾウとそれを追う旧石器人が往来していたと考えられる。また、野尻湖周辺には旧石器時代～縄文時代草創期の遺跡が40ヵ所あり、その遺跡のまとまりは野尻湖遺跡群と称されていて、国内有数の氷河時代の遺跡密集地として知られている。構成する遺跡はそれぞれ面積が広く、遺物の分布密度も高いため、野尻湖の西に連なる丘陵上はとぎれることなく遺跡がつながっているような印象を受ける。近年、上信越自動車道建設や国道18号線改築工事などにより、長野県埋蔵文化財センターや信濃町教育委員会によって多数の遺跡で広範囲に渡って発掘調査がおこなわれ、膨大な数の遺物が得られた。石器石材や石器製作技術は多様で、

そうした石器の内容は、各方面から人々が流入してきたことをうかがわせる。

古代では東山道支道が通っていたと推定されている。また、江戸時代には北国街道が整備され、加賀金沢藩の参勤交代や、佐渡からの金銀の運搬など、重要な街道として利用されていた。現在も国道18号線、上信越自動車道、JR信越本線が通り、交通の要所の役割を果たしている。また、関川が信濃と越後の国ざかいであるため、こうした歴史的な地理的特徴を備えた地域でもある。中世の山城が多いことも、交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。

信濃町には現在までに173ヵ所の遺跡が知られている（信濃町教育委員会，2003b）が、時代により遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が集中する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数が多く、前期以降の遺跡数は少なくなる。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数は少なく、平安時代になると遺跡数が増加する。

B．霊仙寺遺跡について

霊仙寺遺跡は北国街道などの主要な道沿いではなく、中世の寺を拠点として形成された遺跡と考えられる。

信濃町文化財専門委員会（1985）によれば、霊仙寺という寺の造営は鎌倉時代初期という。文永７（1270）年に戸隠山の宝光院の僧が離山し、霊山（仙）寺に住んだという記述をもとに推定されている。五社権現を祀る神社の神宮寺（別当寺）として霊仙寺があり、真言宗の修験道場として栄えていた。ここは里宮のあった新井村（現在は牟礼村大字古町）から戸隠の霊場へと通じる登り口の役割も果たしていた。史跡内には応永11（1404）年の年号が刻まれた石水鉢があり、霊仙寺の古さを示している。戦国時代には甲越の合戦により全山を焼失したが、上杉氏により復興され、奥ノ院に通じる石段と水鉢は上杉氏による寄進と伝えられている。しかしその後衰退し、江戸時代に入り住職は長沼村（現在の長野市）の宝樹院に居住して、祭祀のときだけ登山した（矢野，1998）。明治維新の際に霊仙寺は廃寺となり、また五社権現は明治43（1910）年に高山神社に合祀されて廃社となった。

史跡霊仙寺跡にはいくつかの遺構等が残されている。鳥居の沓石（礎石）は一ノ鳥居から三ノ鳥居までの３ヵ所に残されている。五社権現前宮跡と霊仙寺講堂跡には礎石がある。また、応永11年の年号の入った石水鉢、奥ノ院へ通じる石段、その手前の水鉢などがある。霊仙寺に関する詳しい古文書等は残されていない、または見つかっていないのが現状であり、また、発掘調査や現地の地形測量等もおこなわれていないため、この史跡の実態については不明な点が多い。

矢野恒雄氏が新井から奥ノ院までを踏破したところ、一部を除き、山道として現存し、道筋が確認できるとし、これこそ信仰の道「霊仙寺道」である、としている（矢野，1998）。今回開発が予定された地域を東西に通る道がこの「霊仙寺道」である可能性がある。

現在、信濃町の霊仙寺集落の戸数は３戸である。この３戸は霊仙寺の僧らの生活を支えた「門前百姓」の名残とされている（信濃町文化財専門委員会，1985）。

最後に霊仙寺の読み方について説明する。霊仙寺山は「れいせんじやま」、霊仙寺湖は「れいせんじこ」、集落名としての霊仙寺は「れいせんじ」と読む。しかし、遺跡名としては「りょうぜんじ」である。これは信濃町文化財専門委員会（1985）に従っていて、ここには名称という項目の冒頭で「霊仙寺と書いて「りょうぜんじ」と読むのである」と記述されている。終戦の頃まで土地の人々は「りょうぜんじ」と読んでいたこと、及び、古文書で霊善寺山の漢字を当てているものがあることをその根拠としている。これに従って、遺跡名としては「りょ

表１　信濃町で発掘調査が実施された縄文時代早期の遺跡一覧（番号は図１に対応）

遺跡番号	遺跡名	調査年	草創期			早期												前期			文献
			隆起線文	爪形文	無文	表裏縄文	撚糸文	無文	沈線文	縄文	押型文（山形文）	押型文（楕円文）	押型文（格子目文）	押型文（平行線文）	押型文（綾杉状文）	押型文（異種文様）	条痕文	羽状縄文	半截竹管文	縄文	
30	貫ノ木遺跡	1993～1995	○			○	○	○	○		○	○	○				○	○	○		長野県埋蔵文化財センター(2000a)
39	東裏遺跡	1993～1995			○	○	○	○			○	○	○	○			○	○		○	長野県埋蔵文化財センター(2000a)
46	大平B遺跡	1994							○								○				長野県埋蔵文化財センター(2000a)
49	日向林A遺跡	1993～1995				○		○	○		○	○				○	○	○	○	○	長野県埋蔵文化財センター(2000a)
50	日向林B遺跡	1994															○	○	○	○	信濃町教育委員会(1995)
51	七ツ栗遺跡	1993～1995		○		○			○		○	○				○	○	○	○	○	長野県埋蔵文化財センター(2000a)
52	塞ノ神遺跡	1964					○	○	○	○	○	○				○					笹沢ほか(1966)
57	丸谷地遺跡(第1次)	1989															○				信濃町教育委員会(1994)
57	丸谷地遺跡(第4次)	1998				○		○	○	○	○		○	○			○				信濃町教育委員会(1999)
58	大道下遺跡(第1次)	1989						○		○	○	○	○				○				信濃町教育委員会(1994)
58	大道下遺跡(第4次)	1996				○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○			○	信濃町教育委員会(1997)
60	市道遺跡	1994～1995				○	○	○		○	○	○	○	○				○			信濃町教育委員会(2001)

うぜんじ」を使用しているのである。

C．縄文時代早期の遺跡について

今回の発掘調査により霊仙寺遺跡から多数の縄文時代早期の遺物を得ることができた。そのため、ここでは霊仙寺遺跡周辺の縄文時代早期の遺跡を概観することにした（図１）。信濃町の遺跡の分布については信濃町教育委員会（2003b）による信濃町の遺跡分布図をもとにし、新潟県側の遺跡の分布については新潟県埋蔵文化財調査事業団（2003）にもとづいて分布図を作成した。

新潟県側の縄文時代遺跡分布は妙高山の裾野の周辺部に集中する傾向があるが、妙高高原町田切から妙高村関山の間は遺跡密集が低い。この地域に大田切川火砕流堆積物が厚く堆積しているためという（新潟県埋蔵文化財調査事業団，2003）。関川及びその支流に沿って南北方向に遺跡の分布が見られる。上信越自動車道及び国道18号妙高野尻バイパス建設に伴って実施された発掘調査では、関川谷内遺跡（新潟県埋蔵文化財調査事業団，1996・2003）や大堀遺跡（新潟県埋蔵文化財調査事業団，1997a）、中ノ沢遺跡（新潟県埋蔵文化財調査事業団，1997b）で押型文土器・条痕文土器が出土している。

信濃町には現在までに50の遺跡が確認されている。野尻湖の西から南にかけての丘陵上に分布し、旧石器時代の遺跡と重なっていることが多い。

信濃町で縄文時代早期の遺跡が最初に発掘されたのは昭和39（1964）年で、塞ノ神遺跡で学術調査がおこなわれた（笹沢・小林，1966）。平成元（1989）年以降、町内で緊急調査が実施されるようになり、上信越自動車道建設や、国道18号野尻バイパス建設に伴う大規模な発掘調査が実施され（長野県埋蔵文化財センター，1998・2000a）、この時期の遺跡の調査例が増加した。発掘調査がおこなわれた遺跡と出土した土器の文様の関係を見ると（表１）、一つの遺跡で表裏縄文、撚糸文、押型文、沈線文、条痕文の文様をもつ遺跡が多い。縄文時代早期全般にわたる土器を組成していることが特徴といえよう。

D．古代の遺跡について

信濃町の平安時代の遺跡数は113登録されている（信濃町教育委員会，2003b）。信濃町の遺跡数が173であることから、町内の遺跡の中で約65％を占めており、平安時代の遺跡数が多いことがわかる。これまでに発掘調査がおこなわれ、遺構、遺物について報告されている遺跡については図３、表２にまとめた。仲町、丸谷地、大道下の遺跡で９世紀後半の住居址が確認されており、星光山荘B、貫ノ木、東裏、針ノ木、七ツ栗、丸谷地の遺跡においては10世紀から11世紀の平安時代後半の住居址が確認されている。

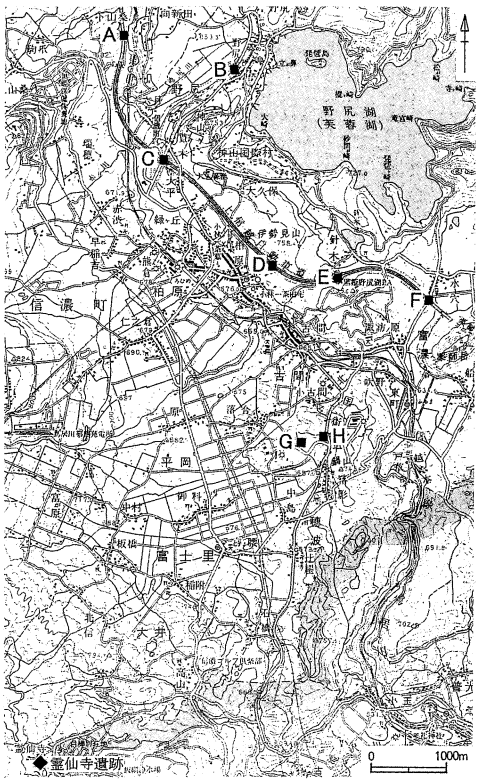


図３　信濃町で発掘調査が実施された古代の遺跡

表２　信濃町で発掘調査が実施された古代の遺跡一覧

記号	遺跡名	調査年	遺構	遺物	時期	文献
A	星光山荘B遺跡	1995(H7)	住居址1軒	土師器、黒色土器	平安時代中葉	県埋文セ,2000a
B	仲町遺跡	1991(H3)	住居址2軒	須恵器、軟質須恵器、土師器、黒色土器	9世紀後半	野尻湖人類考古グループ,1993
	仲町遺跡	1999(H11)	住居址2軒	須恵器、軟質須恵器、土師器、黒色土器、灰釉陶器	9世紀後半	町教委，2000
C	貫ノ木遺跡	1993(H5)～1995(H7)	住居址1軒	土師器、黒色土器	平安時代中葉	県埋文セ,2000a
D	東裏遺跡	1993(H5)～1995(H7)	住居址8軒 建物址1軒	須恵器、土師器、黒色土器、灰釉陶器	10世紀	県埋文セ,2000a
E	針ノ木遺跡	1994(H6)	住居址4軒	2軒…土師器、黒色土器、灰釉陶器	10世紀	県埋文セ,2000a
				2軒…土師器、黒色土器、灰釉陶器	11世紀	
F	七ツ栗遺跡	1993(H5)～1995(H7)	住居址7軒	須恵器、土師器、黒色土器	平安時代中葉～後葉	県埋文セ,2000a
G	丸谷地遺跡	1989(H1)	住居址1軒 掘立柱建物1軒	土師器、黒色土器、灰釉陶器	10世紀末	町教委，1994
	丸谷地遺跡	1998(H10)	住居址3軒	1軒…軟質須恵器、土師器、黒色土器、灰釉陶器	9世紀後半	町教委，1999
				2軒…土師器、黒色土器、灰釉陶器	10世紀末	
H	大道下遺跡	1996(H8)	住居址4軒	須恵器、軟質須恵器、土師器、黒色土器	9世紀後半	町教委，1997

第Ⅲ章　調査の方法

1．発掘調査

A．試掘調査の実施

平成14年度の試掘調査によって遺物が包含される範囲をほぼ把握していたが、ため池建設の位置が変更され、西側へ広がったことから、試掘調査未実施のところでは最初に試掘調査を実施し、遺構、遺物が確認できた場合、そこを中心に周辺を拡張していくという方針をとった。試掘調査は1.5×0.8mのトレンチ（TP（テストピットの略）の記号で表す）を10m前後の間隔で配置しておこなった（図５）。ただし、立木があって発掘できる場所が限られていたため、トレンチとトレンチの間隔は一定にはなっていない。トレンチは手掘りによって掘り下げ、遺構、遺物の確認をおこなった。

B．グリッドの設定

グリッドは、国家座標を基準として大区画と小区画の２段階に区分して設定した。大区画は40m×40mとし、それを開発地に東西方向に４列、南北方向に３列設定し、北西の区画から大文字のアルファベットをAから順に付けた（図４）。１つの大区画の中を５m×５mの小区画で区切り、東西方向は西から大文字のアルファベットでA～Hとし、南北方向は北から１～８の数字をつけた（図５）。よって小区画の呼称はA-A-1、A-A-2…とし、遺物はこの小区画単位で通し番号を付けて取り上げをおこなった。現場では遺物の分布が広がると予想された場合は調査区を拡張したが、拡張にあたってはグリッドの杭を基準におこなった。このように拡張していった結果、最終的な発掘範囲は図５のようになった。広範囲に調査したのは３ヵ所となり、便宜的に西調査区、東調査区、南調査区と呼ぶことにした。なお、西調査区と東調査区の間は削平されて道路がつくられていたため、調査は不要と判断し、未調査地となっている。

C．遺物の取り上げ

出土した遺物は小区画ごとに通し番号を付け、グリッドを設定した杭を基準として水糸を張り、手測りにより、20分の１の縮尺で方眼紙に位置を記録した。さらに遺物の種類と出土層準を記録した後、オートレベルにて遺物の出土標高を測定し、１点ずつ取り上げ、ラベルとともに遺物をビニール袋に入れていった。

2．整理作業の方法

遺物は水洗いの後、ポスターカラーの白色を用いて筆で注記をおこなった。注記番号は例えば03RZ・B・D7-29のように付けた。03は発掘した年の2003年を表し、RZは霊仙寺遺跡の略号である。続くアルファベットは大区画、二番目のアルファベットと次の数字は小区画を表し、最後の数字は小区画内の遺物の通し番号を表している。注記したのち、上にラッカーを塗った。次にすべての遺物を土器、石器、礫などに分別した。さらに土器は文様ごとに分類した後、接合作業をおこない、図化するものを抽出して、拓本及び実測図の作成をおこなった。図化した土器は観察結果を表にまとめた。石器は石材ごとに分類し、接合作業をおこなった後、図化するものを抽出して、実測図の作成をおこなった。図化した石器は観察結果を表にまとめた。遺物の写真は実測図に則して撮影した。

遺物の収納は図版に掲載したものは原則として図の順番に標本箱に入れた。図化しなかったものは、接合作業の段階で分類した状態で収納した。現場の図面類はＡ３判の図面箱１箱に収納した。35mmカラーネガフィルムで撮影した写真は撮影順にファイルに整理し、ネガフィルムとともに収納した。デジタルカメラで撮影した写真はCD-Rに保存し、インデックスとともに収納した。

第Ⅳ章　発掘調査の概要

1．調査地周辺の地形と層序

調査地は西から東へ下る傾斜地に位置し、西端から東端の間は約60mあり、高低差は約５mある。

柱状図の土層の注記は図６に示した。信濃町は西に飯縄、黒姫、妙高の火山が連なるため、風成の土層は火山灰土の堆積によって形成されている。野尻湖周辺の多くの遺跡の調査から町内の遺跡の層序と文化層の関係を示した野尻湖人類考古グループ（1994）の層序を基準とし、それと対比しながら土層を説明すると、まず、野尻湖周辺の風成層は地表下に黒色～黒褐色の風化火山灰層があり、［柏原黒色火山灰層］と呼ばれている。その下位に柏原黒色火山灰層と暗褐色の風化火山灰層が混在する［モヤ］がある。モヤは［モヤ上部］と［モヤ下部］に分けられている。さらに下位には黄褐色の風化火山灰層があり、上部野尻ローム層Ⅱとされていて、［上Ⅱ上部上面］、［上Ⅱ上部］、［上Ⅱ下部］［上Ⅱ最下部］に分けられている。

霊仙寺遺跡の土層の柱状図は図７～８に示した。Ⅰ層は表土で、地表面の草の根が入り込む地表下概ね10cmまでの範囲である。Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅵ層、Ⅶ層、Ｘ層は［柏原黒色火山灰層］に対比される層準である。Ⅱ層は表

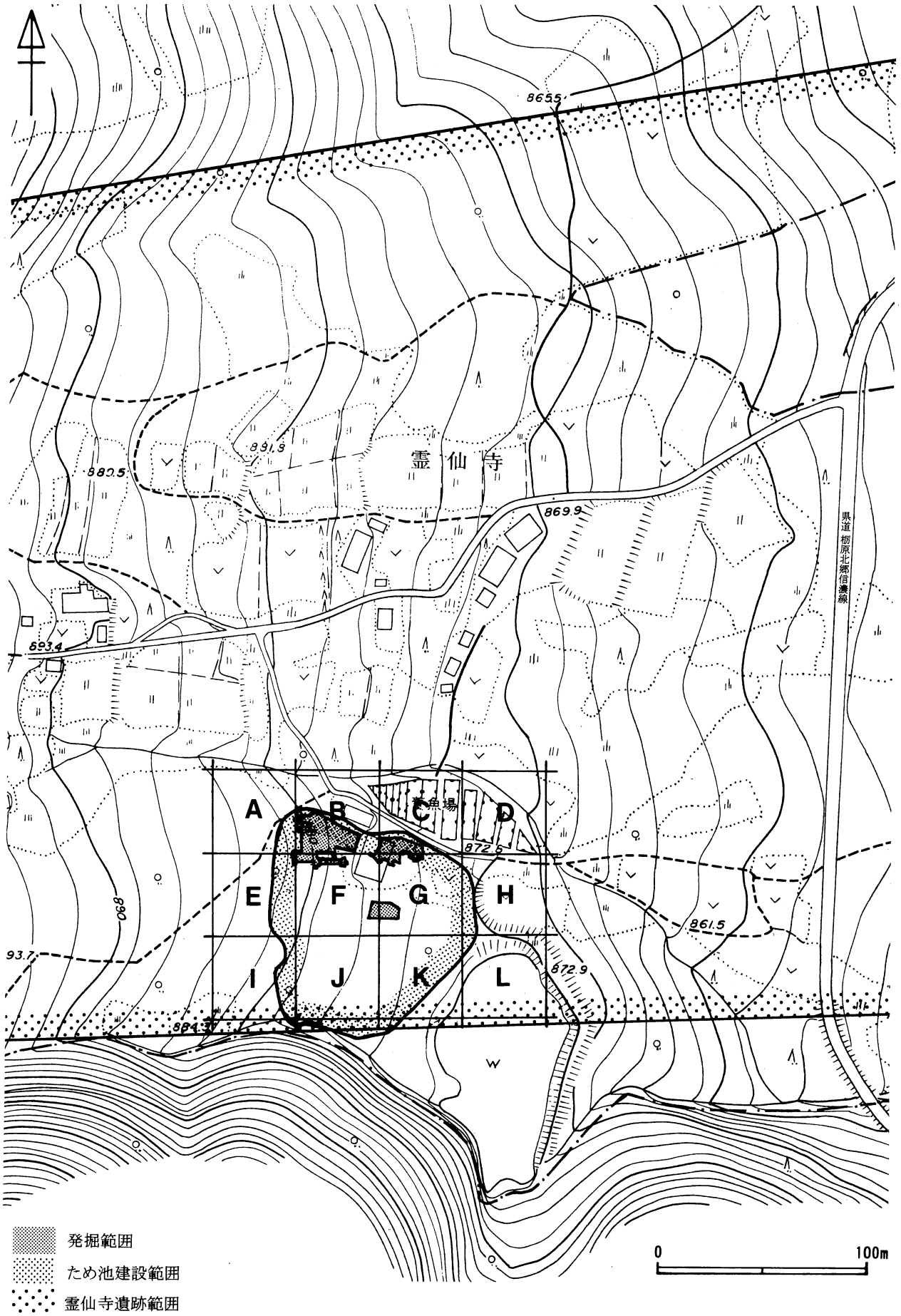


図4　霊仙寺遺跡の範囲と調査地の位置及びグリッドの設定

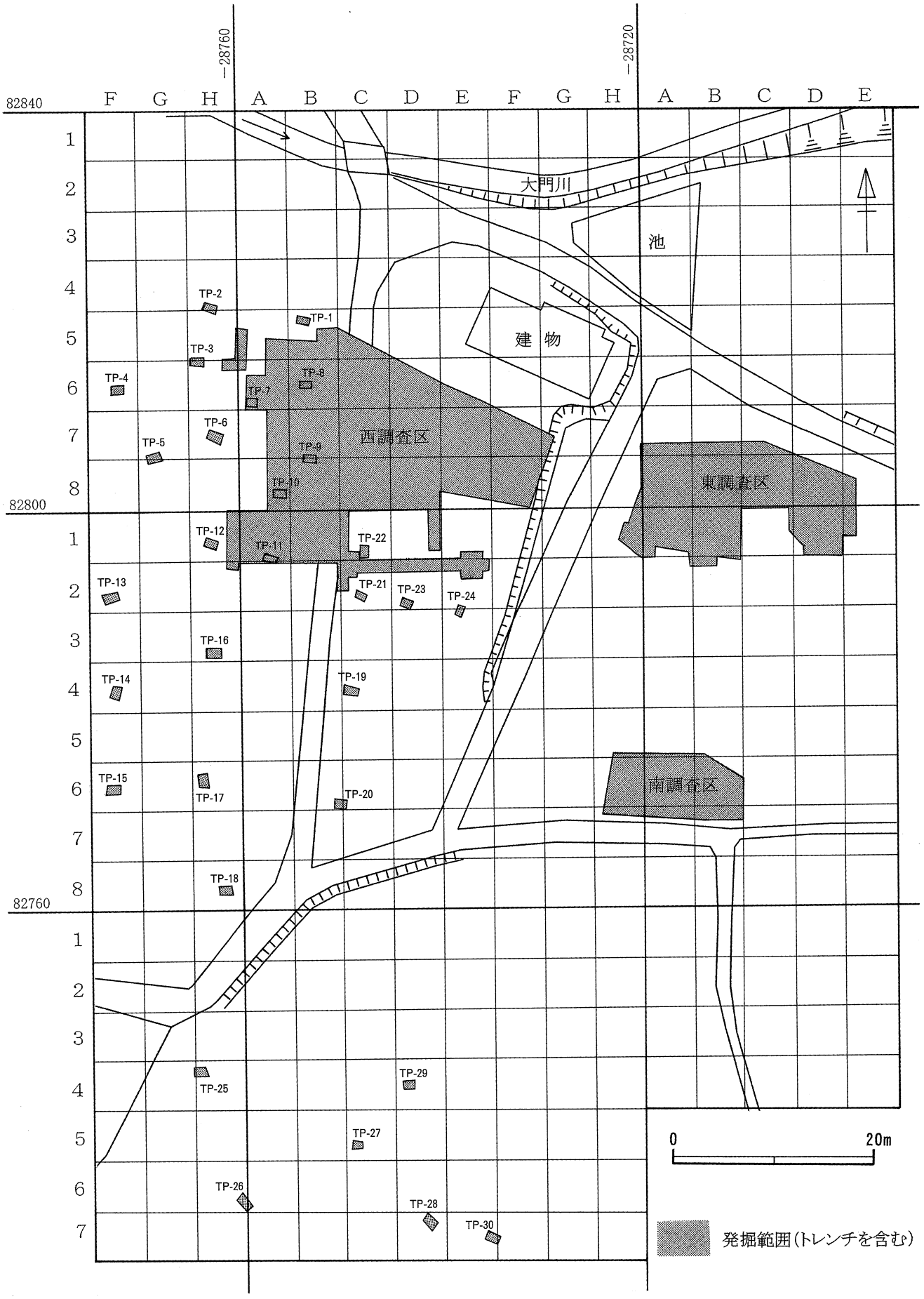


図5　調査区と試掘トレンチ（ＴＰ）の位置

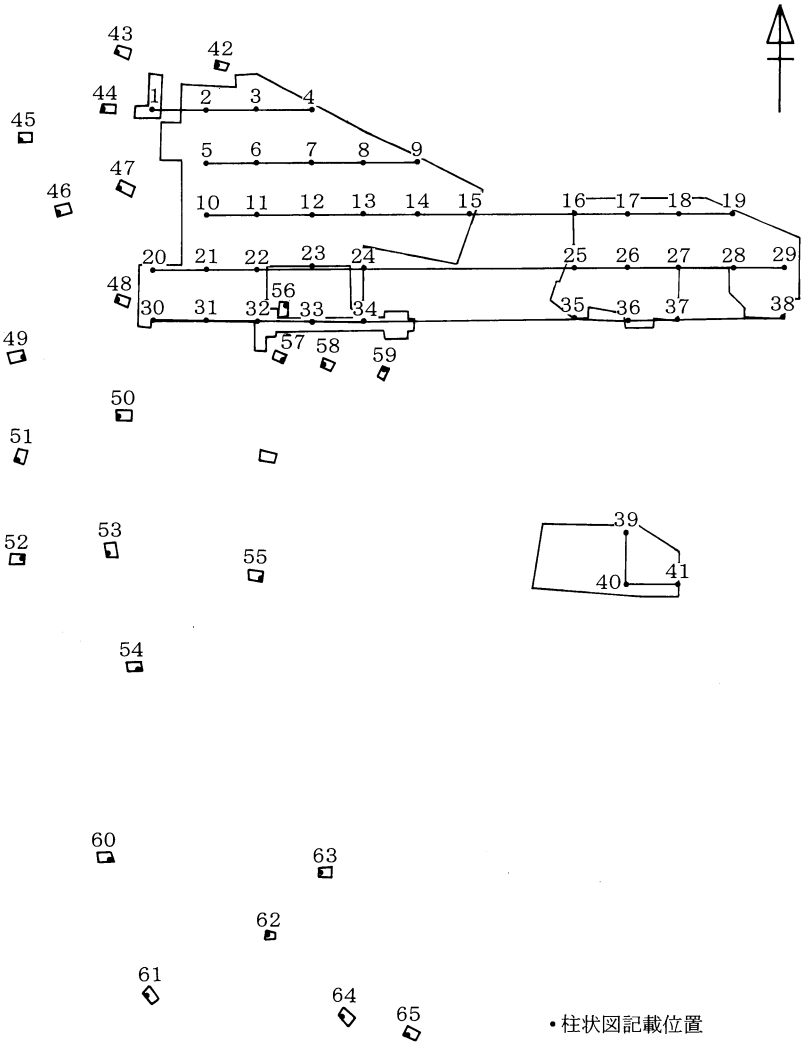
土の下位の地層で調査区内ほぼ全体に分布する。Ⅲ層はⅡ層の下位にあり、Ⅱ層に比べてしまりがある。調査区内ほぼ全体に分布する。Ⅵ層はⅢ層よりも上位にあり、Ⅱ層と同層準と考えられるが、色の違いによって分けた。東調査区に分布する。Ⅷ層は炭を多く含んでおり、炭焼きの遺構の可能性があるが、遺構の確認はできなかった。TP-14にのみ分布している。Ⅹ層はⅡ層の下位にあり、Ⅲ層と同層準と思われるが、色がやや赤化している。Ⅳ層、Ⅷ層、Ⅸ層は［モヤ］に対比される層準で、褐色がかった色を呈する。Ⅳ層は調査区のほぼ全体に分布する。Ⅷ層はTP-17にのみ分布し、礫を多く含む。Ⅸ層はⅣ層よりも色が明るく、TP-27でのみ確認した。Ⅴ層は上部野尻ローム層に相当する。調査地全体では［上Ⅱ上部］相当を発掘したところで、Ⅴ層からの遺物が出土しなかったことから、それよりも下位までの掘り下げはおこなわなかった。

遺物と出土層準の関係は表3に示した。Ⅰ～Ⅴ層から遺物が出土しており、特にⅡ、Ⅲ層の［柏原黒色火山灰層］に相当する層準から多数の遺物が出土した。縄文土器はおよそ8割がⅢ層から出土し、石器はおよそ6割がⅡ層から出土している。縄文土器と石器は同時期の所産と考えられるが、出土層準と出土点数の関係には相違が見られる。この違いは縄文土器と石器の分布範囲が異なることや、重量の軽い石器がやや上位に移動した可能性が考えられる。土師器と黒色土器はおよそ9割がⅡ層から出土している。Ⅳ層、Ⅴ層から出土した遺物は少数で、これらの層準は遺物包含層とは考え難く、上位の地層から入り込んだものと考えておきたい。このような状況からⅡ層が古代の遺物の包含層で、縄文時代の遺物包含層は概ねⅢ層と考えられる。

2．遺構と遺物の出土状況

遺構を検出するため精査に努めたが、遺構は検出できなかった。

遺物は898点出土した（表4）。調査区別に出土点数を見ると、西調査区が729点で全体の81％を占めている。次が東調査区の128点で、全体の14％である。南調査区は20点で、全体の2％である。内訳を遺物の中に占める古代の土器（土師器＋黒色土器）の割合で見ると、西調査区は19点でおよそ3％であるのに対し、東調査区は86



Ⅰ：表土
Ⅱ：黒褐色土(Hue5YR2/2)
粘性なし、しまり弱い
［柏原黒色火山灰層］
Ⅲ：黒褐色土(Hue5YR2/1)
粘性ややあり、しまりあり
［柏原黒色火山灰層］
Ⅳ：黒褐色土(Hue10YR3/2)
粘性ややあり、しまりあり
［モヤ］
Ⅴ：黄褐色土(Hue10YR5/6)
粘性あり、しまりあり
［上Ⅱ］
Ⅵ：暗赤褐色土(Hue5YR3/2)
粘性なし、しまりあり
［柏原黒色火山灰層］
Ⅶ：赤黒色土(Hue7.5R1.7/1)
粘性なし、しまり弱い
炭を多く含む、炭焼きなどによる焼土か
［柏原黒色火山灰層］
Ⅷ：褐色土(Hue10YR4/4)
粘性あり、しまり弱い
直径10cm以上の礫を多く含む、
二次堆積土と考えられる
［モヤ］
Ⅸ：暗褐色土(Hue7.5YR3/4)
粘性あり、しまりあり
［モヤ］
Ⅹ：極暗赤褐色土(Hue7.5R2/2)
粘性あり、しまりあり
［柏原黒色火山灰層］

図6　柱状図を記載した位置と土層の注記

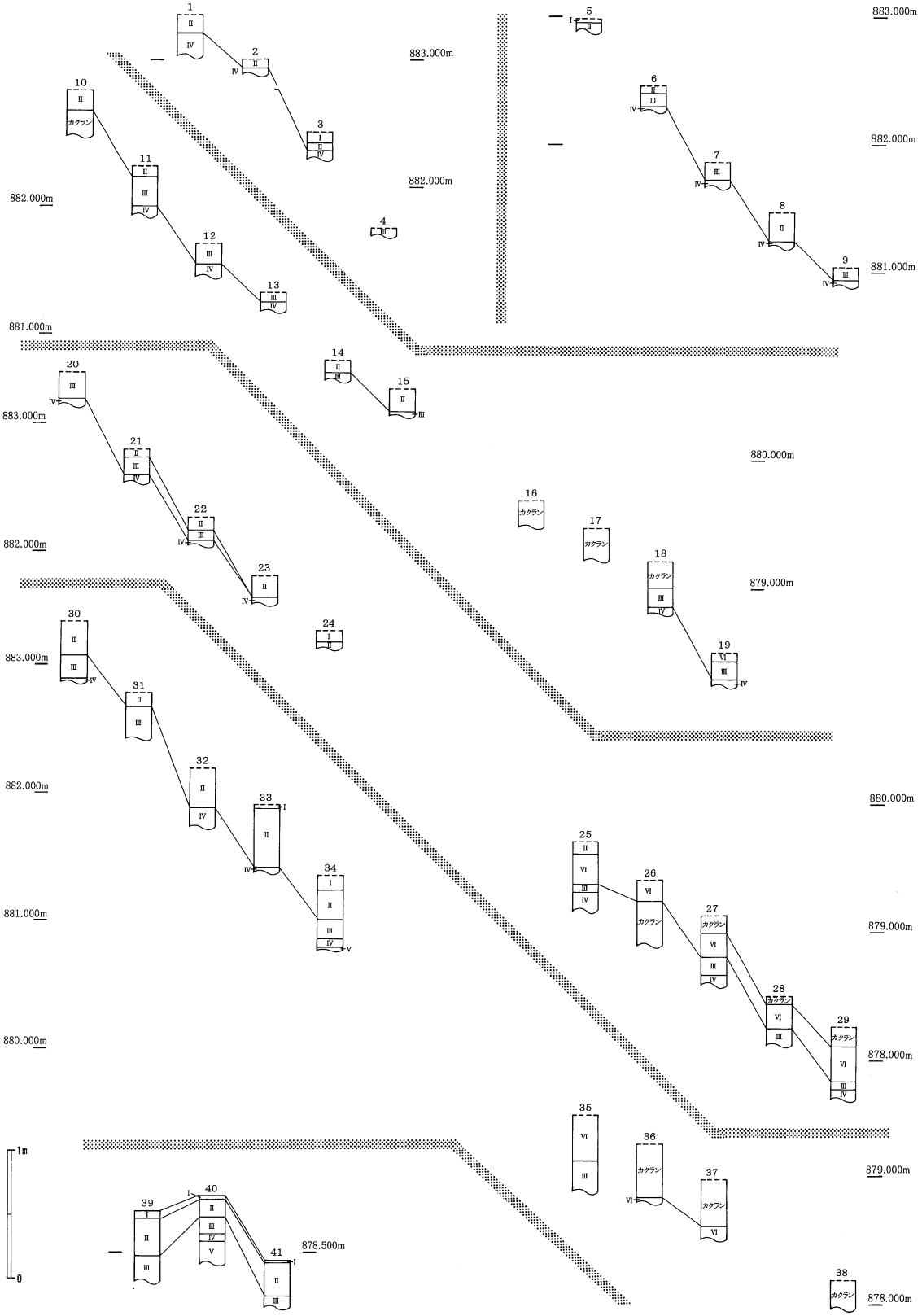

883.000m
882.000m
881.000m
880.000m
879.000m
878.500m
878.000m
1m
0

図 7　柱状図(1)

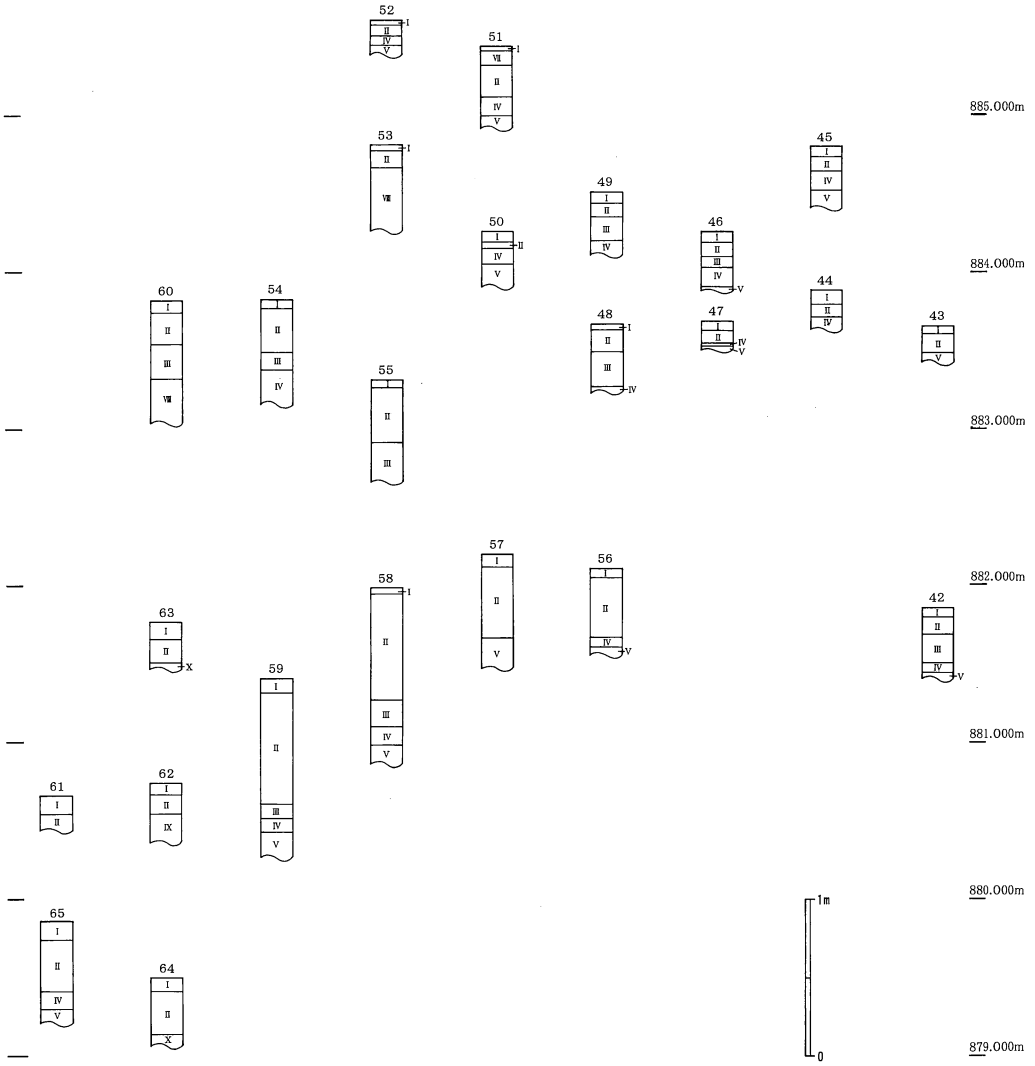


図 8　柱状図(2)

表 3　層準別出土点数

	縄文土器	石器	礫	土師器	黒色土器	陶器	磁器	鉄	合計
Ⅰ層		5	1						6
Ⅱ層	102	118	18	59	38	6	2		343
Ⅲ層	407	66	36	10	1	2		1	523
Ⅳ層	7	5	3			1			16
Ⅴ層			1						1
撹乱		2	1	1	1	1		1	7
不明	1			1					2
合計	517	196	60	71	40	10	2	2	898

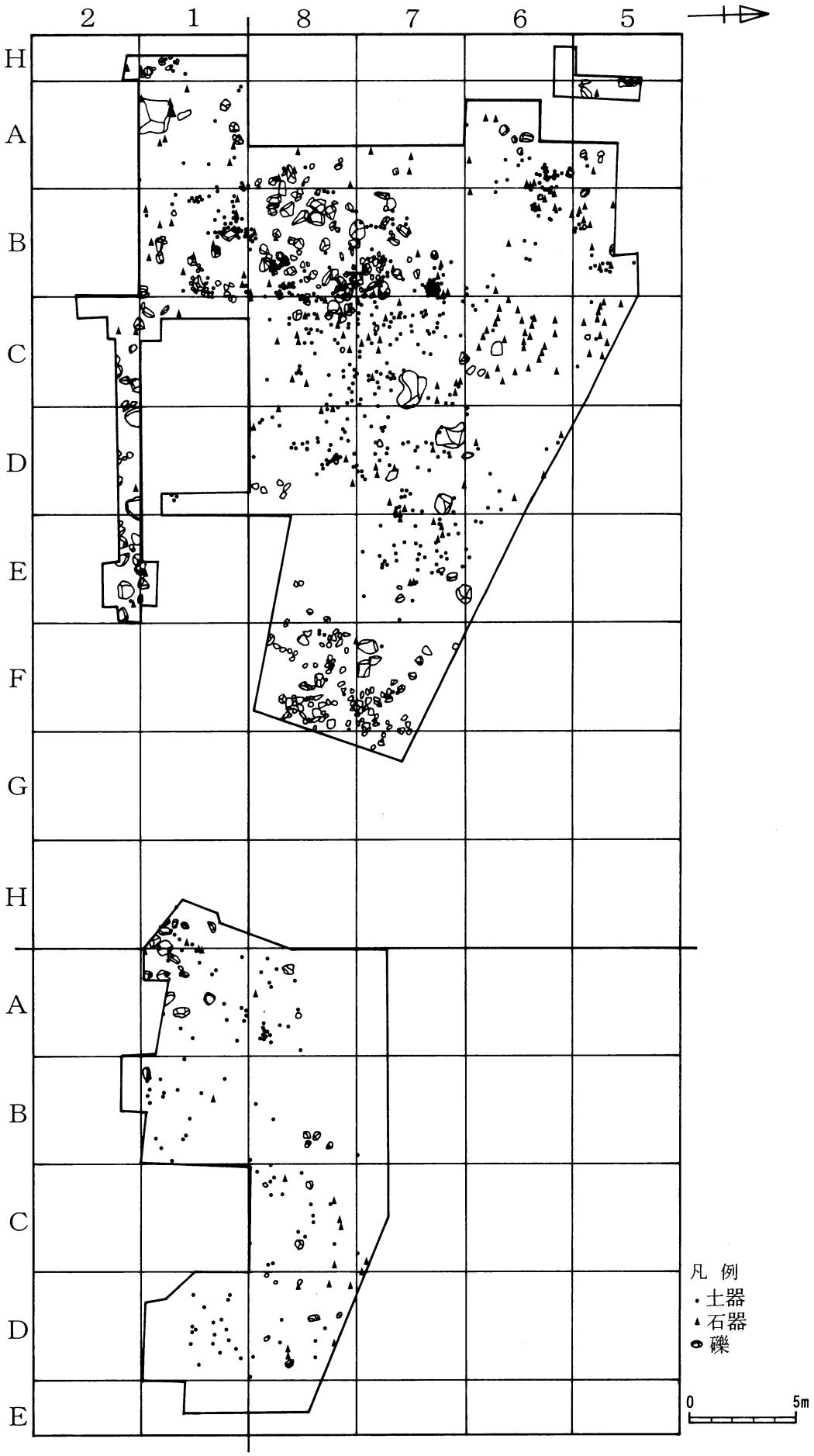


図9　全出土遺物の分布

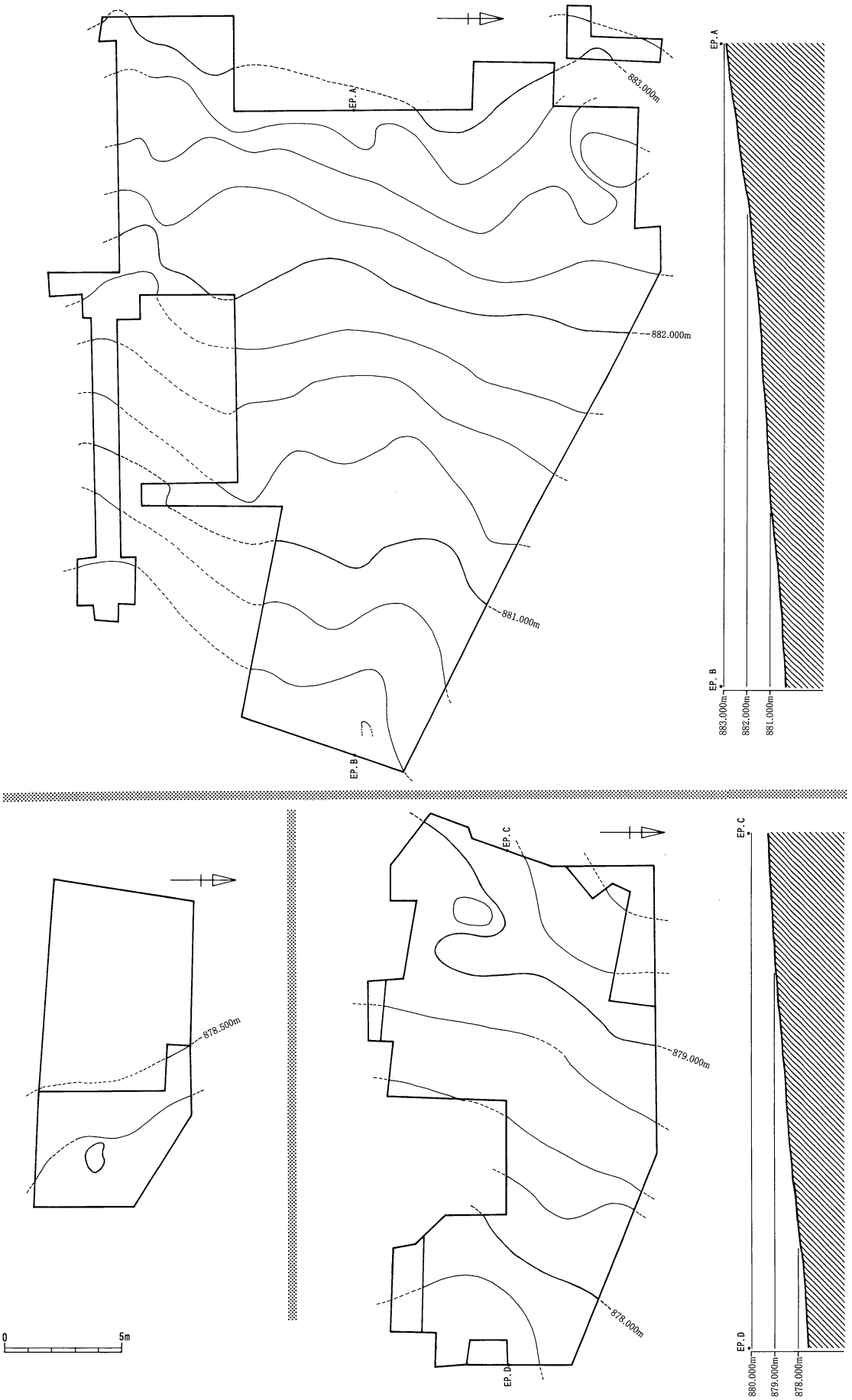


図10　調査区の地形（柏原黒色火山灰層下底面）

表4　調査区別出土点数

	縄文土器	石器	礫	土師器	黒色土器	陶器	磁器	鉄	合計
西調査区	477	170	51	18	1	8	2	2	729
東調査区	21	17	2	47	39	2	0	0	128
南調査区	13	1	1	5	0	0	0	0	20
TP-1	1	0	0	0	0	0	0	0	1
TP-7	0	2	0	0	0	0	0	0	2
TP-8	1	0	1	0	0	0	0	0	2
TP-9	1	0	1	0	0	0	0	0	2
TP-10	1	3	4	0	0	0	0	0	8
TP-12	0	1	0	0	0	0	0	0	1
TP-22	0	1	0	0	0	0	0	0	1
TP-24	1	1	0	0	0	0	0	0	2
表採	1	0	0	1	0	0	0	0	2
合計	517	196	60	71	40	10	2	2	898

点でおよそ67%、南調査区は5点で25%である。このことから、縄文時代の遺物分布の中心は西調査区にある一方、古代の土器の分布の中心は東調査区にあることがわかる。

西調査区には多数の礫が分布している（図9）が、これらは配置や大きさに規則性などは認められず、加工の痕跡も見られなかった。礫の分布は西調査区内で見られる溝状の地形（図10）とほぼ一致することから、これらの礫は自然流路に沿って、自然状態で集積したものと思われる。土器の分布もこの溝状地形の方向に概ね一致し、礫の間にも土器が入り込んでいる。土器は小破片が多く、一辺の長さが7cm程の土器片が最大という状況である。傾斜地のため、埋積過程で雨水の影響などを受けて土器が割れ、さらに風化したものと推測できる。

東調査区は西調査区に比べて傾斜が緩やかで、自然礫の数は少ない。また、西調査区に比べて遺物の分布密度は高くなく、散漫な分布状況である。特に北西側では遺物が少ない状況が見られる。

南調査区では東側に土器片がややまとまって出土した。

第Ⅴ章　縄文時代

1．縄文時代早期の土器

A．分　類

土器の分類は文様によっておこなった。まず縄文時代早期と中期に属するものとに大別し、早期はさらに文様の特徴をもとに3段階で分類した（図11）。まず、群として、Ⅰ群を押型文、Ⅱ群を沈線文、Ⅲ群を条痕文、Ⅳ群を縄文、Ⅴ群を無文とした（分類1）。それぞれ群の中を細分し、Ⅰ群1類を山形文、2類を楕円文、3類を格子目文、4類を平行線文、5類を異種文様並列とした（分類2）。さらにその中を細かい文様の特徴をもとに分類した（分類3）が、それについては個別に後述する。Ⅱ群は1類を細沈線文、2類を太沈線文とした。Ⅲ群は絡条体圧痕文があるものを1類、ないものを2類とした。Ⅳ群は縄文が施文された土器、Ⅴ群は無文土器とし、この二者については細分はおこなわなかった。

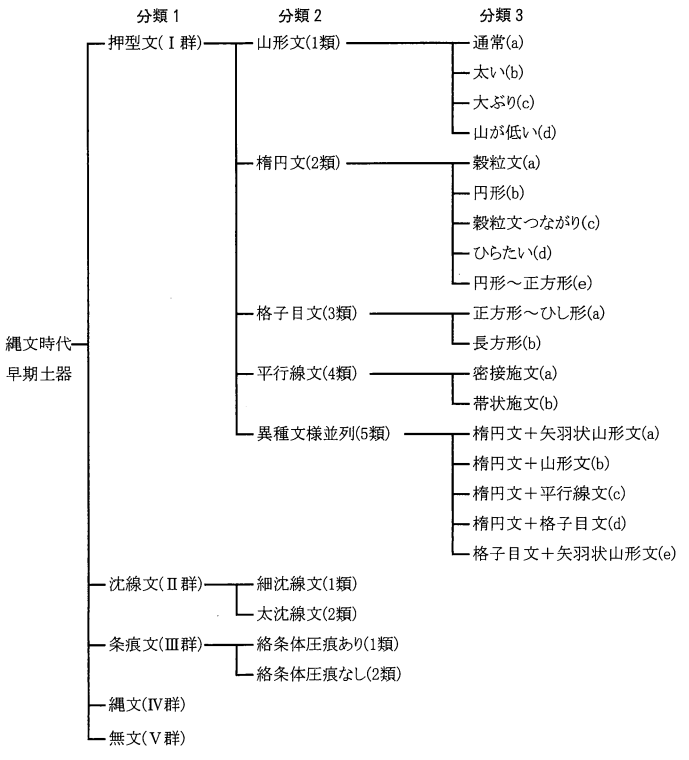


図11　縄文時代早期土器の分類図

B．概　要

縄文土器は517点出土した（表5）。この内、無文土器を除き、縄文時代早期の土器は293点で、内訳は押型文が166点、沈線文が83点、条痕文が24点、縄文が20点である。文様のない土器は無文土器として一括し、それ以上の分類を

表５　縄文土器の文様別出土点数

縄文土器の文様別点数	総数	押型文	沈線文	条痕文	縄文	沈線(中期)	無文
	517	166	83	24	20	8	216
		32.1%	16.1%	4.6%	3.9%	1.5%	41.8%

縄文時代早期(無文土器を除く)土器の文様別点数	総数	押型文	沈線文	条痕文	縄文
	293	166	83	24	20
		56.7%	28.3%	8.2%	6.8%

押型文の文様別出土点数	総数	山形文	楕円文	格子目文	平行線文	異種文様並列
	166	14	72	7	34	39
		8.4%	43.4%	4.2%	20.5%	23.5%

おこなわなかった。無文土器は216点である。また、縄文時代中期の土器は８点である。

押型文土器は縄文土器全体の32.1%、縄文時代早期の土器の中では56.7%を占めている（表５）。次に多いのは沈線文で、次は条痕文の順となっている。押型文の文様別の出土点数を見ると、楕円文が43.4%と最も多く、次に異種文様並列、平行線文の順となっている。

土器の胎土や繊維痕の有無、器壁の厚さ、土器表面の色調が文様と密接に関係していることから、観察した内容を表にまとめた（表６）。特に胎土では２mm以上の水晶の結晶が目だつものは石英（qt）と分離し、胎土欄に水晶と記した。また、同様に２mm以上の小レキを高い割合で含んでいるものは、レキと記録した。

C．分布状況

第Ｉ群１類（Ｉ－１と表す。以下、同じ）の山形文の分布（図12）は西調査区の中央付近に東西方向の帯状にみられる。これは先に指摘した溝状の地形の影響を受けた分布と考えられる。Ｉ－２の楕円文の分布（図13）は西調査区の中央を中心にまとまりをもって分布している。Ｉ－３の格子目文の分布（図14）は少数が散漫に分布する状況である。Ｉ－４の平行線文の分布（図15）は西調査区の中央付近に東西方向に広がっており、溝状の地形の影響を受けたものと考えられる。Ｉ－５の異種文様を並列するものも溝状の地形に影響を受けていると考えられ、東西方向の分布（図16）が見られる。第Ⅱ群の沈線文土器の分布（図17）は、南北方向に広がりをもつ。第Ⅲ群の条痕文の分布（図18）は少数の個体が散漫に分布する状況である。南調査区にも２点出土している。第Ⅳ群の縄文の分布（図19）は少量であるが、西調査区の北西コーナーにまとまりが見られた。第Ⅴ群の無文土器の分布（図20）は、西調査区の全体と東調査区の西半分、南調査区の東半分に広がっている状況が見られた。

全体的に遺物は地形の影響を受けて分布している状況が見られ、遺物の分布からは遺跡の性格等の特徴を見出すことはできなかった。

縄文時代中期の沈線文の分布（図22）は西調査区の南西側でまとまって見つかり、これらは同一個体である可能性が高い。

D．土　器（図23～30）

Ｉ群は押型文土器群とし、それをさらに文様の種類によって１類から５類に細分した。１類は山形文のみが施されている土器である。さらに文様の形状や大きさなどからａ～ｄに分類した。ａは通常の山形文としたもので、文様の一つの山の幅が７mm前後、高さ５mm前後で、線の太さが１～1.5mmのものである。１～５がこれにあたり、この内、１～３は横位の帯状施文である。１は口唇部に山形文が施文されている。ｂはａに比して文様の線の幅が太いもので、線の太さが２mm以上ある。６～10がこれにあたる。８には横位と縦位の施文が見られる。ｃはａに比して文様が大ぶりで、一つの山の幅が10～12mm、高さが７mm前後である。11～13の３点で、12には二本の平行線があり、重層の山形文となっている。ｄはａに比して山形の高さが低いもので、14の１点のみである。一つの山の高さが２mm前後である。この土器には内外面に施文がされており、外面には横位帯状、内面には縦位帯状の山形文が施されている。胎土は繊維痕があるものとないものがあり、概ね帯状施文の土器には繊維は混入されていない。この違いは時期差によるものと考えられる。

２類は楕円文が施文された土器を一括した。無文帯のあるものが帯状施文と考えられるが、６点にとどまった。しかし、土器片の多くが小片であるため、帯状施文の土器を密接施文と見誤っている可能性もあり、厳密にそれらを分類することは困難と思われる。それでも無文帯をもつ土器片の割合が低い傾向にあることには変わりがなく、密接施文の割合が大きかったと考えられる。ａは楕円の形状が穀粒状のものを一括し穀粒文としたもので、15～58の44点を図化した。15、16は口縁部でゆるやかに外反している。16は口唇部が厚く、外側へ張り出している。全体に施文の方向は横位であるが、底部付近では縦位や斜位の施文がみられる。器壁は８mm前後でほぼ一定である。ｂは楕円の文様が円に近いもので、59、60の２点である。ｃは隣り合う楕円の文様がつながっているもので、61、62の２点である。ｄは楕円の文様が穀粒文としたものよりも相対的に平たいもので、63～73の11点である。他に比して器壁が薄く、５～６mmのものが多い傾向が見られる。ｅは楕円の文様が正方形に近いもの

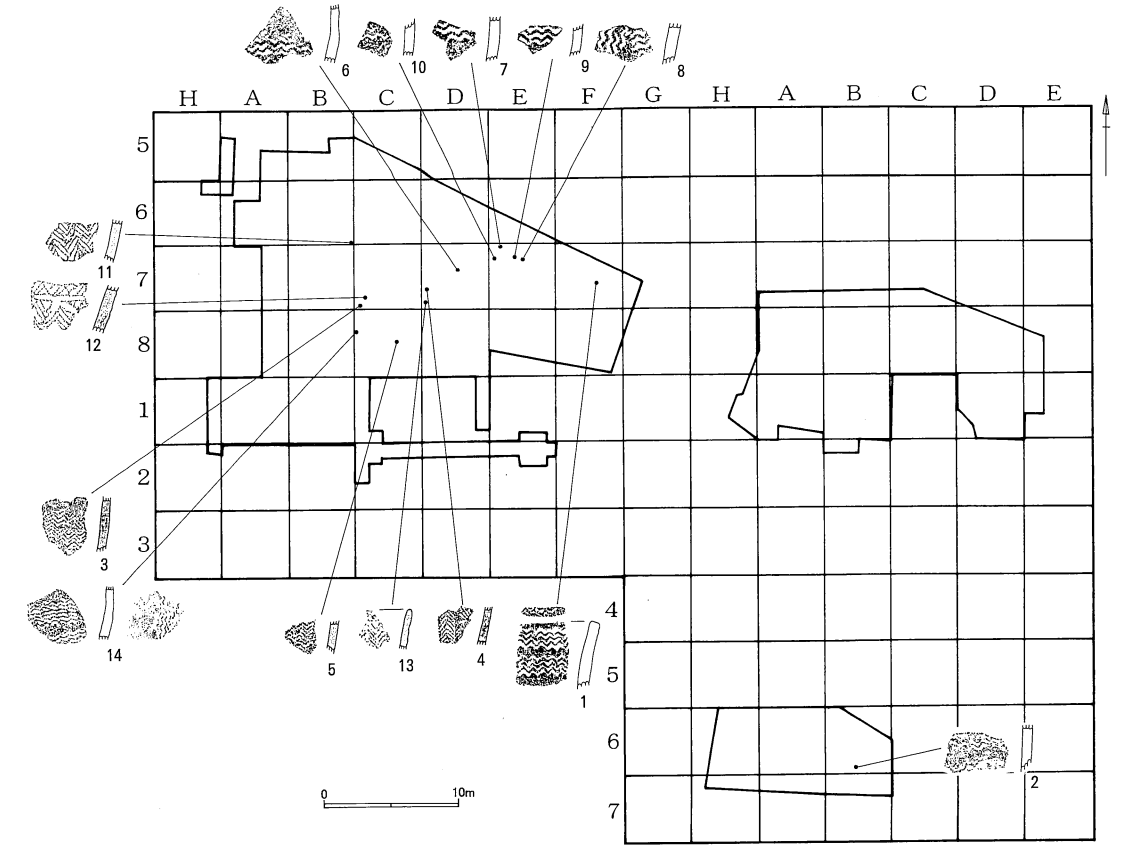


図12　縄文土器の分布（山形文）

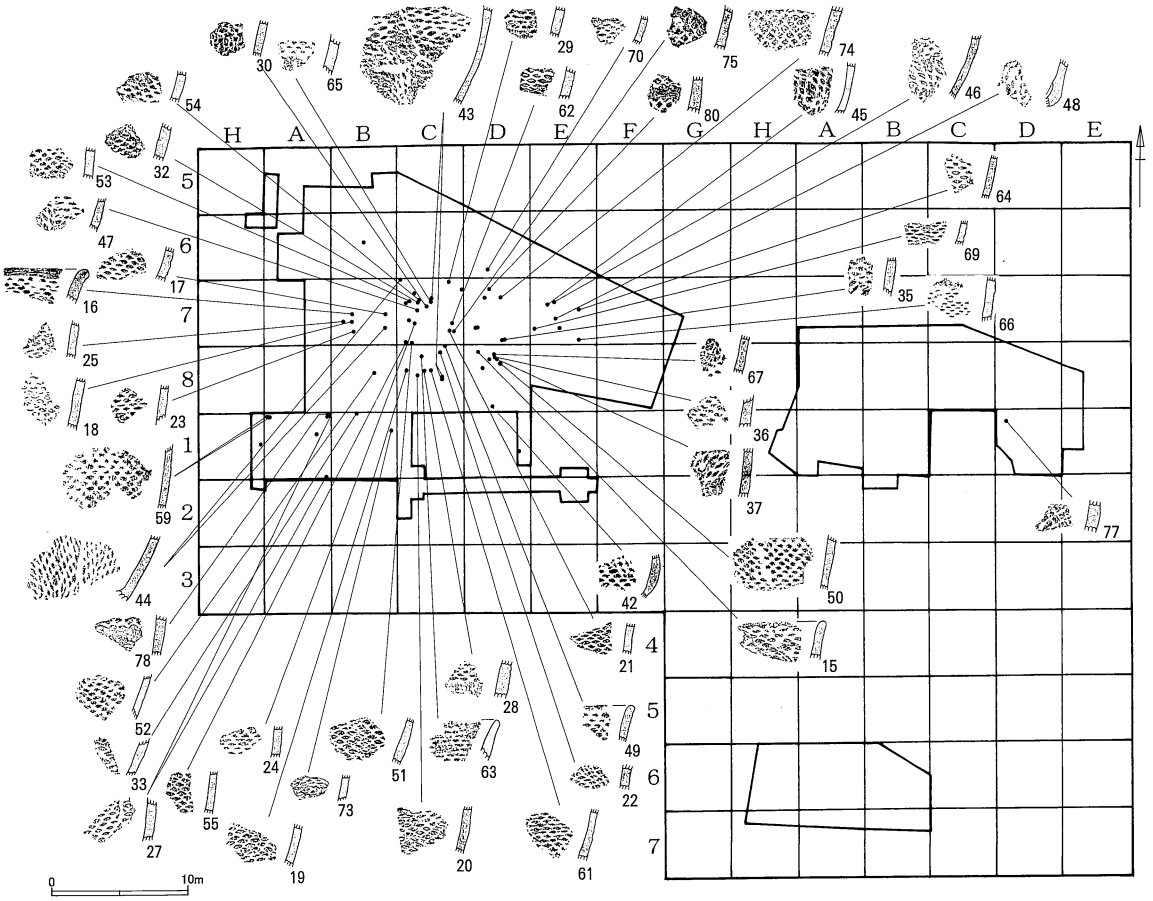


図13　縄文土器の分布（楕円文）

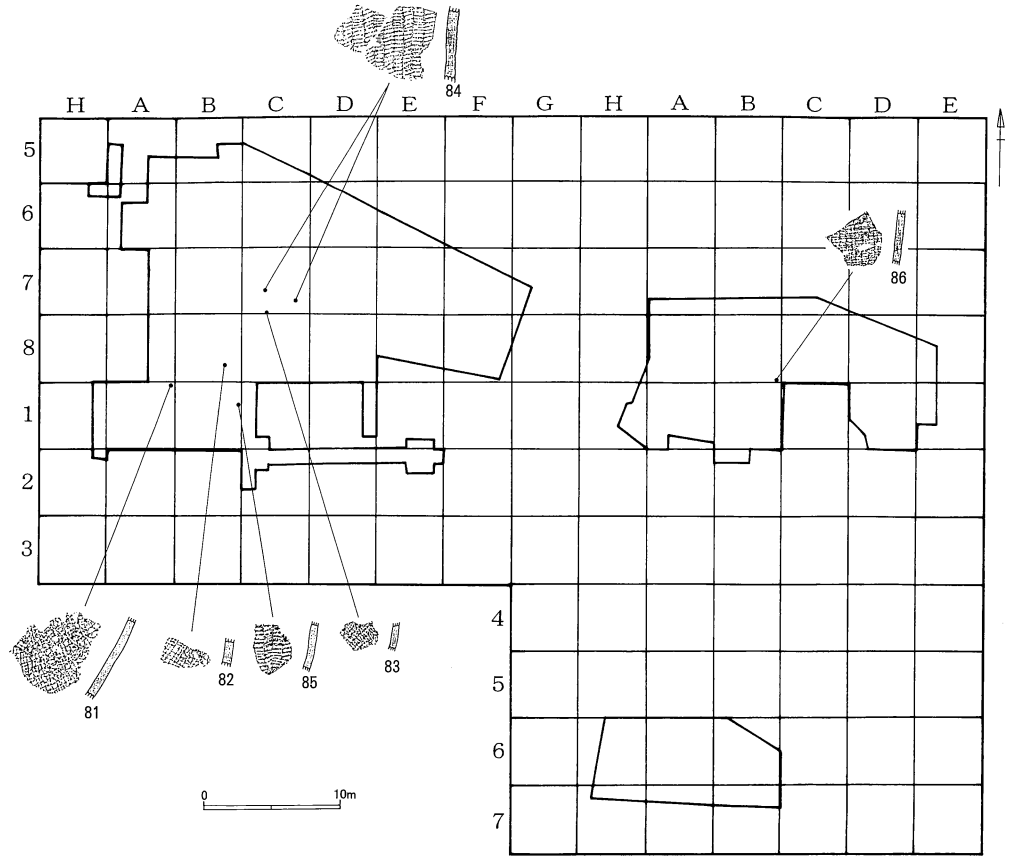


図14　縄文土器の分布（格子目文）

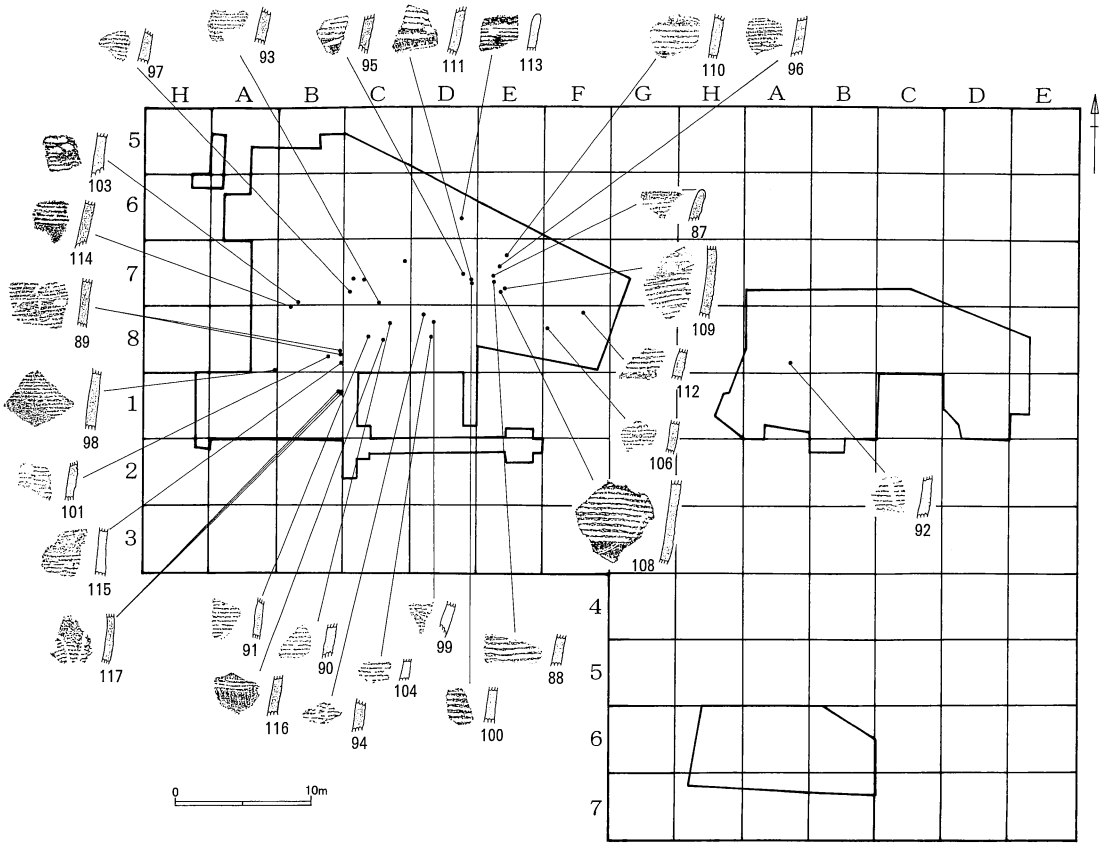


図15　縄文土器の分布（平行線文）

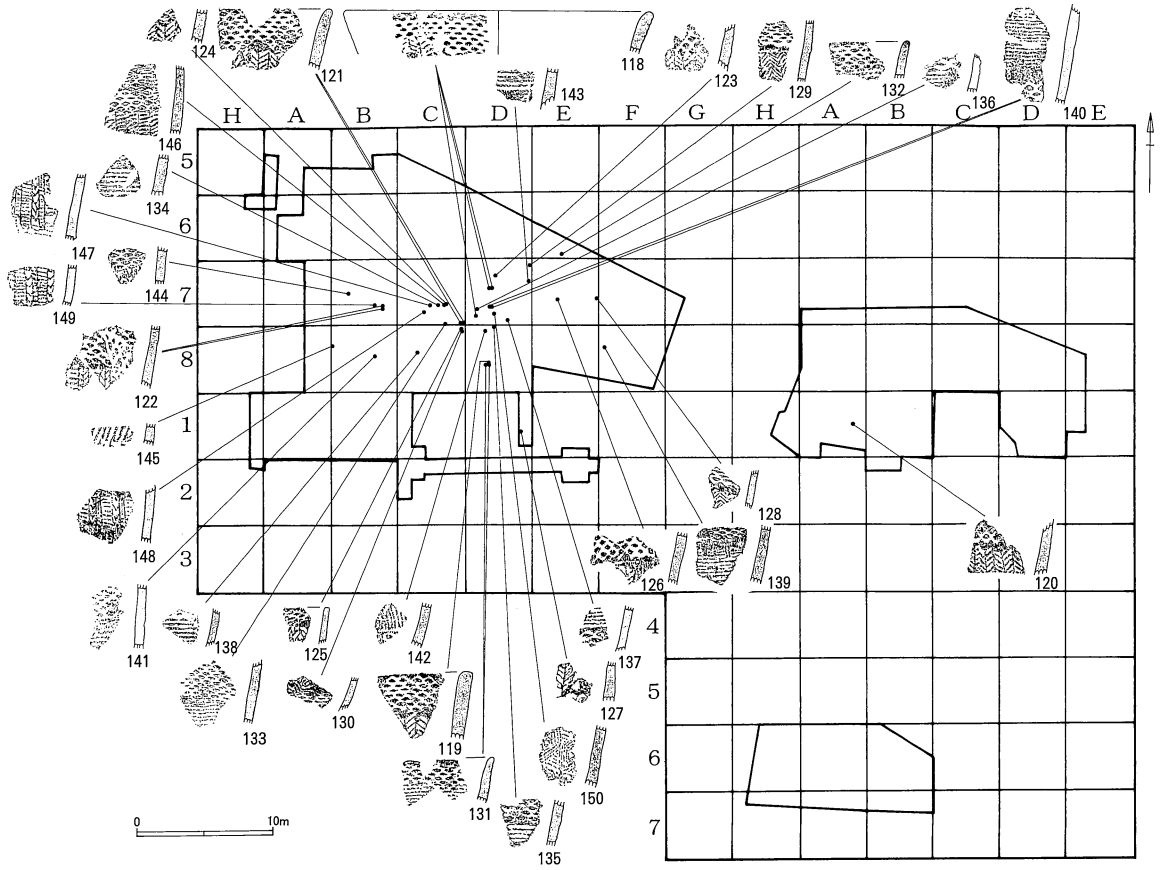


図16　縄文土器の分布（異種文様並列）

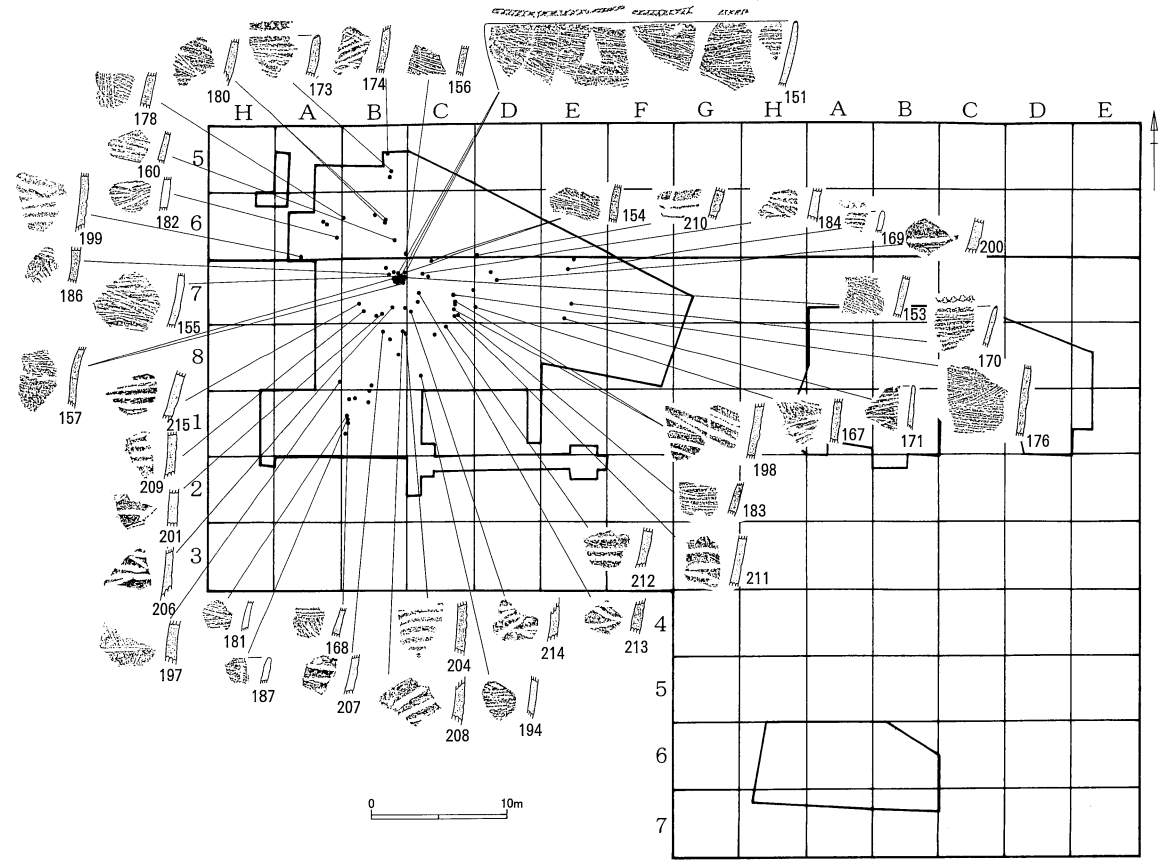


図17　縄文土器の分布（沈線文）

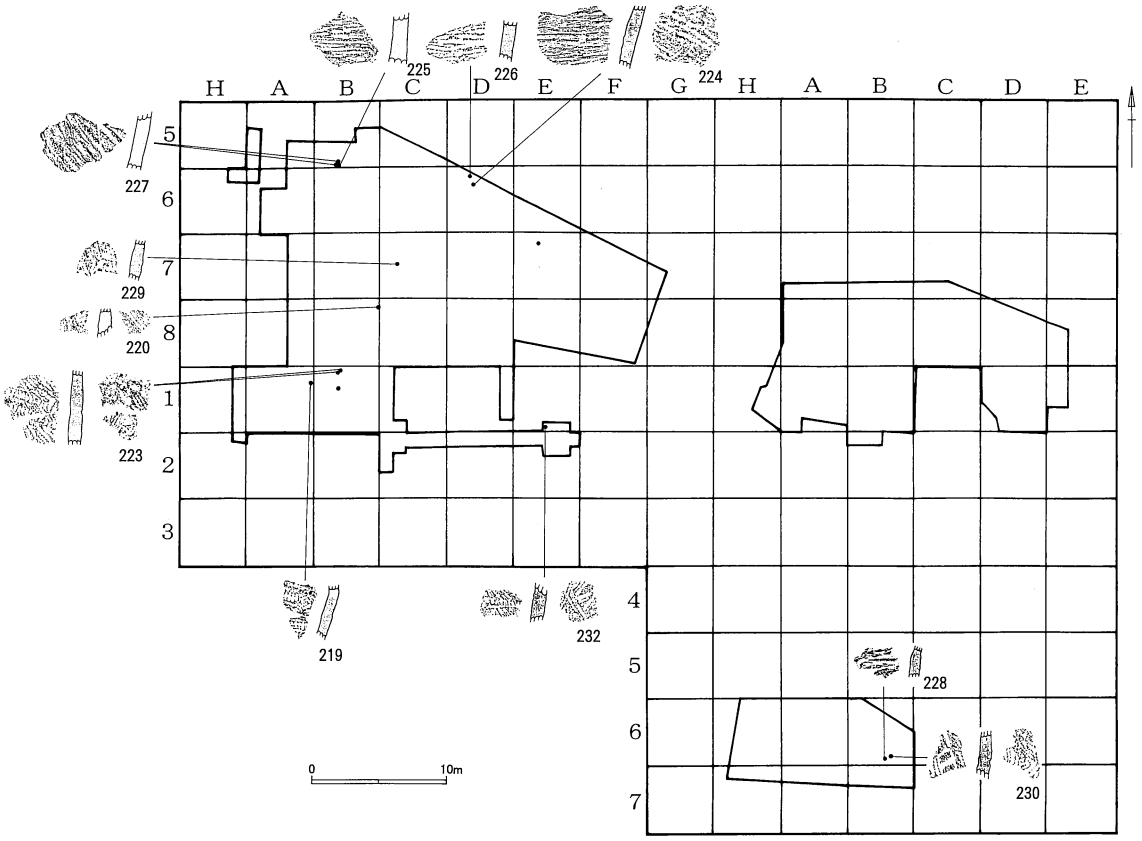


図18　縄文土器の分布（条痕文）

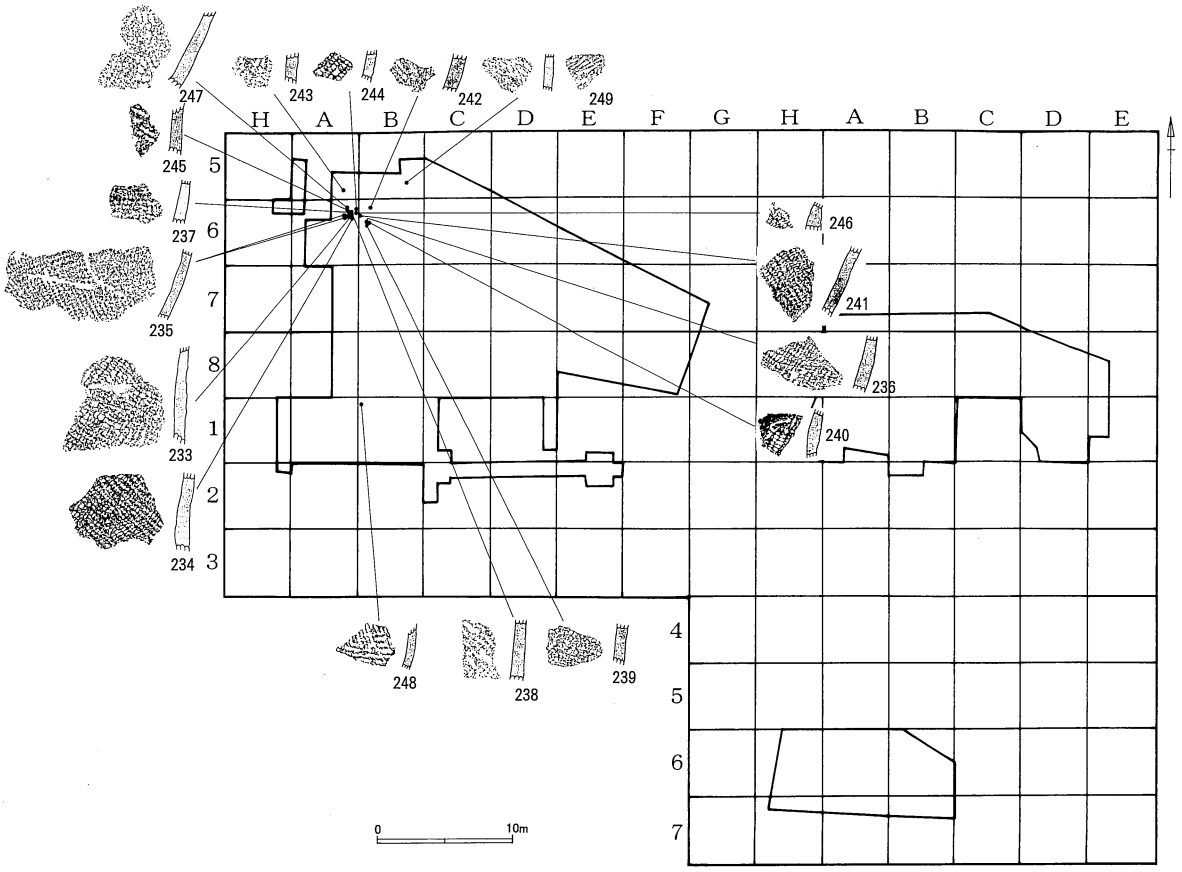


図19　縄文土器の分布（縄文）

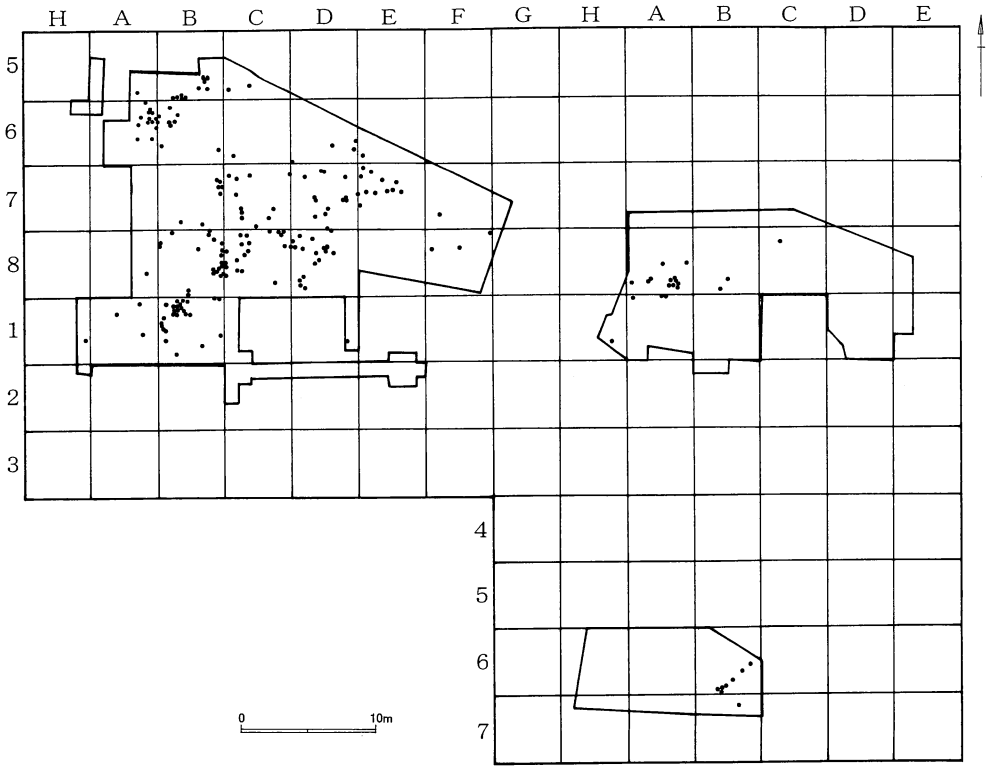


図20　縄文土器の分布（無文）

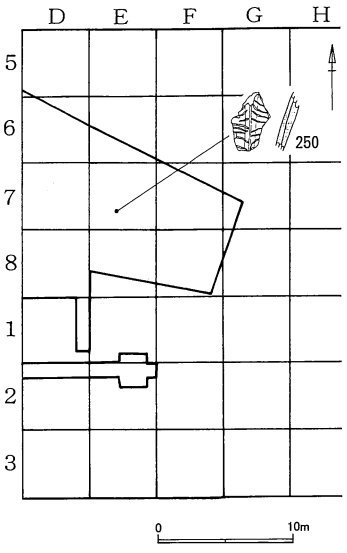


図21　縄文土器の分布（沈線文）

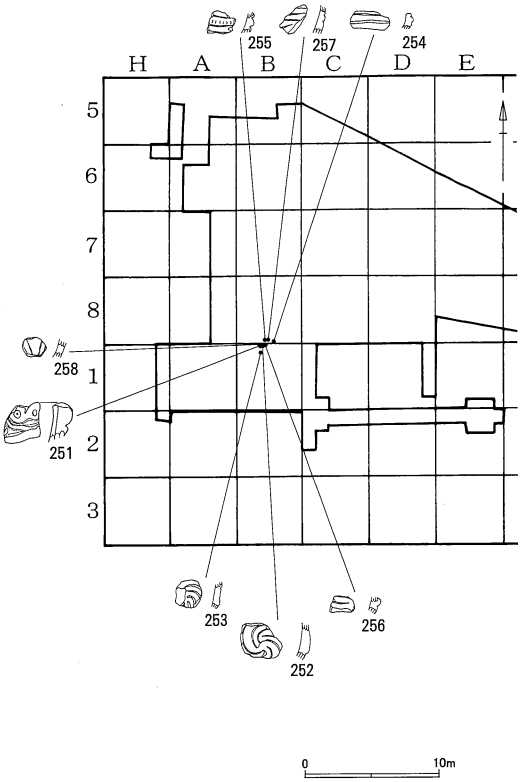


図22　縄文土器の分布（中期土器）

で、74～80の７点である。他に比して帯状施文の割合が高い。ほとんどの土器に繊維が含まれていて、ひらたい楕円文の土器には水晶を多く含む傾向が見られた。

３類は格子目文を一括し、文様の種類によって、２つに分類した。ａは菱形または正方形の粗い格子目文で、不ぞろいである。81～83の３点である。ｂは長細い長方形の格子目文で、平行線文に仕切りが入り、すだれ状になるもので、84～86の３点である。全体に外面の色調が橙色がかっており、すべての胎土に繊維が混入している。

４類は平行線文で、密接施文と思われるものをａ、無文帯があり、帯状施文と見られるものをｂとした。ａは21点、ｂは10点である。いずれも横位に平行して施文されている。器壁の厚さは７～８mmでまとまっている。繊維痕は大半の土器で見られ、ａは少量であるのに対しｂは中量で、ａに比して多い傾向が見られる。レキや水晶を多く含む土器の割合が高い。

５類は異種文様を並列で施文するもので、118～150までの33点を示した。これらを文様の違いによって、５つに分類した。ａは楕円文に矢羽状山形文を組み合わせたもので、118～127の10点を図示した。125のみ器壁が６mmと薄く、小形であるが、ほかは８mm前後の厚さがある。口縁部は直立よりもやや外へ反る程度である（118、119、121、125）。楕円文は118～122は穀粒状であり、123、124、126、127は円～四角形、125はひらたい。ｂは楕円文に山形文の組み合わせで、128～130の３点を図化した。楕円文はすべてひらたい形状をしている。器壁がすべて６mmで、他に比べて薄い。ｃは楕円文に平行線文の組み合わせで、131～143の13点を図化した。楕円文の形状はすべて穀粒状であり、139、140には異種の文様間に無文帯がある。ｄは楕円文にすだれ状の格子目文の組み合わせで、146の１点のみ図化した。楕円文はつながっている。ｅは格子目文と矢羽状山形文の組み合わせで、147～149の３点を図化した。はしご状の格子目文と矢羽状山形文が交互に施文されている。器壁の厚さは８mm前後である。繊維痕はほとんどの土器に見られる。楕円文＋矢羽状山形文の土器では水晶を多量に含むものが少ないが、楕円文＋平行線文ではレキと水晶を多く含む割合が高くなっている。

Ⅱ群は沈線文土器で、151～218の68点を図化した。１類は細沈線文が施文された土器で、47点を示した。口縁部は151、169、170、171、173の５点あり、傾きは直立からやや外へ反る程度である。すべての口唇部に棒状の工具による連続した刺突が施されている。全体に器壁は薄く、４～６mmに収まるものが多い。内面を丁寧にナデ調整されているものでは、水晶を多く含む土器は少ない。

２類は太沈線文が施文された土器で、198～218の21点を図化した。沈線の幅は３～４mm程で浅い。器壁は細沈線の土器に比べて厚く、７mm前後である。水晶を多く含む土器の割合は低い。

Ⅲ群は条痕文土器で219～232の14点を図化した。全体に器壁が厚く、１類が８mm前後、２類が10mm前後である。また、繊維を多く含むものが多く、特に２類が顕著である。１類は絡条体圧痕文が施文された土器で、219～223の５点を図示した。小破片のために文様構成の詳細は不明だが、219は絡条体が横位に２段施文され、その間に斜位の絡条体が施文されている。220～222もこれに類似したものと思われる。223は文様が浅く不明瞭である。すべてに繊維痕が見られる。224～232は土器の内面または内・外面に条痕文が施されている。絡条体圧痕文土器に比して厚手で、繊維を多く含むものが多い。水晶を多く含むものはわずかである。

Ⅳ群は縄文が施文された土器で、233～249の17点を図示した。いずれも単節縄文でRL、LRが施文されている。内面に指頭圧痕が見られるものがあり、そうした土器は器形が歪んでいる。233、235は異方向の縄文が施文されており、羽状縄文となっている。全体に外面が黄橙系の色に対し、内面が褐灰色を呈している。また、繊維を中～多量に含む。レキを含むものは多いが、水晶を多く含むものはない。

250は中央に縦に隆線があり、それを中心に横方向に沈線が施されている。胎土には繊維を含んでおり、早期の土器と思われ、沈線文土器に分類したが、ほかに同様の土器がなく、位置づけは不明である。そのため、出土位置も単独で示した（図21）。

Ⅴ群は無文土器であるが、今回は検討しなかった。

Ｅ．特徴と所属時期について

今回の発掘調査で出土した縄文時代早期の土器の特徴を示し、所属時期について考察する。

まず、土器の出土状況であるが、住居址等の明確な遺構は検出できなかったため、遺構に伴う一括資料として遺物をとらえることができなかった。遺物の分布状況では縄文が施文された土器がごく狭い範囲から出土した以外は調査地内に広く分布し、各文様の土器が重なって分布している状況から、出土状況をもとに遺物を分けることはできなかった。よって、これらの土器はほぼ同時期に埋積したものと仮定して所属時期を考えていくことにする。

無文土器を除き、文様のある縄文時代早期の土器は293点出土し、その内訳は56.7％が押型文、28.3％が沈線文、8.2％が条痕文、6.8％が縄文である（表５）。これらの内、繊維痕が見られなかったのは24点で、91.5％にあたる268点には繊維の混入が見られた。これは非常に高い割合であり、文様の違いがあったとしても、大きな時

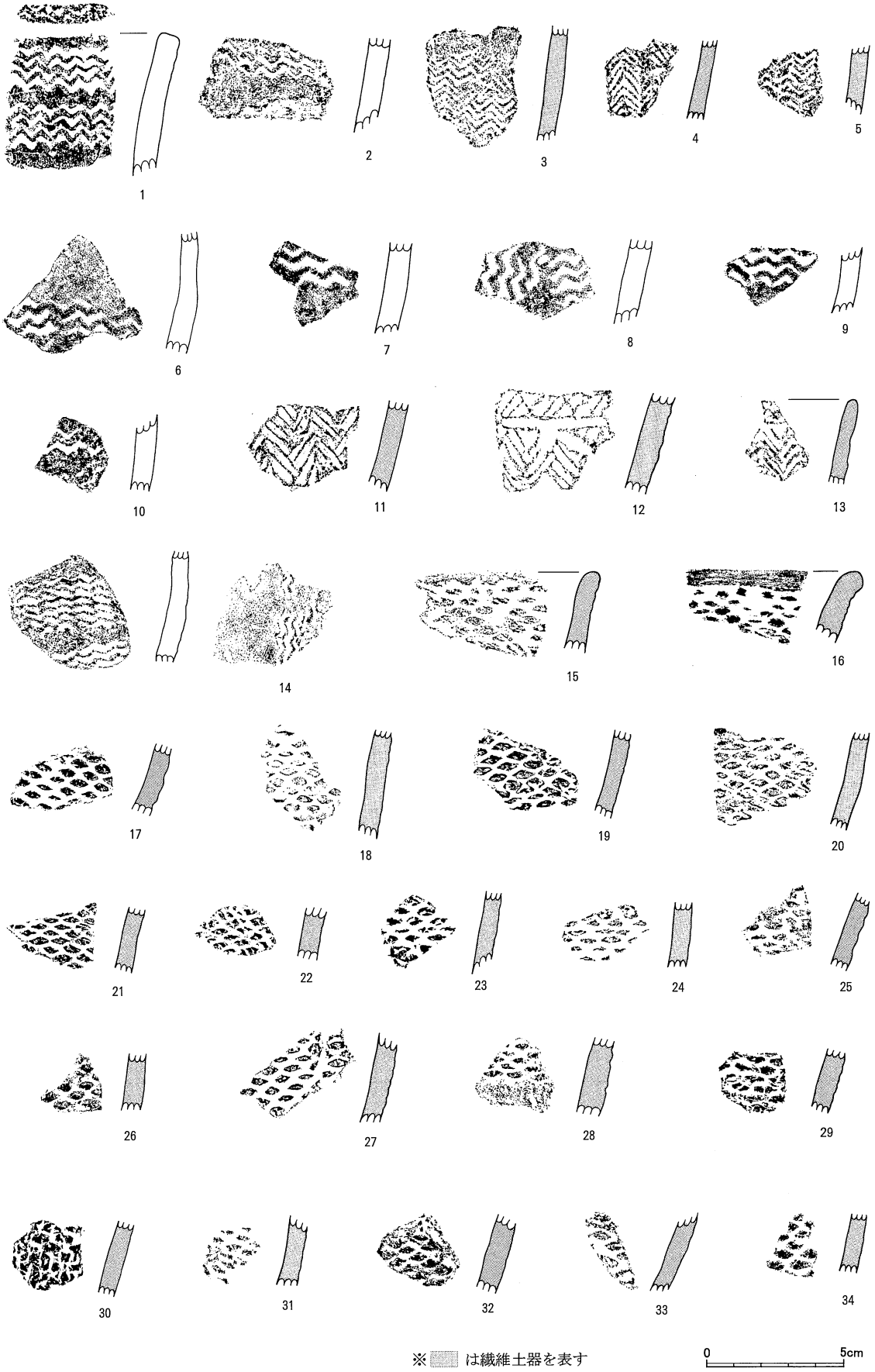


図23　縄文時代早期の土器(1)

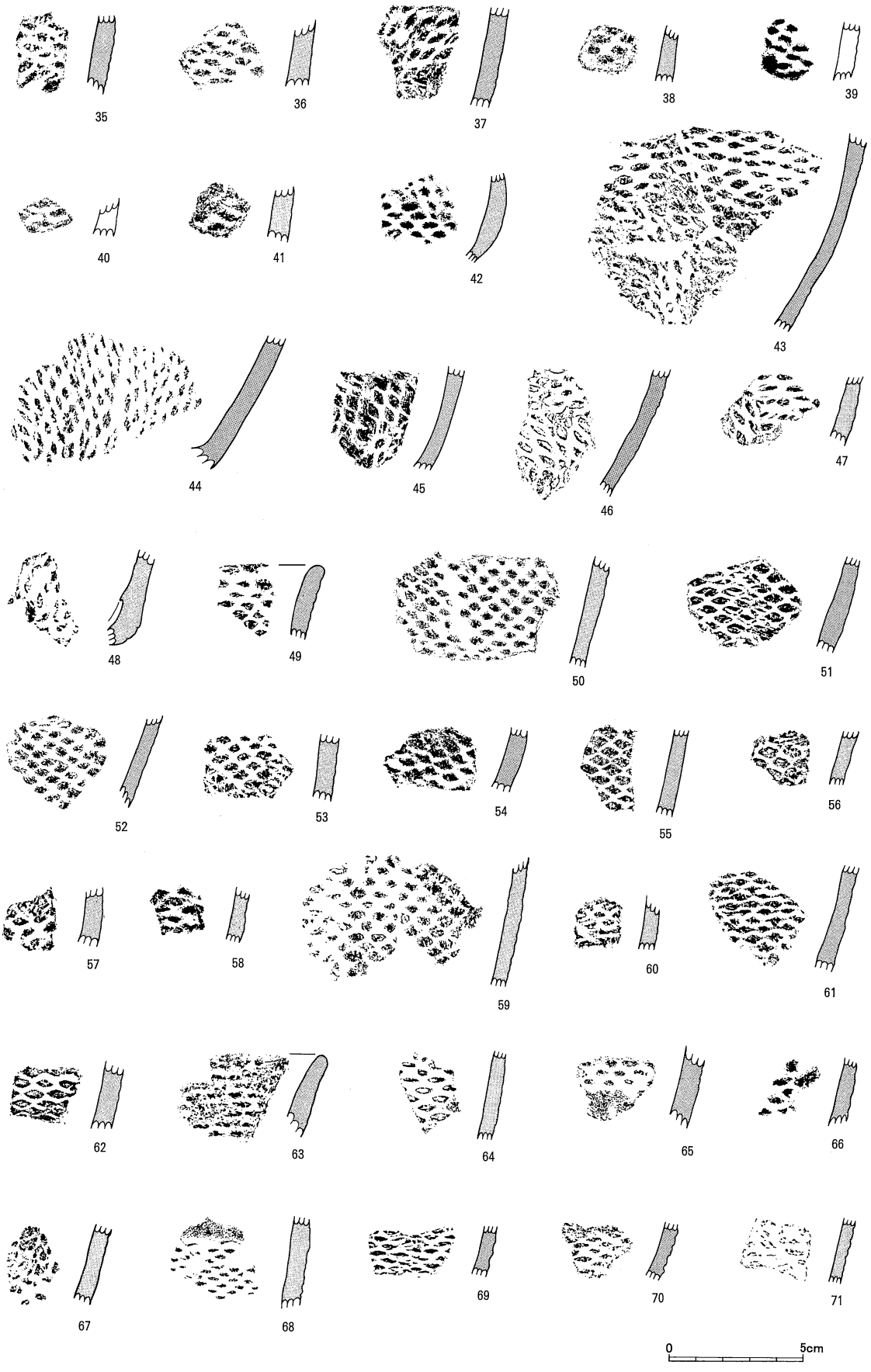


図24　縄文時代早期の土器(2)

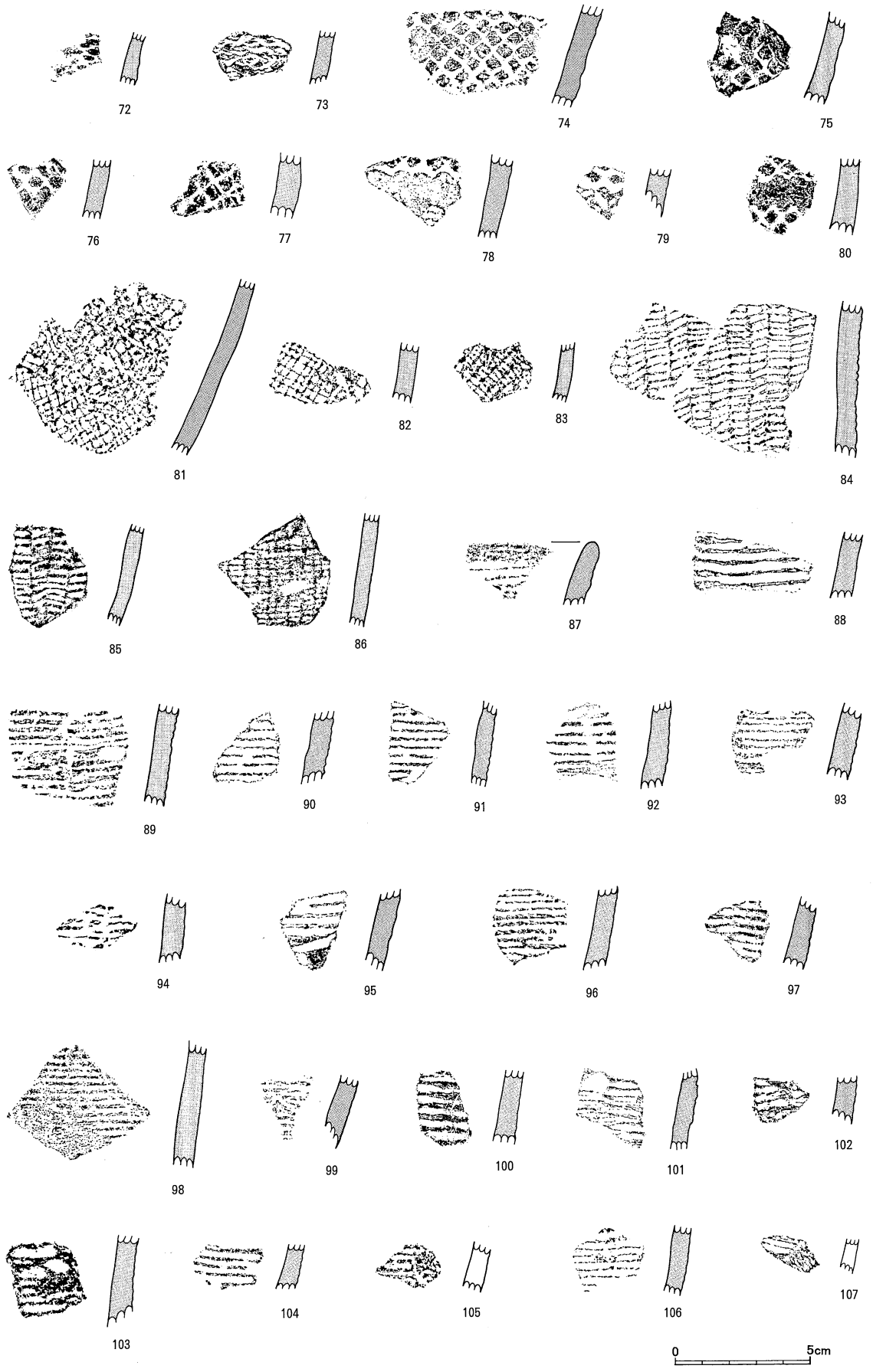


図25　縄文時代早期の土器(3)

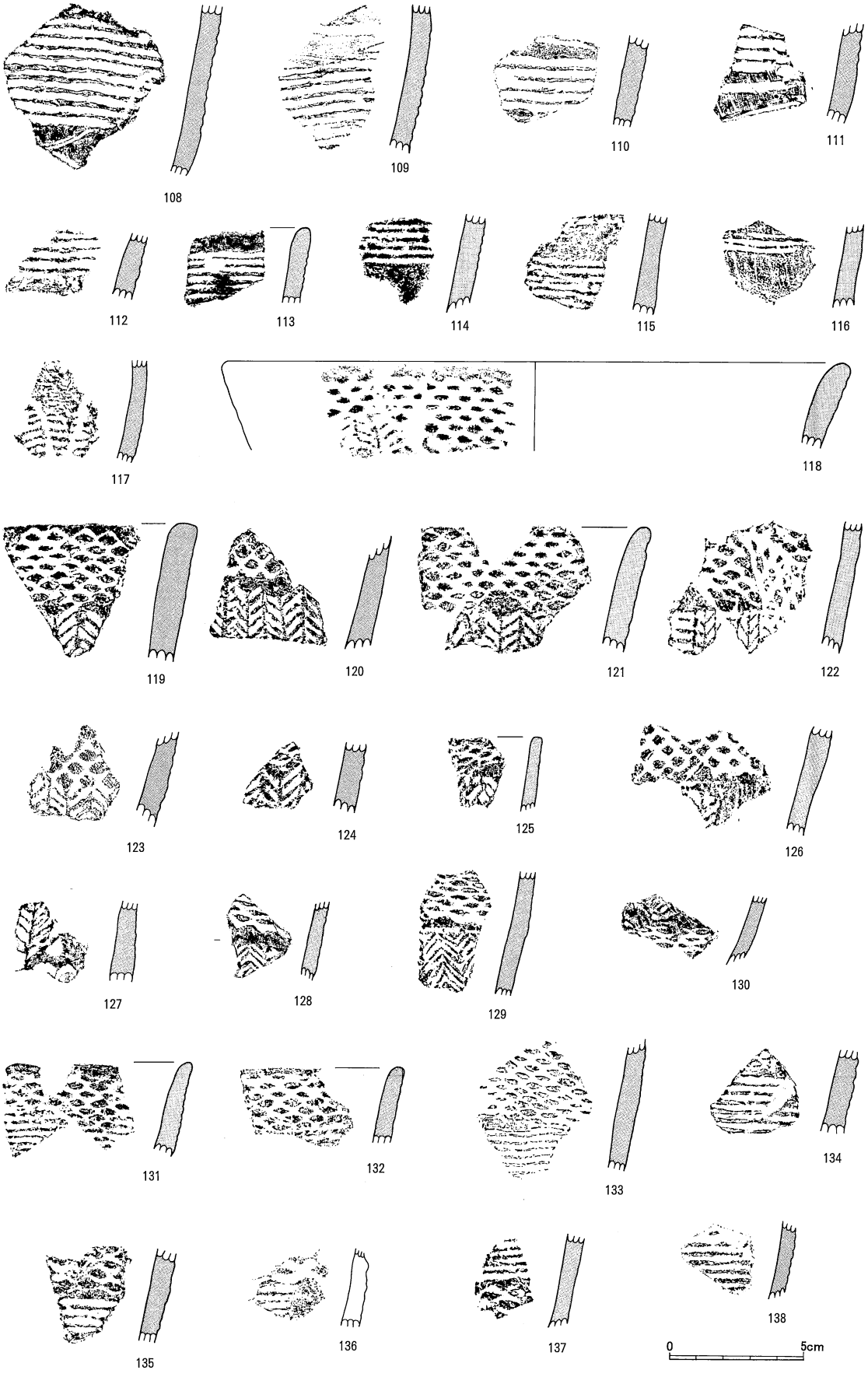


図26　縄文時代早期の土器(4)

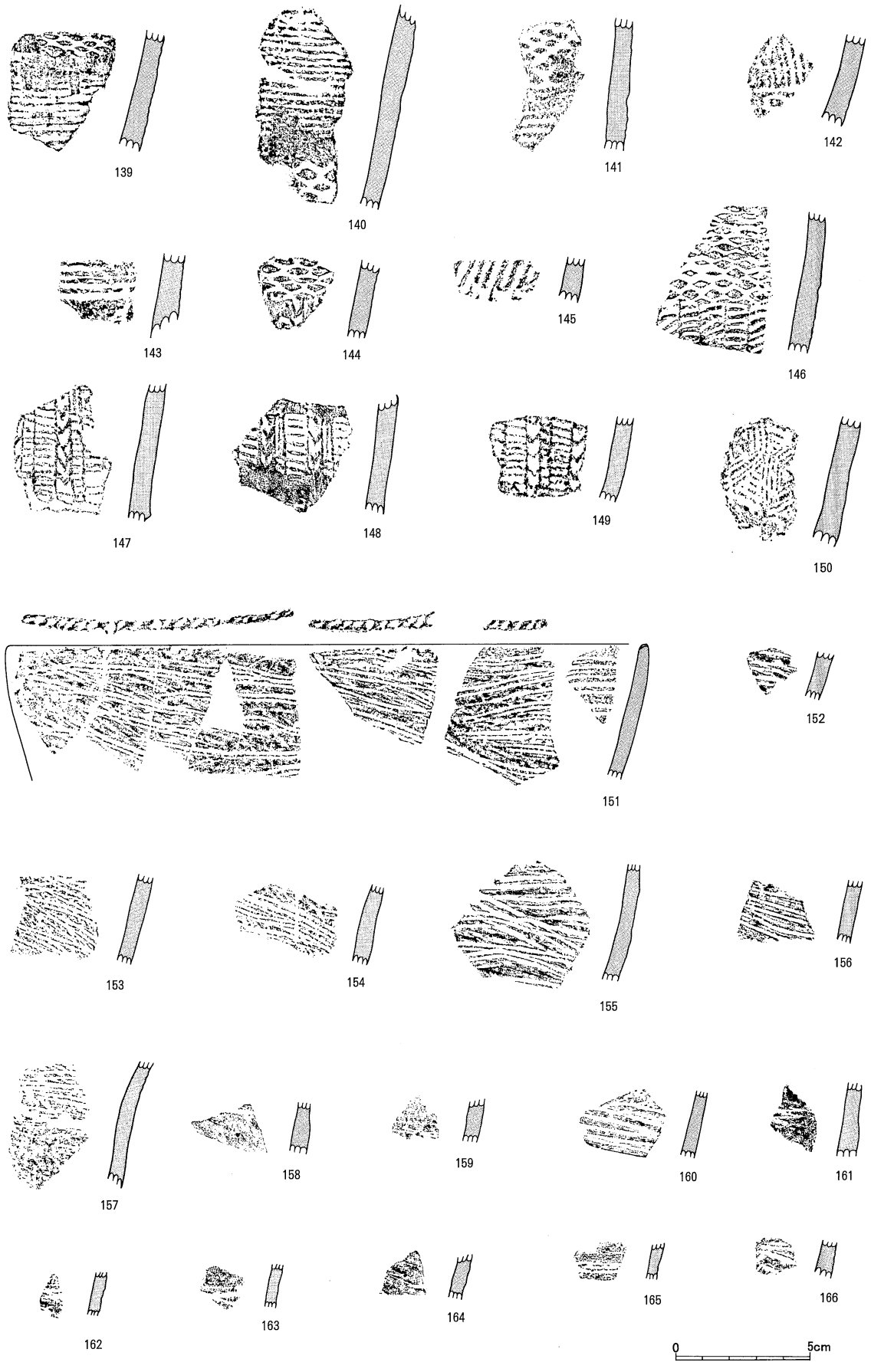


図27　縄文時代早期の土器(5)

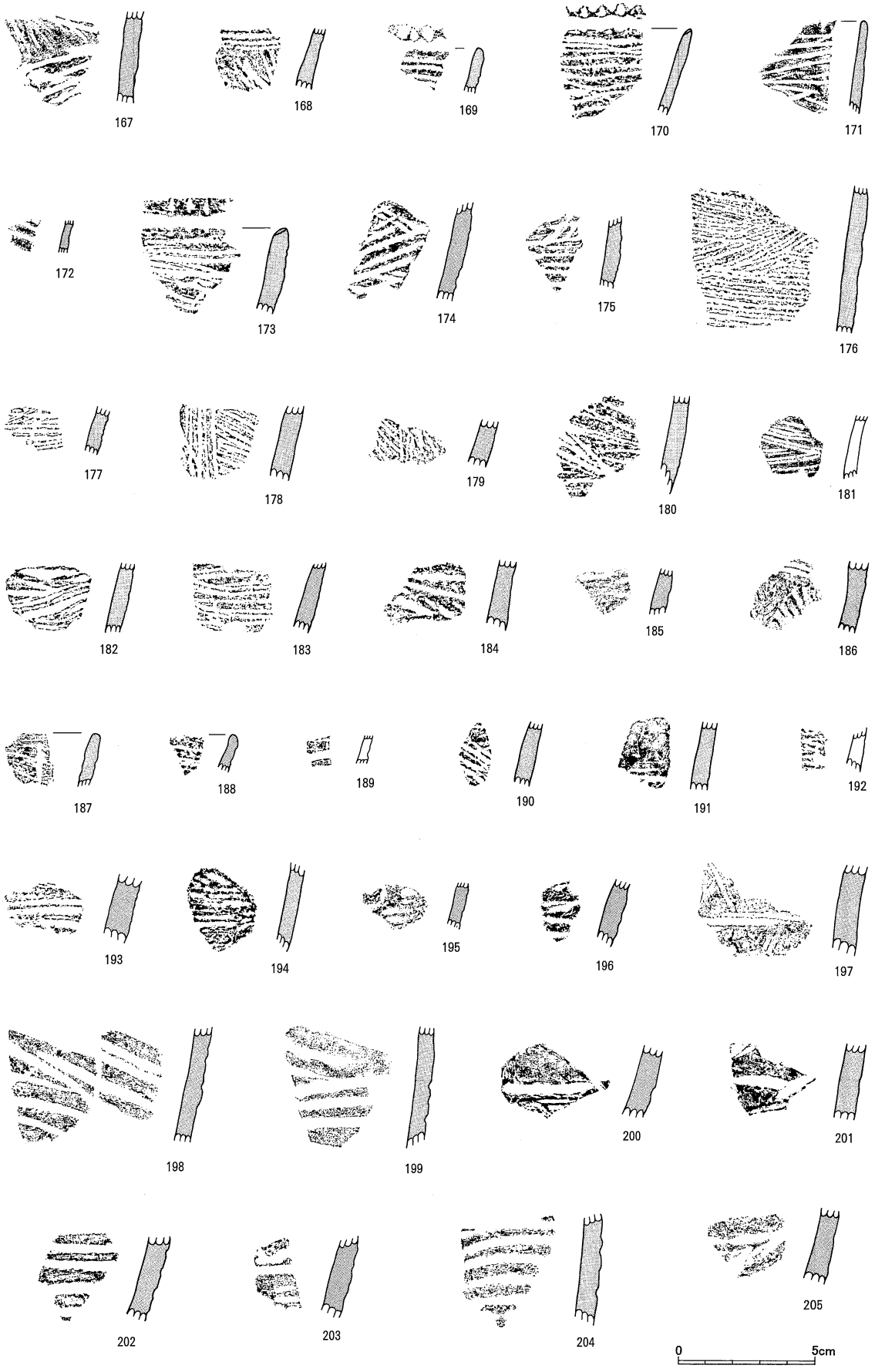


図28　縄文時代早期の土器(6)

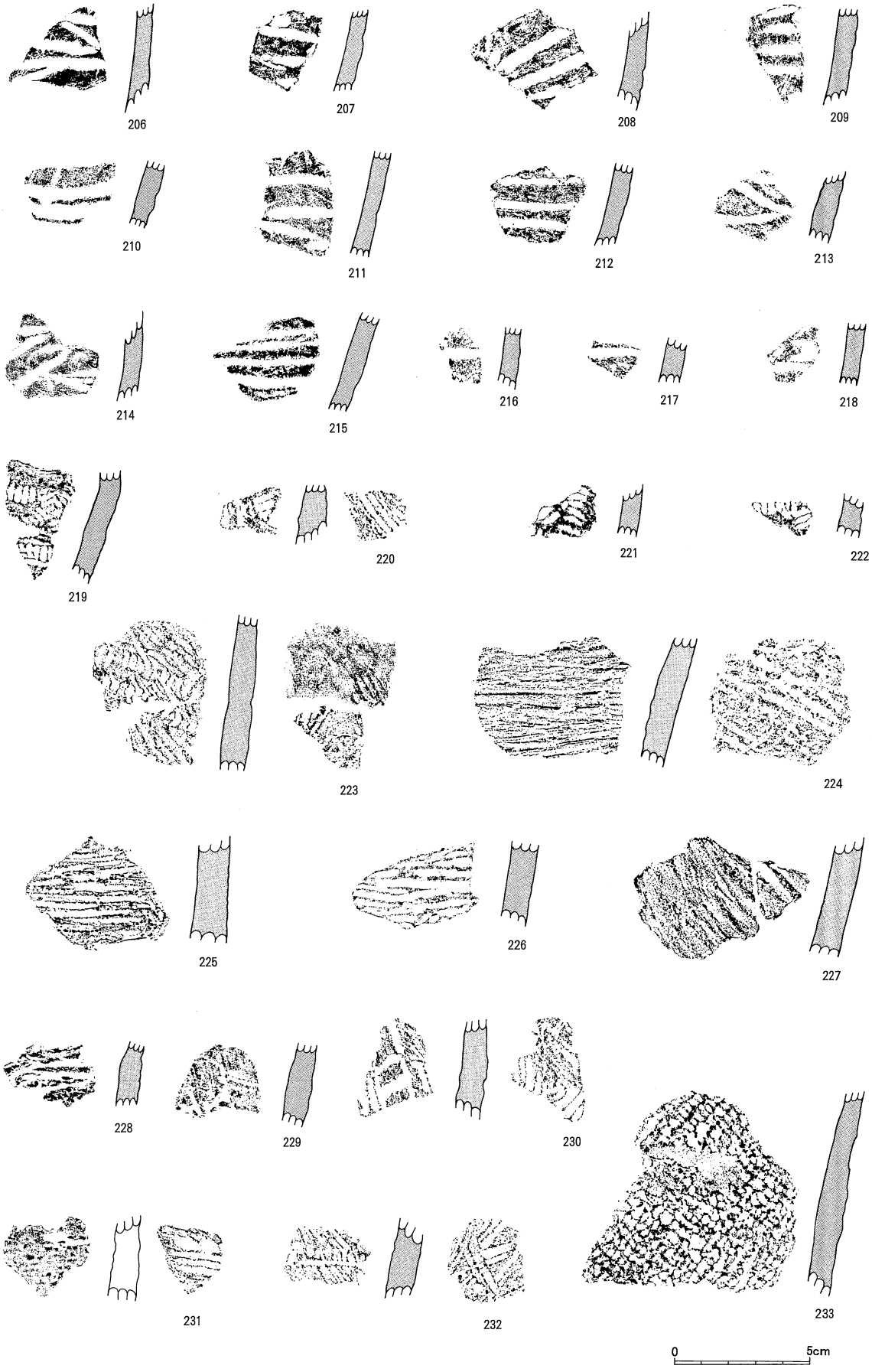


図29　縄文時代早期の土器(7)

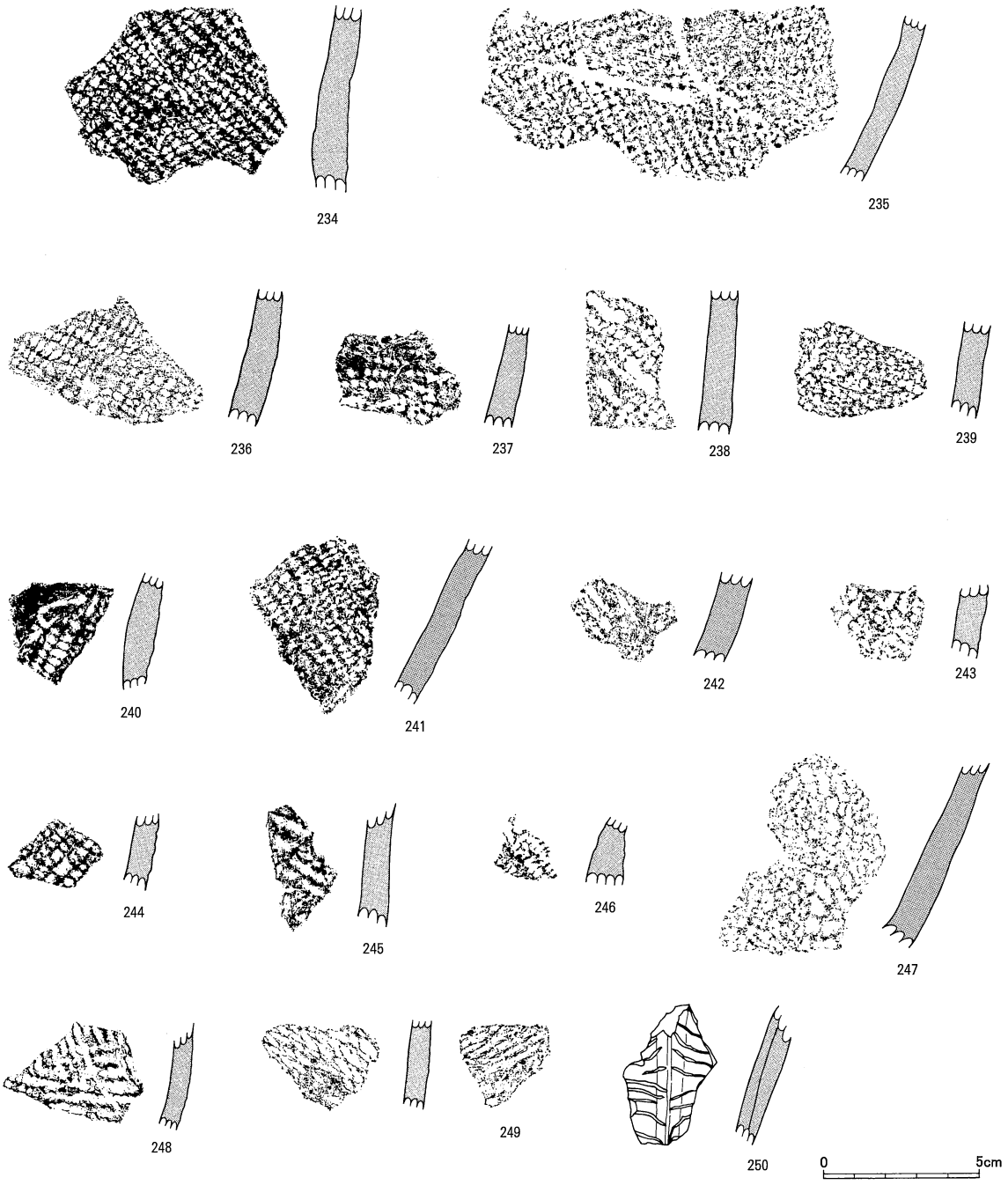


図30　縄文時代早期の土器(8)

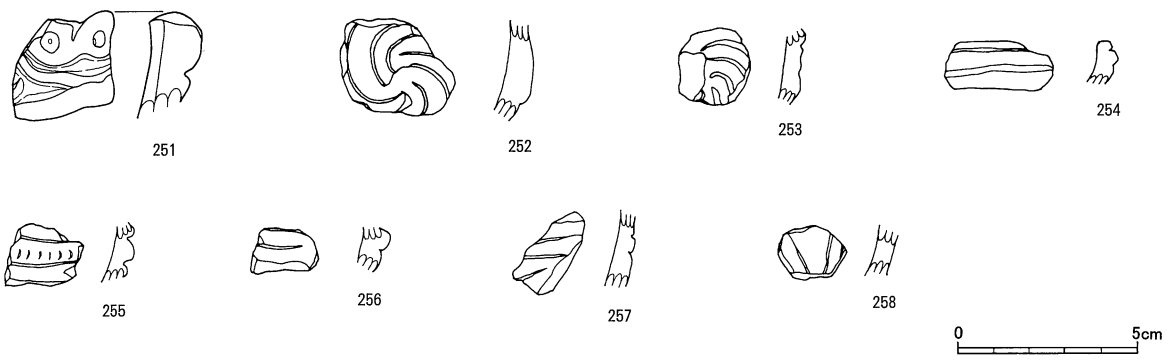


図31　縄文時代中期の土器

表6　主な縄文土器の観察表（図23～31に対応）

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	枝番	文様	部位	調整	出土層準	胎土含有物	繊維痕	文様構成・特徴	備考	器壁厚さ(mm)	時期	分類1	分類2	分類3	色調(内側)	色調(外側)
1	B	F	7	2		山形文	口縁部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ bi レキ	無	山形文(通常)。横位帯状。施文幅1.8cm。口唇部に山形文施文。		8	早期	I	1	a	赤褐	にぶい赤褐
2	G	B	6	5		山形文	胴部		3	ho qt シロ レキ	無	山形文(通常)。横位帯状。		8	早期	I	1	a	にぶい橙	にぶい赤褐
3	B	C	7	73		山形文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(少　量)	山形文(通常)。横位帯状。		7	早期	I	1	a	暗褐	にぶい黄橙
4	B	D	7	35		山形文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	山形文(通常)。		5	早期	I	1	a	にぶい橙	橙
5	B	C	8	28		山形文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	山形文(通常)。横位。		6	早期	I	1	a	浅黄橙	浅黄橙
6	B	D	7	29		山形文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	無	山形文(太い)。横位帯状。	外コゲ	6～9	早期	I	1	b	にぶい黄褐	にぶい黄褐
7	B	E	7	2		山形文	胴部		3	ho qt シロ	無	山形文(太い)。横位帯状。	外コゲ	9	早期	I	1	b	にぶい黄褐	にぶい黄褐
8	B	E	7	32		山形文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	無	山形文(太い)。横位+縦位。	外コゲ	9	早期	I	1	b	浅黄橙	にぶい黄褐
9	B	E	7	27		山形文	胴部		2	ho qt シロ 水晶	無	山形文(太い)。横位帯状。		7	早期	I	1	b	にぶい黄橙	にぶい黄褐
10	B	E	7	6		山形文	胴部		3	ho qt シロ アカ	無	山形文(太い)。横位帯状。	内コゲ	8	早期	I	1	b	にぶい黄褐	明黄褐
11	B	B	6	25		山形文	胴部		3	ho qt シロ レキ 水晶	有(少　量)	山形文(大ぶり)。横位。		9	早期	I	1	c	黒褐	にぶい黄褐
12	B	C	7	70		山形文	胴部		3	ho qt シロ レキ 水晶	有(少　量)	山形文(大ぶり)。横位。二本の平行線あり。		9	早期	I	1	c	にぶい黄橙	にぶい黄橙
13	B	D	7	37		山形文	口縁部		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	山形文(大ぶり)。	外コゲ	5	早期	I	1	c	にぶい黄褐	にぶい黄褐
14	B	C	8	35		山形文	胴部		3	ho qt シロ レキ	無	表裏施文。山形文(低い)。表は横位帯状。裏は縦位帯状。施文幅2.1cm。		7	早期	I	1	d	黒褐	黒褐
15	B	D	8	34		楕円文	口縁部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。	外コゲ	8	早期	I	2	a	にぶい黄橙	黒褐
16	B	B	7	20		楕円文	口縁部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ bi	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		8	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄褐
17	B	B	7	2		楕円文	胴部	内ナデ	3	qt シロ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	灰黄褐	灰黄褐
18	B	B	7	5		楕円文	胴部		3	qt シロ bi	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	にぶい黄褐	灰黄褐
19	B	C	8	51		楕円文	胴部		3	qt シロ アカ bi レキ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	にぶい黄橙	灰黄褐
20	B	C	8	52		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ bi	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	浅黄橙	にぶい黄橙
21	B	C	7	21		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		6～8	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
22	B	C	8	3		楕円文	胴部		3	ho qt シロ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。	外コゲ	8	早期	I	2	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
23	B	B	7	7		楕円文	胴部		3	ho qt シロ bi	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄橙
24	B	C	7	66		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
25	B	B	7	3		楕円文	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		6	早期	I	2	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
26	B	C	7	55		楕円文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。	内コゲ	8	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄橙
27	F	A	1	23		楕円文	胴部		3	ho qt シロ レキ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		8	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄橙
	F	A	1	25					3						早期				灰黄褐	にぶい黄橙
28	B	C	8	48		楕円文	胴部		4	ho qt シロ アカ bi	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位帯状。	外コゲ	8	早期	I	2	a	黒褐	にぶい黄橙
29	B	C	7	1		楕円文	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		8	早期	I	2	a	灰黄褐	灰黄褐
30	B	C	7	42		楕円文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位＋縦位。		7	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄橙
31	E	H	1	1		楕円文	胴部		3	ho qt シロ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		8	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
32	B	C	7	81		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		8	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
33	F	B	1	53		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		6	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
34	B	C	7	6		楕円文	胴部		3	ho qt シロ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄橙
35	B	D	7	51		楕円文	胴部		3	qt シロ 水晶	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位＋斜位。		7	早期	I	2	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
36	B	D	8	27		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		8	早期	I	2	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
37	B	D	8	28		楕円文	胴部(底に近い)		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。斜位。		7	早期	I	2	a	明黄褐	明黄褐
38	B	D	7	55		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	黒褐	にぶい黄褐
39	B	D	8	19		楕円文	胴部		3	ho qt シロ 水晶	無	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
40	B	D	8	13		楕円文	胴部		2	ho qt シロ 水晶	無	楕円文(縦粒文)。横位。		8	早期	I	2	a	黒褐	にぶい黄褐
41	B	D	7	60		楕円文	胴部		3	ho qt シロ 水晶	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
42	B	D	8	43		楕円文	胴部(底に近い)		2	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		5～7	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄橙
43	B	C	7	44		楕円文	胴部(底に近い)		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位＋縦位＋斜位。		5～8	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
	B	C	8	29					3						早期				にぶい黄橙	にぶい黄橙
	B	C	8	30					3						早期				にぶい黄橙	にぶい黄橙
44	B	B	7	15		楕円文	胴部(底に近い)		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。縦位。		6～10	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄褐
	B	C	7	86					3						早期				灰黄褐	にぶい黄褐
45	B	E	7	22		楕円文	胴部(底に近い)		2	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。斜位。	内コゲ	5～7	早期	I	2	a	にぶい黄褐	にぶい褐
46	B	E	7	25		楕円文	胴部(底に近い)		2	ho qt シロ アカ 水晶	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位＋斜位。	内コゲ	6	早期	I	2	a	褐灰	にぶい黄褐
47	B	C	7	58		楕円文	胴部(底に近い)		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位＋縦位。		5～7	早期	I	2	a	灰黄	にぶい黄橙
48	B	E	7	17		楕円文	胴部(底に近い)		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。斜位。		5～7	早期	I	2	a	褐灰	にぶい黄褐
49	B	C	8	16		楕円文	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
50	B	D	8	31		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。	内コゲ	7	早期	I	2	a	黒褐	にぶい黄橙
51	B	C	7	76		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。	外コゲ	8	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
52	B	B	8	35		楕円文	胴部	内ナデ	4	ho qt シロ アカ レキ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。	内コゲ	7	早期	I	2	a	黒褐	にぶい黄橙
53	B	C	7	54		楕円文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ 水晶	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。	内コゲ	7	早期	I	2	a	黒褐	にぶい黄橙
54	B	C	7	53		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。	内コゲ	7	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄橙
55	B	C	7	74		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		7	早期	I	2	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
56	B	C	7	82		楕円文	胴部		3	ho qt シロ レキ 水晶	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		6	早期	I	2	a	灰黄褐	にぶい黄橙
57	F	A	1	17		楕円文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(縦粒文)。横位＋斜位。		7	早期	I	2	a	黒褐	にぶい褐
58	B	D	7	40		楕円文	胴部		3	ho qt シロ 水晶	有(少　量)	楕円文(縦粒文)。横位。		6	早期	I	2	a	黒褐	にぶい黄褐
59	F	A	1	1		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中　量)	楕円文(円形)。横位。		5～7	早期	I	2	b	黒褐	にぶい黄褐
	F	A	1	21					3						早期				黒褐	にぶい黄褐
60	B	C	7	51		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(少　量)	楕円文(円形)。横位。	内コゲ	6	早期	I	2	b	黒褐	にぶい黄橙
61	B	C	8	26		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(縦粒文つながり)。横位。		7	早期	I	2	c	にぶい黄褐	にぶい黄褐
62	B	C	7	17		楕円文	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(縦粒文つながり)。横位。		8	早期	I	2	c	にぶい黄橙	にぶい黄橙
63	B	C	8	54		楕円文	口縁部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少　量)	楕円文(ひらたい)。横位。		6～9	早期	I	2	d	にぶい黄橙	にぶい黄褐
64	B	E	7	39		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(ひらたい)。横位。		6	早期	I	2	d	褐灰	にぶい黄褐
65	B	C	7	43		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中　量)	楕円文(ひらたい)。横位帯状。		8	早期	I	2	d	にぶい黄橙	にぶい黄褐
66	T	P	1	1		楕円文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ レキ	有(中　量)	楕円文(ひらたい)。横位。		5	早期	I	2	d	灰黄褐	にぶい黄褐
67	B	D	8	35		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(少　量)	楕円文(ひらたい)。横位。		7	早期	I	2	d	にぶい黄褐	にぶい黄褐
68	B	E	7	42		楕円文	胴部		4	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少　量)	楕円文(ひらたい)。横位帯状。		5～7	早期	I	2	d	明黄褐	明黄褐
69	B	E	7	11		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(ひらたい)。横位。		5	早期	I	2	d	にぶい黄橙	にぶい褐
70	B	D	6	18		楕円文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ 水晶	有(中　量)	楕円文(ひらたい)。横位。	外コゲ	6	早期	I	2	d	にぶい黄褐	にぶい黄褐
71	B	E	7	16		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中　量)	楕円文(ひらたい)。横位。	内コゲ	5	早期	I	2	d	黒褐	にぶい黄褐
72	T	P	8	1		楕円文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ	有(中　量)	楕円文(ひらたい)。横位。		6	早期	I	2	d	にぶい黄褐	にぶい黄橙
73	F	B	1	64		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中　量)	楕円文(ひらたい)。横位。	内コゲ	6	早期	I	2	d	黒褐	にぶい黄褐
74	B	D	7	30		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中　量)	楕円文(円形～四角)。横位。		9	早期	I	2	e	にぶい黄褐	にぶい黄褐
75	B	C	7	20		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(円形～四角)。横位。		8	早期	I	2	e	にぶい黄褐	にぶい黄褐
76	B	D	7	3		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少　量)	楕円文(円形～四角)。横位。		7	早期	I	2	e	にぶい黄褐	にぶい黄褐

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	枝番	文様	部位	調整	出土層準	胎土含有物	繊維痕	文様構成・特徴	備考	器壁厚さ(mm)	時期	分類1	分類2	分類3	色調(内側)	色調(外側)
77	G	D	1	2		楕円文	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(円形～四角)。		9	早期	I	2	e	にぶい黄褐	にぶい黄橙
78	F	A	1	24		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	楕円文(円形～四角)。横位帯状。	外コゲ	8	早期	I	2	e	褐灰	にぶい黄褐
79	F	D	1	2		楕円文	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(円形～四角)。横位帯状。	外コゲ	8	早期	I	2	e	にぶい黄褐	にぶい黄褐
80	B	D	7	6		楕円文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(円形～四角)。横位帯状。		7～9	早期	I	2	e	にぶい黄褐	にぶい黄褐
81	F	A	1	12		格子目文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	不揃いの格子目。	内コゲ	7	早期	I	3	a	灰黄褐	にぶい橙
82	B	B	8	15		格子目文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ bi レキ	有(中 量)	不揃いの格子目。		6～8	早期	I	3	a	にぶい黄褐	にぶい橙
83	B	C	7	77		格子目文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	簾状。		6	早期	I	3	a	にぶい褐	にぶい褐
84	B	C	7	40		格子目文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	長方形。横位。	外コゲ	6～8	早期	I	3	b	にぶい黄橙	灰黄褐
	B	C	7	85					3						早期				灰黄褐	灰黄褐
85	F	B	1	44		格子目文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	長方形。		6	早期	I	3	b	黒褐	明褐
86	C	B	8	4		格子目文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	長方形。		6	早期	I	3	b	にぶい黄褐	にぶい黄褐
87	B	E	7	20		平行線文	口縁部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。		7	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
88	B	E	7	19		平行線文	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(中 量)	平行。	外コゲ	7	早期	I	4	a	灰黄褐	暗褐
89	B	B	8	18		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。	外コゲ	8	早期	I	4	a	にぶい黄橙	にぶい黄褐
	B	B	8	21					3						早期				にぶい黄橙	にぶい黄褐
90	B	C	8	4		平行線文	胴部		2	ho qt シロ アカ 水晶	有(少 量)	平行。		8	早期	I	4	a	にぶい黄橙	にぶい黄褐
91	B	C	8	47		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。		8	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄褐
92	C	A	8	11		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。		7	早期	I	4	a	にぶい黄褐	にぶい黄橙
93	B	C	7	33		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。		8	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄褐
94	B	D	8	8		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(少 量)	平行。		8	早期	I	4	a	にぶい黄橙	褐灰
95	B	D	7	62		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	平行。		8	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
96	B	E	7	23		平行線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	平行。		7	早期	I	4	a	黄	黄
97	B	C	7	71		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。		8	早期	I	4	a	にぶい黄橙	にぶい黄橙
98	B	A	8	4		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。		8	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
99	B	D	8	18		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。	内コゲ	7	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
100	B	D	7	23		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(中 量)	平行。		8	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
101	B	B	8	14		平行線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。		7	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
102	B	C	7	60		平行線文	胴部		3	ho qt シロ 水晶	有(中 量)	平行。		7	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
103	T	P	9	1		平行線文	胴部		3	ho qt シロ レキ	有(少 量)	平行。	内コゲ	9	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
104	B	D	8	15		平行線文	胴部		3	ho qt シロ レキ 水晶	有(少 量)	平行。	内コゲ	7	早期	I	4	a	灰黄褐	橙
105	B	C	7	8		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	無	平行。		8	早期	I	4	a	灰黄褐	にぶい黄橙
106	B	F	8	3	2	平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行。		7	早期	I	4	a	灰黄褐	灰黄褐
107	B	C	7	41		平行線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	無	平行。		5	早期	I	4	a	黒褐	灰黄褐
108	B	E	7	13		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	平行＋無文帯。		7～9	早期	I	4	b	灰黄褐	にぶい黄橙
109	B	E	7	45		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	平行＋無文帯。		7	早期	I	4	b	灰黄褐	にぶい黄橙
110	B	E	7	33		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	平行＋無文帯。		8	早期	I	4	b	灰黄褐	にぶい黄橙
111	B	D	7	20		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	平行＋無文帯。		8	早期	I	4	b	灰黄褐	にぶい黄橙
112	B	F	8	5		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	平行＋無文帯。		7	早期	I	4	b	灰黄褐	にぶい黄橙
113	B	D	6	10		平行線文	口縁部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	平行＋無文帯。		7	早期	I	4	b	にぶい黄橙	にぶい黄橙
114	B	B	8	49		平行線文	胴部		3	ho qt シロ レキ 水晶	有(少 量)	平行＋無文帯。	内コゲ	9	早期	I	4	b	灰黄褐	にぶい黄橙
115	B	B	8	17		平行線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	平行＋無文帯。		7～9	早期	I	4	b	灰黄褐	にぶい黄褐
116	B	C	8	27		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	平行＋無文帯。		7	早期	I	4	b	浅黄橙	明黄褐
117	F	B	1	41		平行線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	平行＋無文帯。	内コゲ	6	早期	I	4	b	灰黄褐	橙
	F	B	1	42		平行線文			3						早期				灰黄褐	橙
	F	B	1	43		平行線文			3						早期				灰黄褐	橙
118	B	D	7	31		異種文様並列	口縁部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ	有(中 量)	楕円文(穀粒文)＋矢羽状山形文。	外コゲ	8～11	早期	I	5	a	にぶい黄褐	灰黄褐
	B	D	7	38					3						早期				にぶい黄褐	灰黄褐
	B	D	7	54					3						早期				にぶい黄褐	灰黄褐
119	B	D	8	48		異種文様並列	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	楕円文(穀粒文)＋矢羽状山形文。	外コゲ	8～12	早期	I	5	a	にぶい黄褐	黒褐
120	G	A	1	17		異種文様並列	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋矢羽状山形文。	外コゲ	7～9	早期	I	5	a	にぶい黄褐	黒褐
121	B	C	7	26		異種文様並列	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋矢羽状山形文。		7～11	早期	I	5	a	にぶい黄橙	にぶい黄褐
	B	C	7	27					3						早期				にぶい黄橙	にぶい黄褐
122	B	B	7	13		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	楕円文(殻粒文の横位＋斜位)＋矢羽状山形文。		6～8	早期	I	5	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
	B	B	7	14					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄褐
123	B	D	7	5		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(円～四角)＋矢羽状山形文。		8	早期	I	5	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
124	B	C	7	13	1	異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(円～四角)＋矢羽状山形文。		9	早期	I	5	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
125	B	C	8	17		異種文様並列	口縁部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(ひらたい)＋矢羽状山形文。		6	早期	I	5	a	灰黄褐	にぶい黄褐
126	B	E	7	18		異種文様並列	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(円～四角)＋矢羽状山形文。		8	早期	I	5		にぶい黄褐	にぶい黄褐
127	F	D	1	3		異種文様並列	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(円～四角)＋矢羽状山形文。		6～8	早期	I	5	a	にぶい黄褐	にぶい黄褐
128	B	E	7	40		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	楕円文(ひらたい)＋山形文＋無文帯。		6	早期	I	5	b	にぶい黄橙	にぶい黄褐
129	B	D	7	15		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	楕円文(ひらたい)＋山形文＋無文帯。		6	早期	I	5	b	暗灰黄	にぶい黄褐
130	B	C	8	12		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(ひらたい)＋山形文？。		6	早期	I	5	b	暗灰褐	明褐
131	B	D	8	44		異種文様並列	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		8	早期	I	5	c	暗灰黄	灰黄褐
	B	D	8	45					3						早期				暗灰黄	灰黄褐
132	B	E	6	4		異種文様並列	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		7	早期	I	5	c	暗灰黄	灰黄褐
133	B	C	7	28		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		8	早期	I	5	c	にぶい黄	にぶい黄
134	B	C	7	11		異種文様並列	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		8	早期	I	5	c	黄褐	黒褐
135	B	D	8	21		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		8	早期	I	5	c	灰黄褐	にぶい黄橙
136	B	D	7	39		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	無	楕円文(穀粒文)＋平行。	内コゲ	7	早期	I	5	c	黒褐	にぶい黄褐

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	枝番	文様	部位	調整	出土層準	胎土含有物	繊維痕	文様構成・特徴	備考	器壁厚さ(mm)	時期	分類1	分類2	分類3	色調(内側)	色調(外側)
137	B	D	7	50		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		7	早期	I	5	c	にぶい黄褐	暗灰黄
138	B	C	8	49		異種文様並列	胴部		2	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		6	早期	I	5	c	にぶい黄褐	暗灰黄
139	B	F	8	3	1	異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	楕円文(穀粒文)＋平行＋無文帯。		8	早期	I	5	c	暗灰黄	暗灰黄
140	B	D	7	44		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	楕円文(穀粒文)＋平行＋無文帯。	外コゲ	8	早期	I	5	c	にぶい黄褐	暗灰褐
	B	D	7	57					3						早期				にぶい黄褐	暗灰褐
141	B	B	8	34		異種文様並列	胴部		4	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		8	早期	I	5	c	黄褐	にぶい黄
142	B	D	8	9		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋平行。		8	早期	I	5	c	赤褐	黄褐
143	B	D	7	16		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	平行＋楕円文(穀粒文の縦位)。		8	早期	I	5	c	にぶい黄橙	黄橙
144	B	B	7	39		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ レキ	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋？		7	早期	I	5	？	灰黄褐	にぶい黄褐
145	B	B	8	4		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(穀粒文)＋？		7	早期	I	5	？	にぶい黄	にぶい黄
146	B	C	7	29		異種文様並列	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	楕円文(穀粒文つながり)＋格子目。		6～8	早期	I	5	d	にぶい黄褐	にぶい黄褐
147	B	C	7	39		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	格子目＋矢羽状山形文。	外コゲ	7～9	早期	I	5	e	灰黄褐	にぶい黄褐
148	B	C	7	38		異種文様並列	胴部		3	qt シロ	有(少 量)	格子目＋矢羽状山形文＋無文帯。		8	早期	I	5	e	灰黄褐	にぶい黄褐
149	B	B	7	11		異種文様並列	胴部		2	qt シロ	有(中 量)	格子目＋矢羽状山形文。		7	早期	I	5	e	灰黄褐	にぶい黄橙
150	B	D	7	47		異種文様並列	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	異方向の平行文の組み合わせ。		8	早期	I	5	？	にぶい黄橙	浅黄橙
151	B	B	7	30		沈線文	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位細沈線。口唇に連続の刺突。	外コゲ	4～6	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	31					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	33					3						早期				灰黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	49					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	50					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	52					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	53					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	55					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	57					3						早期				にぶい黄橙	灰黄褐
	B	B	7	63					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	66					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	69					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
152	B	B	7	44		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。		5	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄橙
153	B	B	7	36		沈線文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	外コゲ	4～6	早期	II	1		灰黄褐	にぶい黄橙
154	B	B	7	51		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位の細沈線。		6	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄橙
155	B	B	7	54		沈線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位・斜位の細沈線。		5～7	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄橙
156	B	B	6	31		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。		6	早期	II	1		にぶい黄橙	にぶい黄橙
157	B	B	7	32		沈線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位の細沈線。	外コゲ	6	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄橙
	B	B	7	45					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄橙
158	B	B	7	65		沈線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。	外コゲ	6	早期	II	1		灰黄褐	にぶい黄橙
159	B	C	7	52		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。		7	早期	II	1		にぶい黄橙	にぶい黄橙
160	B	B	6	22		沈線文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。		4～6	早期	II	1		褐灰	黒褐
161	B	B	7	24		沈線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。		6～8	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄橙
162	B	B	7	46		沈線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。	外コゲ	5	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
163	B	B	7	25		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	外コゲ	5	早期	II	1		にぶい黄橙	にぶい黄橙
164	B	A	6	14		沈線文	胴部	外ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。		5	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
165	B	B	7	59		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。		4	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
166	F	B	1	20		沈線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	外コゲ	4	早期	II	1		にぶい黄褐	黒褐
167	B	D	7	36		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。		6	早期	II	1		灰黄褐	にぶい黄褐
168	F	B	1	7		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	外コゲ	4～6	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
169	B	E	7	28		沈線文	口縁部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線＋口唇から内面へ連続の刺突。		4	早期	II	1		橙	にぶい黄橙
170	B	E	7	15		沈線文	口縁部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線＋口唇から内面へ連続の刺突。	外コゲ	4	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
171	B	E	7	12		沈線文	口縁部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線＋口唇から内面へ連続の刺突。	外コゲ	4	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
172	B	E	7	30		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。		4	早期	II	1		灰黄褐	にぶい黄褐
173	B	B	5	20		沈線文	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位・斜位の細沈線が交差。口唇に刺突。		5～7	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
174	B	B	5	22		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線が交差。		6	早期	II	1		にぶい黄橙	にぶい黄褐
175	F	B	1	50		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線が交差。		6	早期	II	1		橙	にぶい橙
176	B	C	7	10		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(少 量)	横位・斜位の細沈線が交差。		6	早期	II	1		褐	暗褐
177	B	C	7	18		沈線文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線が交差。		6	早期	II	1		褐	暗褐
178	B	B	6	5		沈線文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	外コゲ	7	早期	II	1		にぶい黄褐	黒褐
179	B	B	6	18		沈線文	胴部	内ナデ	2	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	外コゲ	8	早期	II	1		にぶい黄褐	黒褐
180	B	B	6	20		沈線文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	外コゲ	6	早期	II	1		にぶい黄褐	黒褐
	B	B	6	21					3						早期				にぶい黄褐	黒褐
181	F	B	1	3		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	無	横位・斜位の細沈線。		5	早期	II	1		黄褐	にぶい黄橙
182	B	A	6	17		沈線文	胴部		2	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。		5	早期	II	1		明褐	にぶい黄橙
183	B	C	7	25		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	横位の細沈線。		6	早期	II	1		にぶい黄橙	にぶい黄橙
184	B	C	7	50		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。		7	早期	II	1		灰黄褐	にぶい黄橙
185	B	A	6	13		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	内コゲ	6	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄橙
186	B	B	7	40		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	斜位の細沈線。	内コゲ	7	早期	II	1		黒褐	にぶい黄橙
187	F	B	1	4		沈線文	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。口縁の内側に刺突。		4	早期	II	1		黒褐	にぶい黄褐
188	F	B	1	27		沈線文	口縁部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位の細沈線。口唇に刺突。		4	早期	II	1		褐	褐

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	枝番	文様	部位	調整	出土層準	胎土含有物	繊維痕	文様構成・特徴	備考	器壁厚さ(mm)	時期	分類1	分類2	分類3	色調(内側)	色調(外側)
189	F	B	1	10		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の細沈線。		4	早期	II	1		にぶい褐	にぶい褐
190	B	B	5	15		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	斜位の細沈線。		6	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
191	B	C	7	15		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	横位の細沈線。		6	早期	II	1		灰黄褐	灰黄褐
192	B	B	8	58		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	無	横位の細沈線。		5	早期	II	1		黒褐	にぶい黄褐
193	B	C	7	46		沈線文	胴部		2	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	横位の細沈線。		9	早期	II	1		にぶい赤褐	にぶい赤褐
194	B	C	8	43		沈線文	胴部		3	qt シロ アカ	有(中 量)	横位の細沈線。		6	早期	II	1		黒褐	明赤褐
195	B	D	7	2		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位の細沈線。		4	早期	II	1		暗灰黄	にぶい黄褐
196	F	B	1	48		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	横位の細沈線。		6	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい黄褐
197	B	A	8	3		沈線文	胴部		2	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	横位・斜位の細沈線。	内コゲ	8	早期	II	1		にぶい黄褐	にぶい褐
198	B	C	7	14		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	横位・斜位の太沈線。	外コゲ	7	早期	II	2		にぶい黄褐	にぶい黄褐
	B	C	7	30					3						早期				にぶい黄褐	にぶい黄褐
199	B	A	6	28		沈線文	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位・斜位の太沈線。	外コゲ	7	早期	II	2		にぶい黄橙	にぶい黄橙
200	B	D	7	4		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位・斜位の太沈線。		8	早期	II	2		にぶい黄褐	にぶい黄橙
201	B	B	7	9		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位・斜位の太沈線。		7	早期	II	2		灰黄褐	にぶい黄褐
202	B	B	7	43		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位の太沈線。		8	早期	II	2		灰黄褐	にぶい黄褐
203	B	B	8	32		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	横位・斜位の太沈線。		8	早期	II	2		灰黄褐	にぶい黄褐
204	B	B	8	47		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	横位の太沈線。		7～9	早期	II	2		黒褐	にぶい黄橙
205	B	C	7	63		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	斜位の太沈線。		8	早期	II	2		にぶい黄褐	にぶい黄橙
206	B	B	7	58		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位・斜位の太沈線が交差。		7	早期	II	2		にぶい黄褐	灰褐
207	B	B	8	39		沈線文	胴部	外ナデ	3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位の太沈線。		6	早期	II	2		灰黄褐	灰黄褐
208	B	B	8	44		沈線文	胴部		2	ho qt シロ アカ	有(中 量)	斜位の太沈線。	外コゲ	7	早期	II	2		にぶい黄橙	にぶい黄橙
209	B	B	7	6		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	横位の太沈線。		7	早期	II	2		灰黄褐	にぶい黄橙
210	B	D	6	22		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位の太沈線。		7	早期	II	2		にぶい黄橙	にぶい黄橙
211	B	C	7	23		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ 水晶	有(中 量)	横位・斜位の太沈線。	外コゲ	7	早期	II	2		灰黄褐	にぶい黄褐
212	B	C	8	1		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位の太沈線。		8	早期	II	2		にぶい黄橙	にぶい黄橙
213	B	C	7	59		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	横位・斜位の太沈線。		6	早期	II	2		灰黄褐	にぶい黄橙
214	B	C	7	72		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	横位・斜位の太沈線が交差。		6～8	早期	II	2		にぶい橙	にぶい橙
215	B	B	7	4		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(中 量)	横位の太沈線。		7	早期	II	2		灰褐	にぶい橙
216	B	B	8	38		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の太沈線。		7	早期	II	2		にぶい黄褐	にぶい黄橙
217	B	C	8	24		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の太沈線。		7	早期	II	2		にぶい黄橙	灰黄褐
218	B	B	7	19		沈線文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	横位の太沈線。		7	早期	II	2		灰黄褐	にぶい黄橙
219	F	A	1	15	1	条痕文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)	絡条体圧痕。		8	早期	III	1		褐	褐灰
	F	A	1	15	2				3						早期				褐	褐灰
220	B	B	8	46		条痕文	胴部	内条痕	2	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)	絡条体圧痕。		8～10	早期	III	1		にぶい褐	にぶい褐
221	F	B	1	32		条痕文	胴部	外ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	絡条体圧痕。		7	早期	III	1		灰褐	黒褐
222	B	E	7	29		条痕文	胴部	内条痕	2	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	絡条体圧痕。		7	早期	III	1		褐	灰褐
223	F	B	1	23		条痕文	胴部	内条痕	3	ho qt シロ アカ レキ	有(少 量)	絡条体圧痕。	外コゲ	10	早期	III	1		にぶい褐	にぶい褐
	F	B	1	24					3						早期				にぶい褐	にぶい褐
224	B	D	6	3		条痕文	胴部	内・外条痕	3	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)			10	早期	III	2		にぶい黄	浅黄
225	B	B	5	8		条痕文	胴部	外条痕	3	ho qt シロ アカ	有(多 量)			12～14	早期	III	2		にぶい橙	橙
226	B	D	6	2		条痕文	胴部	外条痕	3	ho qt シロ アカ	有(多 量)			8～10	早期	III	2		にぶい黄	にぶい黄橙
227	B	B	5	6		条痕文	胴部	外条痕	3	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)			11	早期	III	2		にぶい橙	橙
	B	B	5	23					3						早期				にぶい橙	橙
228	G	B	6	7		条痕文	胴部	外条痕	2	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)			8	早期	III	2		灰黄褐	にぶい黄橙
229	B	C	7	57		条痕文	胴部	外条痕	3	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)		内コゲ	7～10	早期	III	2		黒褐	明黄褐
230	G	B	6	8		条痕文	胴部	内・外条痕	2	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)			9	早期	III	2		褐灰	にぶい黄橙
231	表面採集					条痕文	胴部	内・外条痕		ho qt シロ アカ レキ 水晶	無			10	早期	III	2		黒褐	明黄褐
232	F	E	1	1		条痕文	胴部	内・外条痕	2	ho qt シロ アカ	有(少 量)			9	早期	III	2		にぶい褐	にぶい橙
233	B	A	6	6		縄文	胴部		2	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)	縄文RL・LR。羽状縄文。		8～10	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
	B	A	6	31					3						早期				褐灰	にぶい黄橙
234	B	A	6	9		縄文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)	縄文RL。	外コゲ	9～11	早期	IV			褐灰	褐灰
235	B	A	6	7		縄文	胴部		2	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文RL・LR。羽状縄文。		7～9	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
	B	A	6	32					3						早期				褐灰	にぶい黄橙
	B	A	6	33					3						早期				褐灰	にぶい黄橙
236	B	B	6	9		縄文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)	縄文RL・LR。	外コゲ	10	早期	IV			褐灰	灰黄褐
237	B	A	6	4		縄文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(中 量)	縄文RL。		7～9	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
238	B	A	6	5		縄文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文RL。		9	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
239	B	B	6	8		縄文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ	有(多 量)	縄文RL。		8	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
240	B	B	6	27		縄文	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文LR。		8～10	早期	IV			褐灰	褐灰
241	B	B	6	3		縄文	胴部(底に近い)		2	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文RL。		9	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
242	B	B	6	14		縄文	胴部		2	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文RL。		11	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
243	B	A	5	4		縄文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文LR。		8～10	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
244	B	A	6	27		縄文	胴部		2	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文LR。		7	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
245	B	A	6	29	1	縄文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文RL。		8～10	早期	IV			褐灰	褐灰
246	B	A	6	26		縄文	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文RL。		9～11	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
247	B	A	6	2		縄文	胴部(底に近い)		3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文RL。		9～13	早期	IV			褐灰	にぶい黄橙
248	F	B	1	1		縄文	胴部		3	ho qt シロ アカ	有(少 量)	縄文RL・LR。	外コゲ	7	早期	IV			にぶい黄橙	黒褐
249	B	B	5	16		縄文	胴部	内条痕	3	ho qt シロ アカ レキ	有(中 量)	縄文RL。		7	早期	IV			にぶい黄褐	黒褐
250	B	E	7	14		沈線	胴部		3	ho qt シロ アカ レキ 水晶	有(少 量)	隆線に沈線。			早期				明黄褐	橙
251	F	B	1	21		沈線	口縁部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	無	環状突起。			中期				灰黄褐	にぶい黄橙
252	F	B	1	22		沈線	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	無	渦巻文。			中期				灰黄褐	にぶい黄橙
253	F	B	1	26		沈線	胴部	内ナデ	3	ho シロ アカ	無	渦巻文。			中期				灰黄褐	にぶい黄橙
254	B	B	8	13		沈線	口縁部		3	ho qt シロ アカ	無				中期				にぶい黄橙	にぶい黄橙
255	B	B	8	59		沈線	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	無	隆線に半裁竹管による爪形文。			中期				灰黄褐	にぶい黄橙
256	F	B	1	54		沈線	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	無				中期				灰黄褐	にぶい黄橙
257	B	B	8	12		沈線	胴部		3	ho シロ アカ	無				中期				灰黄褐	にぶい黄橙
258	F	B	1	19		沈線	胴部	内ナデ	3	ho qt シロ アカ	無				中期				灰黄褐	にぶい黄橙

ho：角閃石、qt：石英、シロ：白色岩片、アカ：赤色岩片、bi：黒雲母、レキ：２mm以上の小礫、水晶：２mm以上の結晶を表す

間の隔たりがなかった根拠として考えておきたい。

押型文土器166点の内訳は楕円文が43.4%、異種文様並列が23.5%、平行線文が20.5%、山形文が8.4%、格子目文が4.2%、である（表５）。楕円文の割合が高く、異種文様並列の土器を含んでいる状況は、塞ノ神遺跡（笹沢ほか，1966）の状況に似る。繊維痕や水晶（石英）が含まれている点も共通する。塞ノ神遺跡は細久保式に併行すると考えられ、押型文土器の終末期に位置づけられており、今回霊仙寺遺跡から出土した押型文土器も同様の時期に属するものと考えられる。ただし、山形文が施文された土器には繊維を含まないものがあり、それらはすべて帯状施文されている（図23－１、２、６～10）。これらの土器は上記の繊維を含む土器よりも古く、樋沢式期の土器と位置づけておきたい。

Ⅱ群の沈線文系土器は細沈線と太沈線に分類した。貝殻腹縁文をもつものは含まれていない。全体に胎土に繊維を含んでいる。Ⅱ－１細沈線とⅡ－２太沈線の土器を比べると、繊維の量はⅡ－２の方が多い。器壁はⅡ－１の方が薄く、ナデによる丁寧な調整もⅡ－１に多い。沈線の太さのみで考えれば、Ⅱ－２の太沈線は田戸下層式に併行、Ⅱ－１の細沈線は田戸上層式に併行するといえるかもしれない。しかし、Ⅱ－２の方が繊維を多く含む点など疑問点もあり、これらは一括して田戸式に併行するものととらえておきたい。出土状況からも、これらは押型文土器とほぼ同時期のものと考えておきたい。

Ⅲ群は条痕文土器で、絡条体圧痕文のあるものとないもので分離した。Ⅲ－１の絡条体圧痕文のあるものは隆帯などは設けず、胴部へ直接絡条体圧痕を施文している。資料が断片的で十分な比較はできないが、琵琶島遺跡出土の土器（小笠原ほか，1994）に類似点が見られ、これを参考にすれば、茅山上層式段階を考えておきたい。

Ⅳ群は羽状縄文を含む縄文土器、Ⅴ群は無文土器である。

一般に、押型文土器、沈線文系土器は早期中葉に、条痕文土器、縄文土器は早期末から前期初頭に位置づけられる。遺物の出土状況からは文様の異なる土器を明確に分離することはできなかった。そのため今回出土した土器を一括出土の土器ととらえ、縄文時代早期中葉～後半の中のある限定された一時期の土器の構成と考えることができる。表１のように、押型文が出土している多くの遺跡からは条痕文土器も出土している状況から、この地域においてはこれらの土器がほぼ同時期に並存していたと考えることもできよう。また、一方で、Ⅲ群とⅣ群はⅠ、Ⅱ群と比べて出土点数が少なく、特にⅣ群は１ヵ所にまとまって出土した状況がある。Ⅰ、Ⅱ群の縄文時代早期中葉には集落があったが、早期末から前期初頭には短期的にのみ利用されたものと考え、早期中葉と早期末～前期初頭の２時期の土器が混在している可能性もある。

出土した土器の扱いについては以上のように両論を考えておき、今後の資料の増加と周辺の遺跡との比較研究の中で結論が出されることを期待したい。

２．縄文時代早期の石器

Ａ．概　要

石器は194点出土した。出土したほとんどの土器が縄文時代早期に属することから、石器の所属時期も同様に縄文時代早期と考えておきたい。剥片を素材とした製品は石鏃が３点、掻器２点、削器２点、石錐１点、楔形石器１点である。石鏃の未製品としたものは６点出土した（表７）。石材別ではチャートの点数が最も多く68点で、全体の35%を占める。次に45点の凝灰岩、29点の黒曜石の順となっている。信濃町には石器石材の原産地は確認されておらず、これらの石器の素材はいずれも搬入されたものと考えられる。

石斧は１点のみ出土した。

礫を素材とした石器では磨石、敲石が出土した。磨石は、縄文時代早期に特徴的な特殊磨石が多数出土している。

Ｂ．分布状況

石器の分布も地形の影響を受けており、縄文土器の分布と調和的に分布しているように見られる（図32）。西調査区に多くが分布し、東調査区は少数が散漫に分布する。石器の分布によって遺跡内の場を推定することはできなかった。

Ｃ．石器（図33～35）

石鏃は３点出土した。いずれも凹基無茎鏃で、259はチャート製、260、261は黒曜石製である。260、261には脚の付け根付近に抉入部がある。262～267の６点は、形状と剥離の位置等から石鏃の完成に至らなかった資料と考えられ、石鏃未製品とした。268はチャート製の削器で、一側縁全体に刃部が設けられている。269、270はともに凝灰岩製の掻器で、剥片の一側縁に連続した急角度調整によって刃部が設けられている。271は無斑晶質安山岩製の石錐で、先端部を両面からの剥離によって尖らせている。272は凝灰岩製の楔形石器で、上下両端部の表裏面に剥離痕が見られる。273、274は不定形石器とした。273は突起状の部分に二次加工が施されている。274は剥片の主要剥離面の一側縁に連続した剥離が施されており、また石匙の突起様のものがある。273、274はいず

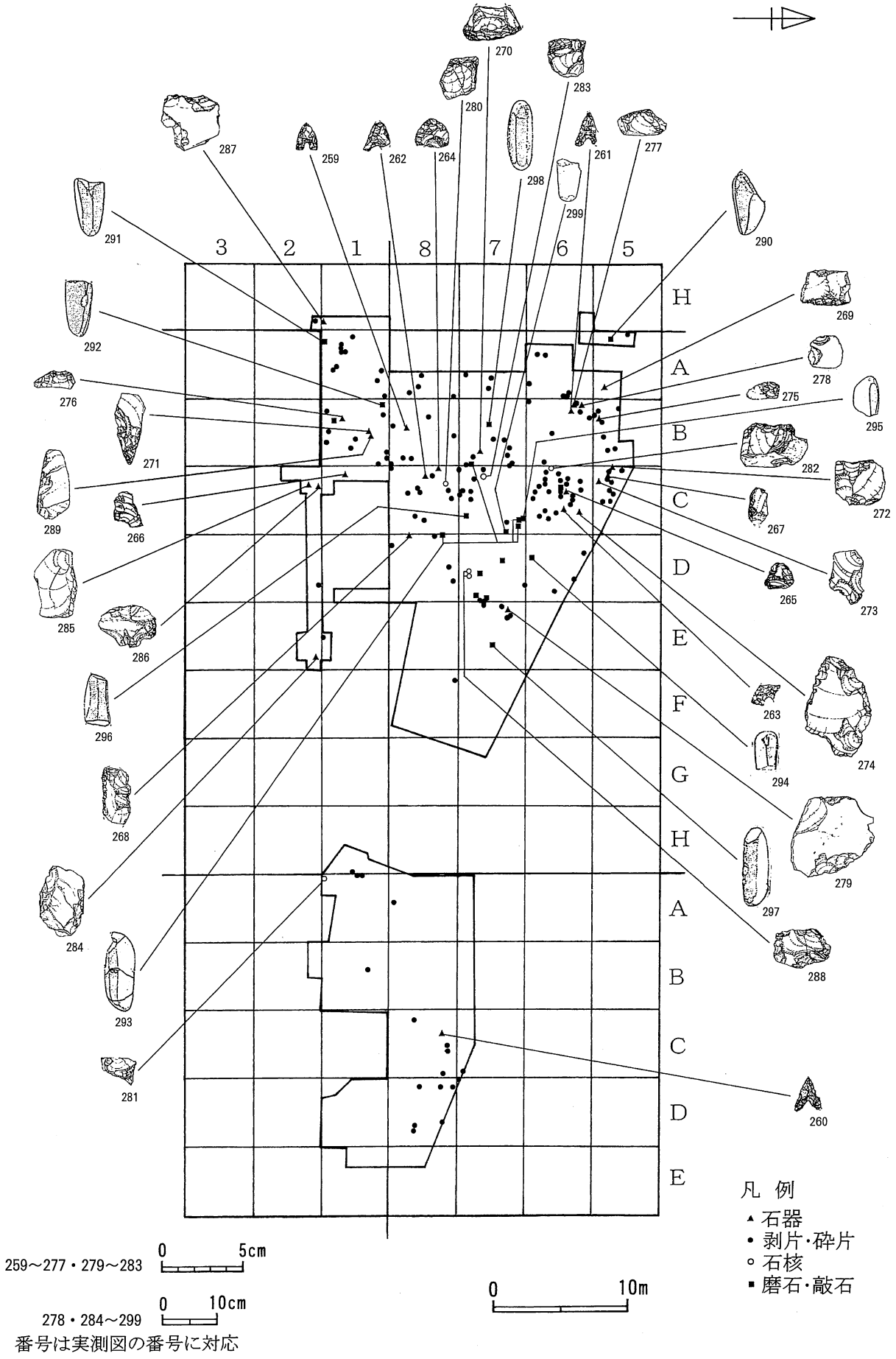

3
2
1
8
7
6
5
H
A
B
C
D
E
F
G
凡 例
▲ 石器
• 剥片・砕片
○ 石核
■ 磨石・敲石
259～277・279～283 0 5cm
278・284～299 0 10cm
0 10m
番号は実測図の番号に対応

図32　石器の分布

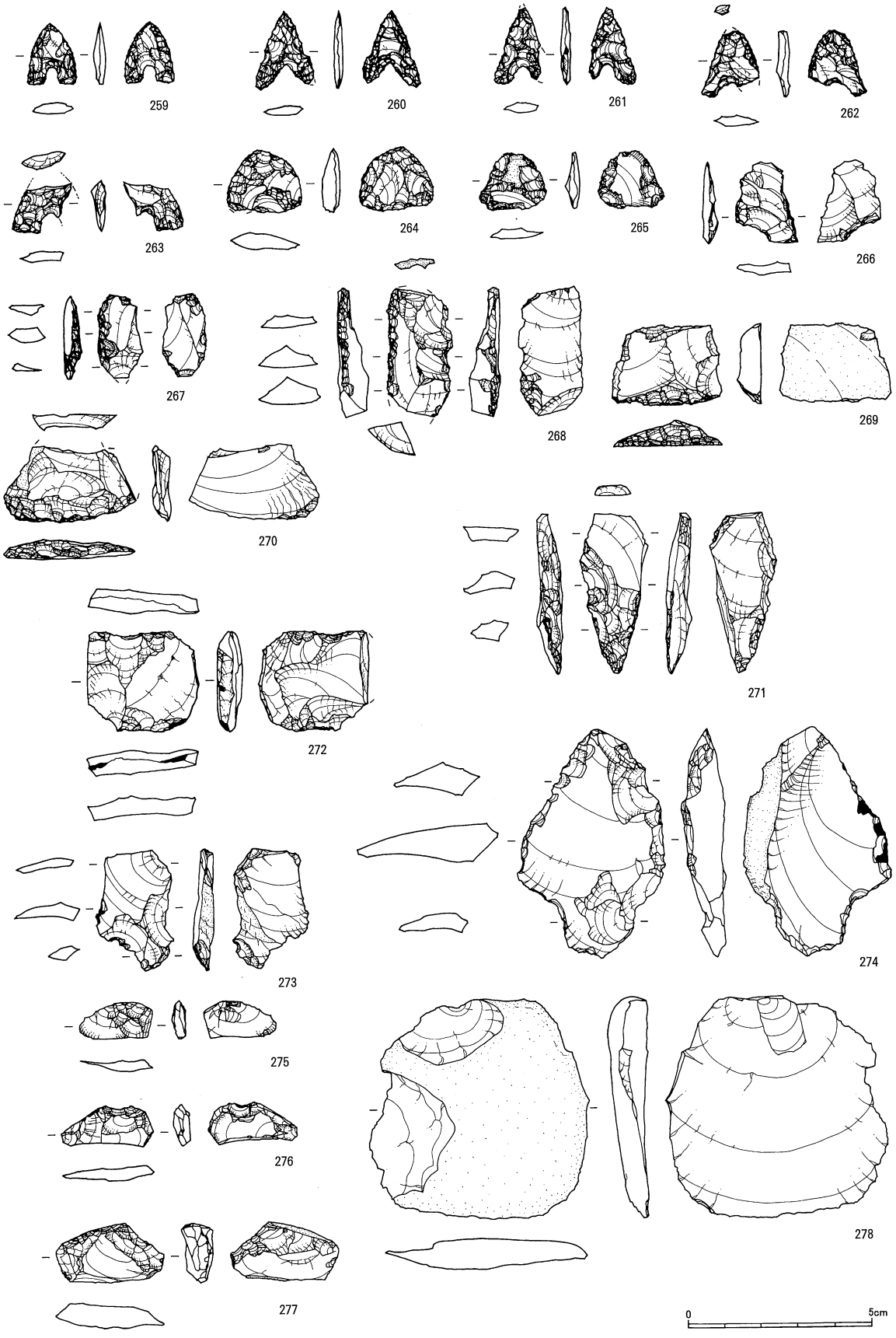


図33　縄文時代早期の石器（石鏃・削器・掻器・石錐・楔形石器・不定形石器・剝片）

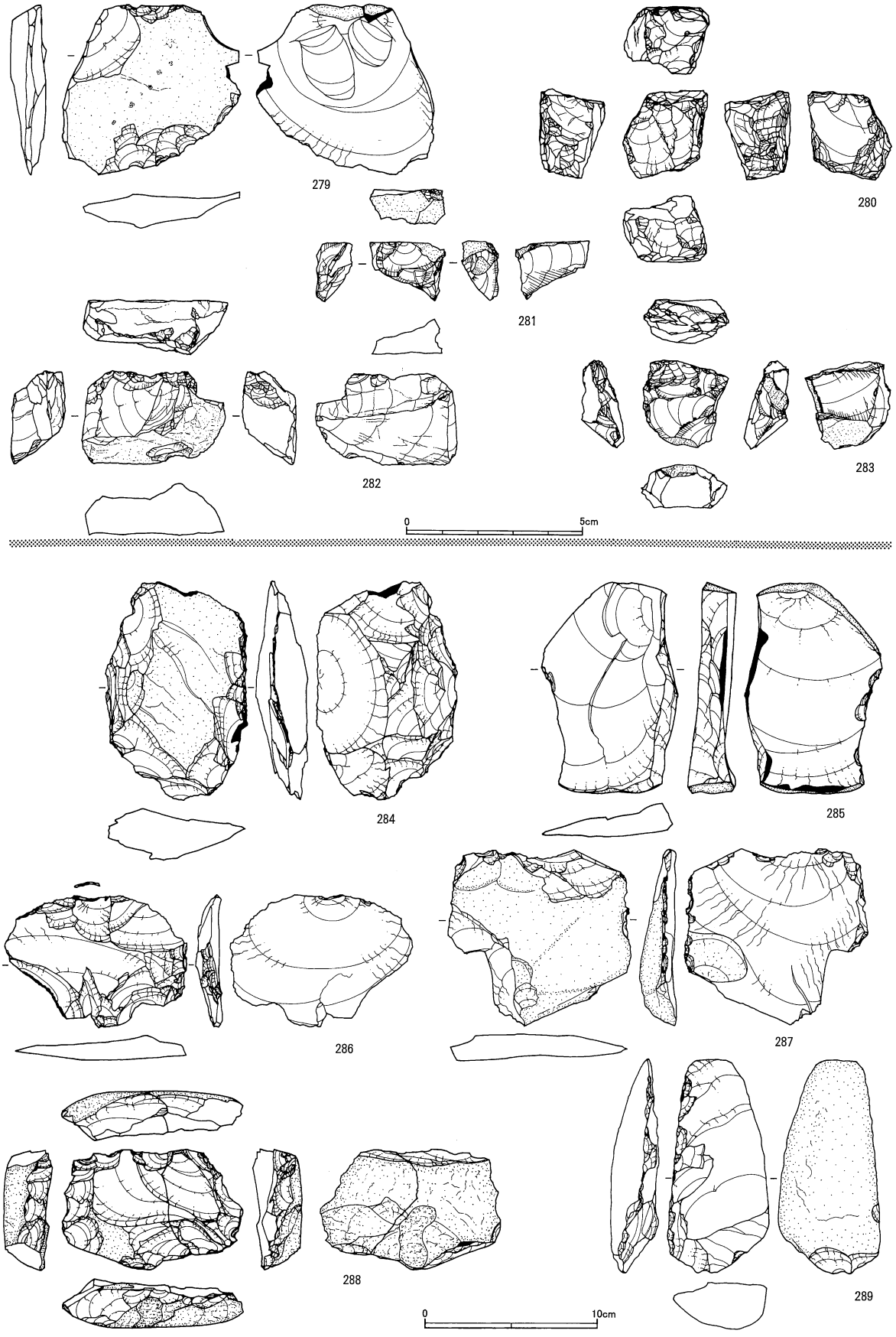


図34　縄文時代早期の石器（剝片・石核・削器・石斧）

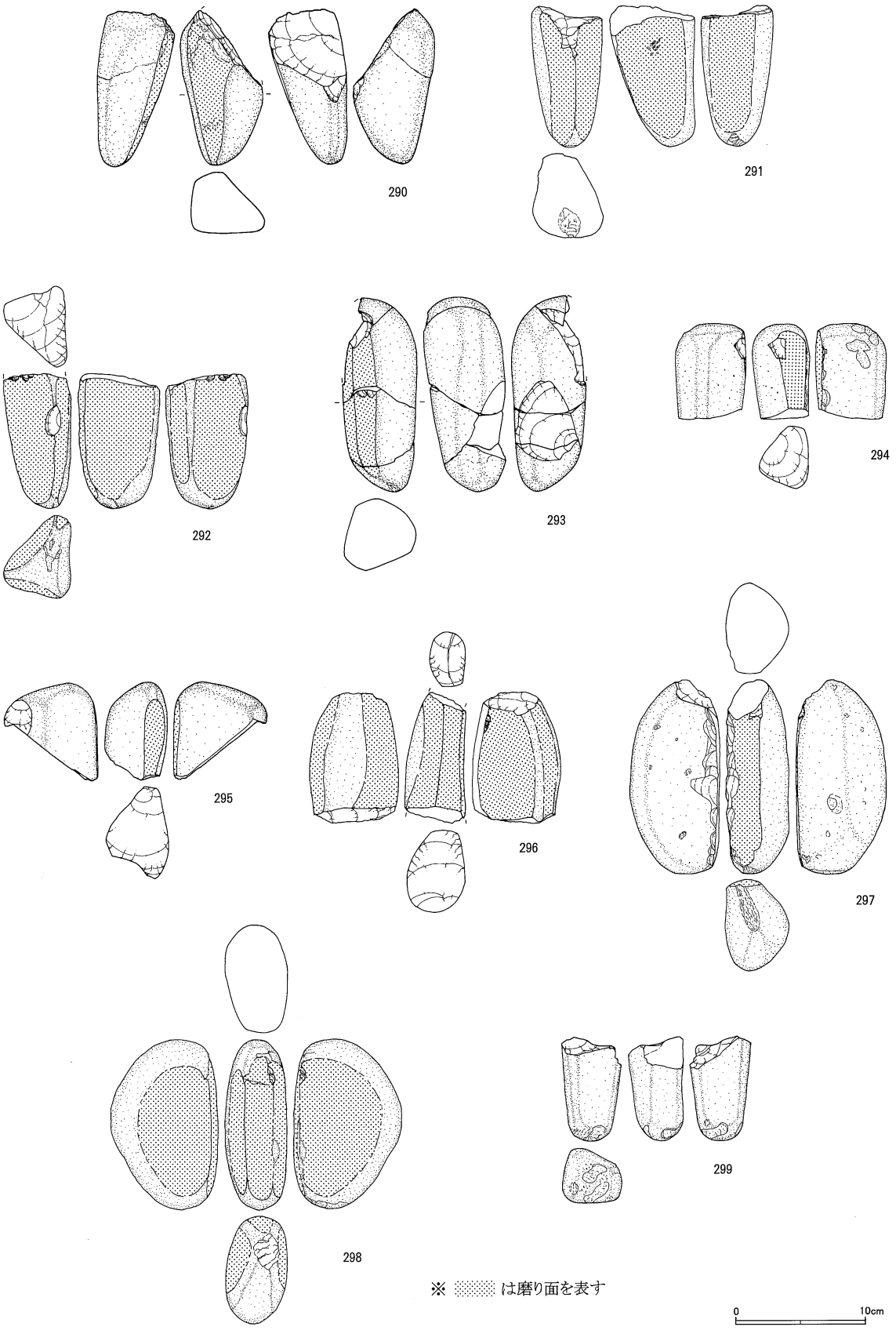


図35　縄文時代早期の石器（特殊磨石・敲石）

表7　主な石器の観察表（図33～35に対応）

図番号	グリッド			遺物番号	遺物名	石材	地層	標高(m)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	特徴
259	B	B	8	8	石鏃	Ch	Ⅱ	882.560	1.7	1.4	0.4	0.7	凹基無茎鏃。
260	C	C	8	14	石鏃	Ob	Ⅱ	878.910	2.1	1.6	0.3	0.5	凹基無茎鏃。両側縁に抉入部あり。
261	B	B	6	10	石鏃	Ob	Ⅱ	882.880	2.1	1.3	0.3	0.5	凹基無茎鏃。先端と脚の一方が欠損する。
262	B	C	8	40	石鏃未製品	Ch	Ⅲ	881.960	1.8	1.6	0.4	0.7	凹基無茎鏃の未製品。
263	B	C	6	34	石鏃未製品	Tu	Ⅱ	882.150	1.4	1.6	0.4	0.6	凹基無茎鏃の未製品。
264	B	C	8	34	石鏃未製品	Ch	Ⅲ	882.080	1.8	2.1	0.5	1.7	両面ともに周縁からの平坦な剥離により整形されている。
265	B	C	6	20	石鏃未製品	Ob	Ⅱ	882.270	1.6	1.8	0.4	0.8	周縁からの平坦な剥離による整形が見られる。
266	F	C	1	1	石鏃未製品	Tu	Ⅲ	881.970	2.2	1.7	0.4	1.1	脚部の整形が見られる。
267	B	C	5	15	石鏃未製品	Tu	Ⅱ	882.250	2.3	1.2	0.5	1.1	一側縁の両面に小剥離がある。
268	B	D	8	37	削器	Ch	Ⅲ	881.720	3.5	1.8	0.9	4.4	縦長の剥片の一側縁に連続した小剥離が施されている、刃角は65度前後。別の側縁には抉入部が2ヵ所あり、裏面下部に平坦な剥離が見られる。
269	B	A	5	5	掻器	Tu	Ⅱ	882.910	2.2	3.0	0.7	3.8	一側縁に急角度の剥離によって直線的な刃部を整形している。刃角は70～80度。
270	B	B	7	12	掻器	Tu	Ⅲ	882.410	2.1	3.6	0.5	3.7	剥片の一側縁に弧を描くように刃部が形づくられている。刃角は45～60度。
271	F	B	1	33	石錐	An	Ⅱ	882.480	4.4	1.9	0.7	5.0	表裏両面から先端を尖らせる加工が施されている。
272	B	C	5	2	楔形石器	Tu	Ⅱ	882.400	2.7	3.0	0.7	5.3	上下両端の表裏に剥離痕が見られる。
273	B	C	5	7	不定形石器	Ch	Ⅱ	882.310	3.3	2.1	0.6	3.0	剥片の一端に小剥離が施されている。未製品か。
274	B	C	6	35	不定形石器	Tu	Ⅱ	882.100	6.2	4.0	1.2	20.6	自然面を残す剥片の主要剥離面側に中程度の連続した剥離が施されている。石匙の未製品か。
275	B	B	5	5	剥片	Ch	Ⅲ	882.720	1.0	2.0	0.4	0.6	横長の剥片の背面上部に平坦な小剥離が施されている。
276	F	B	1	12	剥片	Ch	Ⅲ	882.500	1.1	2.5	0.5	1.2	剥片の一端に表裏両面の剥離が見られる。
277	B	B	6	4	剥片	Ch	Ⅱ	882.880	1.6	2.9	0.9	3.4	自然面が残る剥片の端部に小剥離が見られる。
278	B	B	6	2	剥片	Hf	Ⅱ	882.840	6.0	6.0	1.1	37.2	大型の幅広の剥片で、自然面を打面とし、剥離角は約90度。自然面を多く残す。末端部に微細な剥離痕がある。
279	B	E	7	5	剥片	Tu	Ⅱ	881.380	4.8	5.0	1.1	16.5	幅広の剥片で自然面を打面とし、剥離角は112度。背面の末端に中小の剥離が施されている。
280	B	C	8	20	石核	Ch	Ⅱ	882.140	2.5	2.4	1.9	13.0	サイコロ状の石核で、打面を固定せず、90度の打面転移をして、剥片剥離をおこなっている。
281	G	A	1	13	石核	Ob	Ⅱ	879.490	1.7	2.1	1.0	2.5	剥片を素材とした石核で、打面は平坦な自然面である。小型の幅広の剥片を剥離していて、剥離角は119度。
282	B	C	6	7	石核	Ch	Ⅱ	882.380	2.6	4.1	1.5	16.4	自然面が残る剥片を素材とした石核で、単剥離面を打面とし、126度の剥離角で幅広の剥片を剥離している。
283	B	C	7	61	石核	Ob	Ⅱ	882.330	2.5	2.4	1.3	5.6	剥片を素材とした石核で、単剥離面を打面として、小型の剥片を剥離していてる。石鏃などの石器の未製品の可能性もある。
284	F	E	2	1	削器	Tu	Ⅲ	880.500	12.6	8.2	3.0	270.0	自然面の残る大型の板状の剥片を素材とし、周縁から中心に向かって幅広の剥片を複数剥離した石核を素材とし、一側縁に連続した小剥離によって刃部を施した石器。スクレイパーの用途が考えられる。
285	F	C	2	2	剥片	Tu	Ⅲ	881.770	12.2	7.9	2.8	210.0	表裏面ともにポジティヴな面をもつ剥片で、自然面を打面として剥離されている。末端にも自然面が残る。
286	F	C	2	1	剥片	Tu	Ⅲ	881.710	7.6	10.5	1.5	92.3	大型の横長剥片で、単剥離面打面を残す。剥離角は134度。求心的な剥片剥離をおこなった石核から剥離されたものと思われる。
287	E	H	1	3	剥片	TS	Ⅲ	882.970	10.1	10.6	2.1	198.4	大型の幅広の剥片で、打面部を欠損する。背面は自然面を多く残す。裏面の縁辺に小剥離がみられる。
288	B	D	7	48	石核	Tu	Ⅱ	881.480	7.0	6.3	2.8	131.1	自然面を多く残す板状の剥片を素材とした石核で、縁辺から中心に向かって加撃し、幅広の剥片を剥離している。最も大きな剥離痕は単剥離面を打面とし、剥離角116度で剥離されている。
	B	D	7	49			Ⅱ	881.500	6.4	4.4	2.5	66.7	
289	F	B	1	63	石斧	Tu？	Ⅲ	882.220	12.4	5.9	2.8	236.0	長細い円礫を長軸方向に分割し、分割した面の一側縁に平坦な剥離が施されている。石斧製作途上と思われる。
290	B	A	5	2	特殊磨石	And	Ⅲ	883.110	12.1	6.3	6.0	442.0	一端が先細る楕円形の礫の一稜線を研磨。一端を欠損する。打面は三角形を呈する。
291	F	A	1	22	特殊磨石	And	Ⅱ	883.060	10.9	5.5	6.6	456.0	一端が先細る楕円形の礫の一稜線とそれに隣り合った面のニ面を研磨。打面は三角形を呈する。先細った先端部には敲打痕がある。一部を欠損する。
292	F	B	1	15	特殊磨石	And	Ⅲ	882.510	10.4	5.2	6.4	389.0	断面三角形の楕円形の礫の一稜線上を研磨し、ほかの広い三面も研磨されている。一部欠損する。
293	B	B	7	18	特殊磨石	And	Ⅱ	882.170	8.6	6.3	5.9	364.0	楕円形の礫の一端を研磨し、幅1.8cmの帯状の磨面をつくりだす。さらに隣り合った面を研磨している。一部を欠損する。先端に敲打痕がある。
	B	C	7	2			Ⅱ	881.940	5.1	4.3	3.4	72.0	
	B	C	7	47			Ⅳ	881.790	6.5	5.4	5.2	179.5	
	B	D	8	3			Ⅱ	881.640	5.0	2.6	2.4	23.0	
294	B	D	6	19	特殊磨石	Sa	Ⅱ	881.680	7.4	4.4	5.5	300.0	断面三角形の礫の一稜線上を研磨し、幅1.6cmの帯状の磨面をつくりだす。一端を欠損する。
295	B	C	7	3	特殊磨石	And	Ⅲ	881.780	7.7	4.9	7.4	259.0	断面三角形の礫の一稜線上を研磨し、幅1～1.4cmの帯状の磨面をつくりだす。一端を欠損する。
296	B	C	7	24	特殊磨石	And	Ⅲ	881.740	10.2	4.7	6.9	450.0	断面楕円形の礫の一側面を研磨し、幅1.4～2.1cmの帯状の磨面をつくりだす。この面の両側面も研磨されている。両端を欠損する。
297	B	E	7	37	特殊磨石	And	Ⅱ	881.070	15.2	4.9	7.1	756.0	断面楕円形の礫の一側面を研磨し、幅2cm前後の帯状の磨面をつくりだす。端部は一方で敲打痕があり、他方は欠損する。
298	B	B	7	1	特殊磨石	And	Ⅱ	882.640	13.2	4.8	8.3	806.0	断面楕円形の礫の一側面を研磨し、幅2～2.2cmの帯状の磨面をつくりだす。その面の両側面も研磨されている。端部には一方のみ敲打痕がある。
299	B	C	7	7	敲石	And	Ⅲ	881.740	8.1	4.8	4.3	202.0	棒状の円礫の端部に敲打痕がある。他方の端部は欠損する。

れも石匙の未製品の可能性がある。275～279は剝片である。275～277は小型の剝片に小剝離が施されているものである。278は背面に広く自然面を残し、自然面を打面として剝離された幅広の剝片である。279は剝片の自然面が残る背面に平坦な二次加工が施されている。280～283は石核である。280はサイコロ状を呈し、打面を90度入れ換えて剝片剝離をおこなっている。281、282は剝片を素材とし、平坦な打面を加撃して幅広の剝片を剝離している。283は剝片を素材とした石核で、連続した小剝離がおこなわれている。石器の未製品の可能性もある。284は大型の削器で、大型の剝片を素材として縁辺で幅広の剝片を剝離した石核を転用し、連続した小剝離によって刃部をつくり出した削器である。285～287は大型の剝片である。285は表裏面ともにポジティヴな剝離面をもち、打面と末端部に自然面を残す剝片である。286は縁辺を加撃して幅広の剝片を複数剝離した大型の石核から剝離されたものと思われる。287は自然面を多く残す大型の剝片で、裏面の一側縁に小剝離が見られる。288は石核で、2点の接合資料である。裏面がすべて自然面の剝片を用い、平坦な単剝離面、または、自然面を打面とし、上下左右の四方向から加撃して、幅広の剝片剝離をおこなっている。289は細長い礫を用いてそれを半截して素材とし、一側縁に縁辺からの剝離が施されているもので、石斧の未製品と思われる。

290～298は川原石（転石）を素材とし、稜の部分を研磨によって細長い帯状の平坦な磨り面を有する特殊磨石である。290は稜上にのみ磨り面が見られる。291は稜上と隣接する一面に磨り面があり、端部に敲打痕が見られる。292は稜上と隣接する2つの面に磨り面がある。293～295は稜上にのみ磨り面が見られ、293には敲打痕が見られる。296は稜上と隣接する2つの面に磨り面があり、上下両端部が欠損する。297、298はともに敲打痕が見られる。298を除いた8点は欠損しており、欠損が原因で廃棄された可能性が考えられる。299は自然礫の端部に敲打痕が見られる敲石で、他方の端部は欠損している。

3．縄文時代中期の土器（図31）

8点がまとまった状態で出土し（図22）、胎土や調整の状況もほぼ同様であることから、これらは同一個体の可能性が高い。252、253は渦巻文で、中心から曲線が出ていくような風車状の文様である。資料数が少なく、それぞれが小片であることから詳細な検討はできないが、文様などから中期の越後系の土器と考えられ、縄文時代中期前半に位置づけておきたい。

第Ⅵ章　古　　代

1．遺物の概要

古代の遺物は土師器と黒色土器で、合わせて111点出土した。内訳は土師器が71点、黒色土器が40点である。遺構は検出できず、土器の分布を把握するにとどまった。土器は小破片が多いことから、埋積するまでに時間を要したものと考えられる。

2．遺物の分布状況

古代の土器は縄文土器が集中する範囲とは違い、東調査区から多数が出土した（図36）。土師器と黒色土器の分布に違いは見られない。これらの土器は埋積までに時間を要し、地形の影響を受けて移動したものと思われるが、100点を超える土器片が出土している状況から考えると、この近辺のⅡ層中に住居があったものと思われる。

3．土　器

図化に耐えられる土器片が少なく、図化は20点にとどまった。器形全体が分かる資料はなく、口縁部13点、底部7点を示した（図37）。口縁部は6点が黒色土器で、底部は5点が黒色土器である。底部6点は回転糸切り底である。316、317、319は高台が付く。

4．所属時期について

器形を復元できる土器数が少なく、土器片の数も少ないため、時期を特定するための十分なデータを持ちえていないが、土器の特徴から所属時期を推測してみたい。まず、土器は土師器と黒色土器であり、須恵器は出土していない。土師器、黒色土器にはともに杯と椀がある。単純に土器片の数で考えると、土師器対黒色土器の割合はおよそ6対4の比率になる。こうした特徴を、屋代遺跡群・更埴条里遺跡の資料をもとにした古代の土器編年（長野県埋蔵文化財センター，2000b）にあてはめてみると、まず、食膳具の主体が黒色土器から土師器に逆転するのが古代9期であるが、古代9期は土師器杯AⅡの口径平均が12cm台である。古代10期が口径平均11cm台、古代11期に10cm台へと縮小するという。310が土師器杯とすれば、口径が10.2cmで、単純にあてはめれば、古代11期ということになろう。

こうした状況をふまえ、所属時期は古代10期～11期、年代で示せば10世紀中葉～後半と考えておきたい。

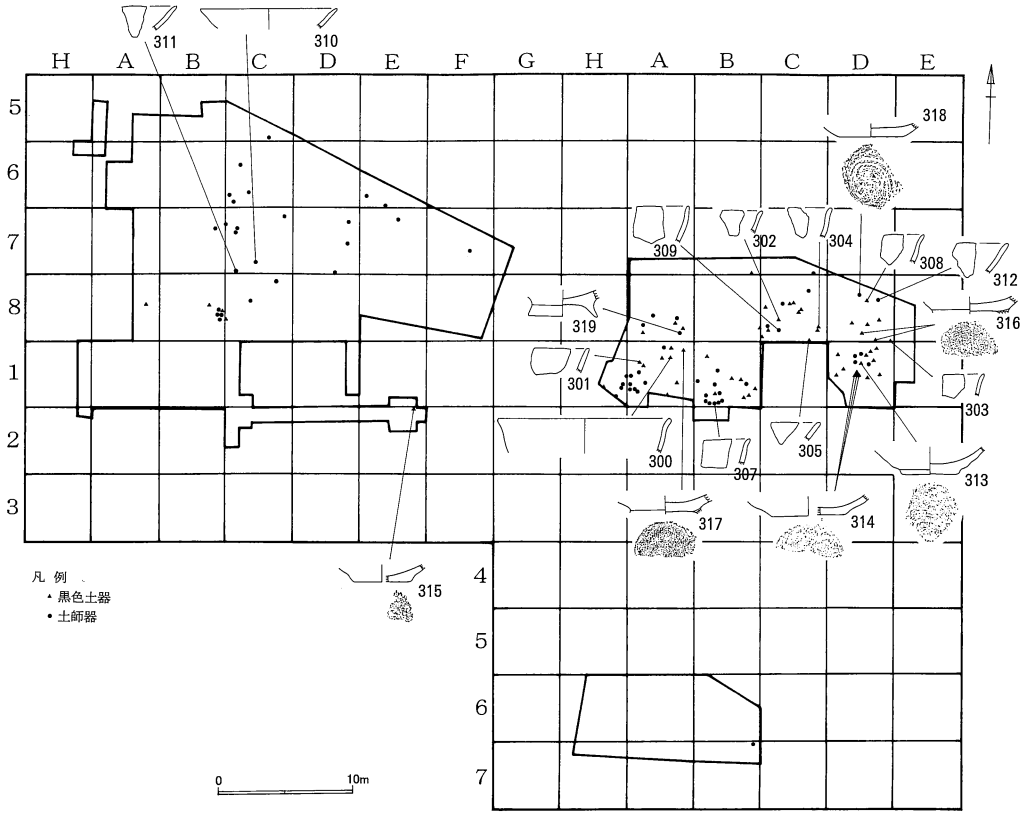


図36　古代の土器の分布

表 8　主な黒色土器・土師器の観察表（図37に対応）

図番号	グリッド			遺物番号	遺物名	部位	口径(cm)	底径(cm)	地層	標高(m)	調整		含有物	色調	
														内面	外面
300	G	A	1	24	黒色土器	口縁	13.0		Ⅱ	879.240		内黒	qt、白、赤、小レキ	黒	橙
301	G	A	1	2	黒色土器	口縁			Ⅱ	879.430		内黒	qt、白、赤、小レキ	黒	浅黄橙
302	C	C	8	7	黒色土器	口縁			Ⅱ	878.950		内黒	qt、白、赤、小レキ	黒褐	にぶい橙
303	C	D	8	16	黒色土器	口縁			Ⅱ	878.080		内黒	ho、qt、白、赤、小レキ	黒	にぶい黄橙 表面オコゲ
304	C	C	8	20	黒色土器	口縁			Ⅱ	878.490		内黒	qt、白、赤、小レキ	黒褐	黒褐
305	C	C	8	21	黒色土器	口縁			Ⅱ	878.560		内黒	ho、qt、白、赤、小レキ	黒	にぶい黄橙
306	表面採集				土師器	口縁							qt、白、小レキ	橙	橙
307	G	B	1	9	土師器	口縁			Ⅱ	879.010			qt、白、赤、小レキ	褐灰	橙
308	C	D	8	6	土師器	口縁			Ⅱ	878.260			ho、qt、白、赤、小レキ	褐灰	にぶい橙
309	C	C	8	6	土師器	口縁			Ⅱ	878.820			qt、白、赤、小レキ	にぶい黄褐	にぶい褐
310	B	C	7	35	土師器	口縁	10.2		Ⅱ	882.020			ho、qt、白、赤、小レキ	にぶい橙	にぶい橙
311	B	C	7	75	土師器	口縁			Ⅱ	882.170			ho、qt、白、赤、小レキ	にぶい橙	にぶい橙
312	C	D	8	7	土師器	口縁			Ⅱ	878.230			ho、qt、白、赤、小レキ	にぶい橙	にぶい橙
313	G	D	1	10	黒色土器	底		4.0	Ⅱ	878.160	回転糸切	内黒	ho、qt、白、赤、小レキ	黒	浅黄橙
314	G	D	1	5	黒色土器	底		5.6	Ⅱ	878.160	回転糸切	内黒	ho、qt、白、赤、小レキ	黒	橙
	G	D	1	6					Ⅱ	878.200					
	G	D	1	18					Ⅱ	878.140					
315	F	E	2	2	黒色土器	底		4.2	Ⅱ	880.650		内黒	ho、qt、白、赤、小レキ	黒褐	にぶい黄橙
316	G	A	1	18	黒色土器	底		5.4	Ⅱ	879.330	回転糸切	内黒	ho、qt、白、赤、小レキ	黒褐	橙
317	C	D	8	14	黒色土器	底		5.8	Ⅱ	878.200	回転糸切	内黒	qt、白、赤、小レキ	黒	浅黄橙
	C	D	8	15					Ⅱ	878.100				黒	
318	C	D	8	4	土師器	底		4.6	Ⅱ	878.340	回転糸切		ho、qt、白、赤、小レキ	橙	にぶい橙
319	C	A	8	13	土師器	底		5.2	Ⅱ	879.390			ho、qt、白、赤、小レキ	橙	にぶい橙

ho：角閃石、qt：石英、白：白色岩片、赤：赤色岩片、小レキ：小さな礫を表す

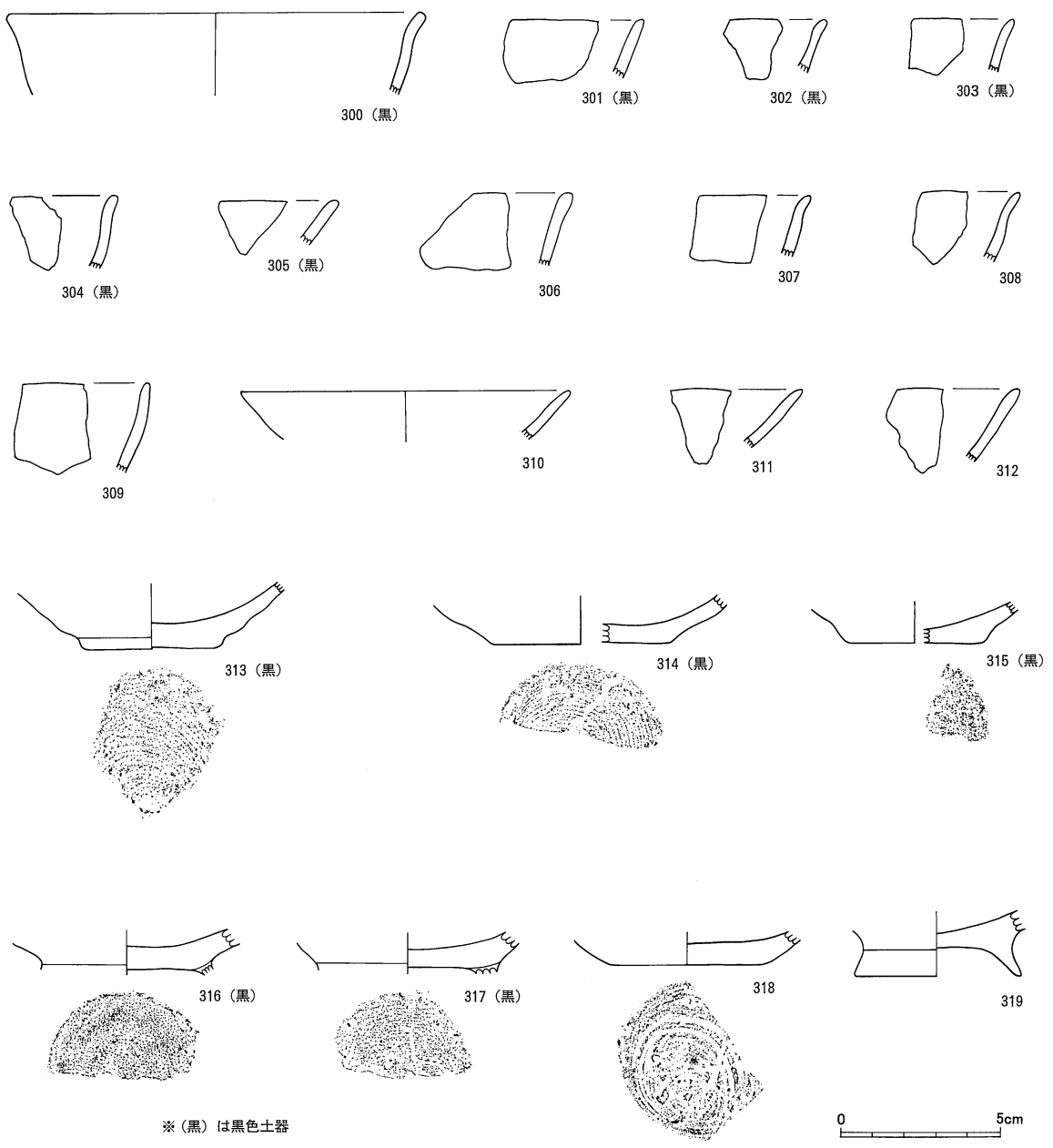


図37　古代の土器（黒色土器・土師器）

第Ⅶ章　まとめと今後の課題

鎌倉時代に開山したという霊仙寺に関する遺構、遺物が出土することを予測しての発掘調査であったが、予想に反し、中世の遺跡は検出できず、縄文時代早期、中期、平安時代の遺物を多数得ることができた。遺構は検出できなかったが、土器の出土状況から、縄文時代早期、平安時代後半にはここに集落があったと考えられる。このことは、中世に寺社がこの地に設置される以前からこの地に人々が暮らしていたことを示しており、標高900ｍに近い霊仙寺山麓の歴史を書き換える成果を得ることができた。縄文時代早期の土器は小破片が多いものの、縄文時代早期中葉の押型文土器終末期の土器がまとまっており、北信地方の当該期の土器の様相を示す良好な資料といえよう。信濃町では近年、縄文時代早期の遺跡が多数発掘された（表１）。また、新潟県上越地方でも同様に発掘調査の成果が報告されている。霊仙寺遺跡をはじめ、この地域の当該期の遺跡の様相を明らかにしていくことが、今後の課題であろう。

成果の要約

1．調査の結果、縄文時代、平安時代の遺物を得た。史跡霊仙寺跡に関する中世の遺構、遺物は検出できなかった。

2．開発面積は9,453㎡で、その内820㎡を発掘調査し、898点の遺物を得た。縄文時代の遺物は773点、内訳は縄文土器517点、石器194点、礫62点である。平安時代の遺物は111点で、内訳は土師器71点、黒色土器40点である。

3．縄文時代早期の土器では押型文土器が多数出土し、特に楕円文と異種文様を並列するものが大きな割合を占めた。また、沈線文系土器も多数出土した。これらの土器は埋積までに大きな時間差はなかったと判断し、早期中葉の押型文土器終末期の様相を示す良好な資料群と位置づけた。

4．平安時代の土器は10世紀中葉～後半に属するものと位置づけた。

文献

小笠原永隆・野尻湖人類考古グループ　1994 「琵琶島遺跡採集の縄文土器」『野尻湖博物館研究報告』第2号
笹沢浩・小林孚　1966 「長野県上水内郡信濃町塞ノ神遺跡出土の押型文土器」『信濃』第18巻第4号
信濃町教育委員会　1994 『丸谷地遺跡・大道下遺跡発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　1995 『貫ノ木遺跡・日向林B遺跡（個人住宅地点）発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　1997 『大道下遺跡（4次）ほか信濃町内遺跡発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　1999 『大久保南遺跡（4次）ほか発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　2000 『仲町遺跡（個人住宅地点）ほか掘調査報告書』
信濃町教育委員会　2003a 『平成14年度町内遺跡発掘調査報告書』
信濃町教育委員会　2003b 『信濃町の遺跡分布図』
信濃町文化財専門委員会　1985 『霊仙寺遺跡調査報告書』
長野県埋蔵文化財センター　1998 『一般国道18号（野尻バイパス）埋蔵文化財発掘調査報告書　貫ノ木遺跡・西岡A遺跡』
長野県埋蔵文化財センター　2000a 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書16－信濃町内その2－　縄文時代～近世編』
長野県埋蔵文化財センター　2000b 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書28－更埴市内その7－　更埴条里遺跡・屋代遺跡群　－総論編－』
新潟県埋蔵文化財調査事業団　1996 『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅳ　関川谷内遺跡Ⅰ』
新潟県埋蔵文化財調査事業団　1997a 『一般国道18号妙高野尻バイパス関係発掘調査報告書Ⅰ　大堀遺跡』
新潟県埋蔵文化財調査事業団　1997b 『一般国道18号妙高野尻バイパス関係発掘調査報告書Ⅱ　中ノ沢遺跡』
新潟県埋蔵文化財調査事業団　2003 『上信越自動車道関係発掘調査報告書Ⅹ　関川谷内遺跡Ⅱ』
野尻湖人類考古グループ　1993 「仲町遺跡第6回陸上発掘の考古学的成果」『野尻湖博物館研究報告』第1号
野尻湖人類考古グループ　1994 「野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化」『野尻湖博物館研究報告』第2号
矢野恒雄　1998 「両部修験霊仙寺遺跡考」『文化財信濃』25巻2号

表９　全遺物リスト

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
	B	A	5	1	石器	剥片	Ob	Ⅰ		
290	B	A	5	2	石器	特殊磨石	And	Ⅲ		
	B	A	5	3	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
243	B	A	5	4	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
269	B	A	5	5	石器	掻器	Tu	Ⅱ		
	B	A	6	1	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
247	B	A	6	2	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
	B	A	6	3	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
237	B	A	6	4	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
238	B	A	6	5	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
233	B	A	6	6	縄文土器	(縄文)		Ⅱ	○	
235	B	A	6	7	縄文土器	(縄文)		Ⅱ	○	
	B	A	6	8	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
234	B	A	6	9	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
	B	A	6	10	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	A	6	11	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	A	6	12	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
185	B	A	6	13	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
164	B	A	6	14	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	A	6	15	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	A	6	16	石器	剥片	An	Ⅱ		
182	B	A	6	17	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
	B	A	6	18	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	A	6	19	石器	剥片	ST	Ⅲ		
	B	A	6	20	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	A	6	21	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	B	A	6	22	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	A	6	23	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	A	6	24	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	A	6	25	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
246	B	A	6	26	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
244	B	A	6	27	縄文土器	(縄文)		Ⅱ		
199	B	A	6	28	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
245	B	A	6	29	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
	B	A	6	30	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
233	B	A	6	31	縄文土器	(縄文)		Ⅲ	○	
235	B	A	6	32	縄文土器	(縄文)		Ⅲ	○	
235	B	A	6	33	縄文土器	(縄文)		Ⅲ	○	
	B	A	7	1	石器	剥片	Ob	Ⅳ		
	B	A	7	2	石器	剥片	TS	Ⅲ		
	B	A	7	3	石器	砕片	An	Ⅲ		
	B	A	8	1	石器	剥片	Ag	Ⅱ		
	B	A	8	2	土師器			Ⅱ		
197	B	A	8	3	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
98	B	A	8	4	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	B	5	1	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	B	B	5	2	石器	砕片	Tu	Ⅳ		
	B	B	5	3	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	5	4	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
275	B	B	5	5	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
227	B	B	5	6	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ	○	
	B	B	5	7	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
225	B	B	5	8	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ		
	B	B	5	9	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	5	10	石器	剥片	ST	Ⅱ		
	B	B	5	11	礫			Ⅱ		
	B	B	5	12	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	5	13	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	5	14	石器	砕片	An	Ⅲ		
190	B	B	5	15	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
249	B	B	5	16	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
	B	B	5	17	石器	剥片	Ag	Ⅱ		
	B	B	5	18	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	5	19	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
173	B	B	5	20	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		口縁部
	B	B	5	21	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
174	B	B	5	22	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
227	B	B	5	23	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ	○	
	B	B	6	1	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
278	B	B	6	2	石器	剥片	Hf	Ⅱ		
241	B	B	6	3	縄文土器	(縄文)		Ⅱ		
277	B	B	6	4	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
178	B	B	6	5	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
	B	B	6	6	縄文土器	(無文)		Ⅳ		
	B	B	6	7	欠番					
239	B	B	6	8	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
236	B	B	6	9	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
261	B	B	6	10	石器	石鏃	Ob	Ⅱ		
	B	B	6	11	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	6	12	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	6	13	石器	砕片	Ob	Ⅱ		
242	B	B	6	14	縄文土器	(縄文)		Ⅱ		
	B	B	6	15	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	6	16	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	B	6	17	礫			Ⅱ		
179	B	B	6	18	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
	B	B	6	19	石器	剥片	Ob	Ⅳ		
180	B	B	6	20	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	
180	B	B	6	21	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	
160	B	B	6	22	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
	B	B	6	23	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	6	24	石器	砕片	Tu	Ⅱ		
11	B	B	6	25	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
	B	B	6	26	石器	剥片	ST	Ⅱ		
240	B	B	6	27	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
	B	B	6	28	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
	B	B	6	29	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	B	6	30	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
156	B	B	6	31	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
298	B	B	7	1	石器	特殊磨石	And	Ⅱ		
17	B	B	7	2	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
25	B	B	7	3	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
215	B	B	7	4	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
18	B	B	7	5	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
209	B	B	7	6	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
23	B	B	7	7	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	B	7	8	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
201	B	B	7	9	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	B	7	10	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
149	B	B	7	11	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅱ		
270	B	B	7	12	石器	掻器	Tu	Ⅲ		
122	B	B	7	13	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	
122	B	B	7	14	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	
44	B	B	7	15	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
	B	B	7	16	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	B	7	17	陶器			Ⅱ		
293	B	B	7	18	石器	特殊磨石	And	Ⅱ	○	
218	B	B	7	19	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
16	B	B	7	20	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		口縁部
	B	B	7	21	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	B	7	22	石器	剥片	TS	Ⅱ		
	B	B	7	23	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ		
161	B	B	7	24	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
163	B	B	7	25	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	B	7	26	石器	剥片	ST	Ⅱ		
	B	B	7	27	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	7	28	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ		
	B	B	7	29	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
151	B	B	7	30	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
151	B	B	7	31	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
157	B	B	7	32	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	
151	B	B	7	33	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
	B	B	7	34	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ	○	
	B	B	7	35	礫			Ⅲ		
153	B	B	7	36	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
	B	B	7	37	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	7	38	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
144	B	B	7	39	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
186	B	B	7	40	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	B	7	41	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	B	7	42	石器	剥片	Ch	Ⅳ		
202	B	B	7	43	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
152	B	B	7	44	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
157	B	B	7	45	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	
162	B	B	7	46	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	B	7	47	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	7	48	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
151	B	B	7	49	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
151	B	B	7	50	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
154	B	B	7	51	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
151	B	B	7	52	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
151	B	B	7	53	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
155	B	B	7	54	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
151	B	B	7	55	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
	B	B	7	56	石器	砕片	Ch	Ⅲ		
151	B	B	7	57	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
206	B	B	7	58	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
165	B	B	7	59	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	B	7	60	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	B	B	7	61	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ	○	
	B	B	7	62	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ	○	
151	B	B	7	63	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	
	B	B	7	64	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
158	B	B	7	65	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
151	B	B	7	66	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
	B	B	7	67	土師器			Ⅲ		
	B	B	7	68	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ	○	
151	B	B	7	69	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	口縁部
	B	B	8	1	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	2	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	3	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
145	B	B	8	4	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	B	8	5	陶器			Ⅱ		
	B	B	8	6	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	B	8	7	磁器			Ⅱ		
259	B	B	8	8	石器	石鏃	Ch	Ⅱ		
	B	B	8	9	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	B	8	10	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	11	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
257	B	B	8	12	縄文土器	(沈線)		Ⅲ		
254	B	B	8	13	縄文土器	(沈線)		Ⅲ		
101	B	B	8	14	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
82	B	B	8	15	縄文土器	(格子目文)		Ⅲ		
	B	B	8	16	石器	剥片	ST	Ⅱ		
115	B	B	8	17	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
89	B	B	8	18	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ	○	
	B	B	8	19	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	B	8	20	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
89	B	B	8	21	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ	○	
	B	B	8	22	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	B	B	8	23	土師器			Ⅲ		
	B	B	8	24	縄文土器	(無文)		Ⅲ		

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
	B	B	8	25	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	B	8	26	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	B	8	27	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	28	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	29	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	30	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	31	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
203	B	B	8	32	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	B	8	33	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
141	B	B	8	34	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅳ		
52	B	B	8	35	縄文土器	(楕円文)		Ⅳ		
	B	B	8	36	礫			Ⅳ		
	B	B	8	37	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
216	B	B	8	38	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
207	B	B	8	39	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	B	8	40	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	B	B	8	41	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	8	42	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	B	8	43	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
208	B	B	8	44	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
	B	B	8	45	礫			Ⅲ		
220	B	B	8	46	縄文土器	(条痕文)		Ⅱ		
204	B	B	8	47	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	B	8	48	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
114	B	B	8	49	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	B	8	50	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	51	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	52	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	B	8	53	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	54	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	55	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	56	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	B	8	57	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
192	B	B	8	58	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
255	B	B	8	59	縄文土器	(沈線)		Ⅲ		
	B	B	8	60	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	B	8	61	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	C	5	1	礫			Ⅲ		
272	B	C	5	2	石器	楔形石器	Tu	Ⅱ		
	B	C	5	3	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	5	4	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	5	5	石器	砕片	Ch	Ⅲ		
	B	C	5	6	石器	砕片	Ch	Ⅲ		
273	B	C	5	7	石器	不定形石器	Ch	Ⅱ		
	B	C	5	8	石器	砕片	Ob	Ⅲ		
	B	C	5	9	石器	砕片	Ob	Ⅱ		
	B	C	5	10	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	B	C	5	11	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	5	12	土師器			Ⅱ		
	B	C	5	13	礫			Ⅲ		
	B	C	5	14	石器	剥片	TS	Ⅱ		
267	B	C	5	15	石器	石鏃未製品	Tu	Ⅱ		
	B	C	5	16	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	C	6	1	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	6	2	土師器			Ⅲ		
	B	C	6	3	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	B	C	6	4	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	C	6	5	石器	砕片	An	Ⅱ		
	B	C	6	6	石器	砕片	Ch	Ⅱ		
282	B	C	6	7	石器	石核	Ch	Ⅱ		
	B	C	6	8	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	6	9	縄文土器	(条痕文)		Ⅱ		
	B	C	6	10	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	C	6	11	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	B	C	6	12	石器	剥片	An	Ⅱ		
	B	C	6	13	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	B	C	6	14	土師器			Ⅲ		
	B	C	6	15	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	B	C	6	16	礫			Ⅱ		
	B	C	6	17	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	6	18	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	6	19	石器	敲石？	And	Ⅲ		
265	B	C	6	20	石器	石鏃未製品	Ob	Ⅱ		
	B	C	6	21	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	B	C	6	22	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	B	C	6	23	石器	砕片	Ch	Ⅱ		
	B	C	6	24	石器	剥片	Ag	Ⅱ		
	B	C	6	25	欠番					
	B	C	6	26	礫			Ⅱ		
	B	C	6	27	陶器			Ⅱ		
	B	C	6	28	石器	砕片	Ch	Ⅱ		
	B	C	6	29	陶器			Ⅱ		
	B	C	6	30	石器	砕片	An	Ⅱ		
	B	C	6	31	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	6	32	石器	砕片	An	Ⅱ		
	B	C	6	33	石器	砕片	Ob	Ⅱ		
263	B	C	6	34	石器	石鏃未製品	Tu	Ⅱ		
274	B	C	6	35	石器	不定形石器	Tu	Ⅱ		
	B	C	6	36	土師器			Ⅲ		
	B	C	6	37	石器	剥片	Ob	Ⅲ		
29	B	C	7	1	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
293	B	C	7	2	石器	特殊磨石	And	Ⅱ	○	
295	B	C	7	3	石器	特殊磨石	And	Ⅲ		
	B	C	7	4	土師器			Ⅲ		
	B	C	7	5	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
34	B	C	7	6	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
299	B	C	7	7	石器	敲石	And	Ⅲ		
105	B	C	7	8	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	C	7	9	礫			Ⅲ		
176	B	C	7	10	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
134	B	C	7	11	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	C	7	12	礫			Ⅲ		
124	B	C	7	13	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
198	B	C	7	14	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	
191	B	C	7	15	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	C	7	16	礫			Ⅲ		
62	B	C	7	17	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
177	B	C	7	18	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
	B	C	7	19	礫			Ⅲ		
75	B	C	7	20	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
21	B	C	7	21	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	C	7	22	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
211	B	C	7	23	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
296	B	C	7	24	石器	特殊磨石	And	Ⅲ		
183	B	C	7	25	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
121	B	C	7	26	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	口縁部
121	B	C	7	27	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	口縁部
133	B	C	7	28	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
146	B	C	7	29	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
198	B	C	7	30	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ	○	
	B	C	7	31	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	B	C	7	32	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
93	B	C	7	33	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	C	7	34	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
310	B	C	7	35	土師器			Ⅱ		口縁部
	B	C	7	36	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	B	C	7	37	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
148	B	C	7	38	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
147	B	C	7	39	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	C	7	40	縄文土器	(格子目文)		Ⅲ		
107	B	C	7	41	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
30	B	C	7	42	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
65	B	C	7	43	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
43	B	C	7	44	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
	B	C	7	45	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
193	B	C	7	46	縄文土器	(沈線文)		Ⅱ		
293	B	C	7	47	石器	特殊磨石	And	Ⅳ	○	
	B	C	7	48	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	7	49	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
184	B	C	7	50	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
60	B	C	7	51	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
159	B	C	7	52	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
54	B	C	7	53	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
53	B	C	7	54	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
26	B	C	7	55	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
	B	C	7	56	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
229	B	C	7	57	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ		
47	B	C	7	58	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
213	B	C	7	59	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
102	B	C	7	60	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
283	B	C	7	61	石器	石核	Ob	Ⅱ		
	B	C	7	62	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
205	B	C	7	63	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	C	7	64	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	7	65	礫			Ⅲ		
24	B	C	7	66	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	C	7	67	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	7	68	石器	剥片	TS	Ⅲ		
	B	C	7	69	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
12	B	C	7	70	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
97	B	C	7	71	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
214	B	C	7	72	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
3	B	C	7	73	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
55	B	C	7	74	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
311	B	C	7	75	土師器			Ⅱ		口縁部
51	B	C	7	76	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
83	B	C	7	77	縄文土器	(格子目文)		Ⅲ		
	B	C	7	78	縄文土器	(条痕文)		Ⅳ		
	B	C	7	79	土師器			Ⅲ		
	B	C	7	80	土師器			Ⅲ		
32	B	C	7	81	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
56	B	C	7	82	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	C	7	83	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	C	7	84	礫			Ⅲ		
84	B	C	7	85	縄文土器	(格子目文)		Ⅲ		
44	B	C	7	86	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
212	B	C	8	1	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	C	8	2	礫			Ⅲ		
22	B	C	8	3	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
90	B	C	8	4	縄文土器	(平行線文)		Ⅱ		
	B	C	8	5	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	6	礫			Ⅲ		
	B	C	8	7	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	8	縄文土器	(無文)		Ⅱ	○	
	B	C	8	9	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	C	8	10	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	C	8	11	礫			Ⅲ		
130	B	C	8	12	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	C	8	13	礫			Ⅲ		
	B	C	8	14	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	15	礫			Ⅲ		
49	B	C	8	16	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		口縁部

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
125	B	C	8	17	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	C	8	18	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	19	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
280	B	C	8	20	石器	石核	Ch	Ⅱ		
	B	C	8	21	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	22	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	23	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
217	B	C	8	24	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	C	8	25	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
61	B	C	8	26	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
116	B	C	8	27	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
5	B	C	8	28	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
43	B	C	8	29	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
43	B	C	8	30	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
	B	C	8	31	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	8	32	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	C	8	33	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
264	B	C	8	34	石器	石鏃未製品	Ch	Ⅲ		
14	B	C	8	35	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
	B	C	8	36	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	37	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	38	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	B	C	8	39	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
262	B	C	8	40	石器	石鏃未製品	Ch	Ⅲ		
	B	C	8	41	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	C	8	42	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
194	B	C	8	43	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	C	8	44	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	B	C	8	45	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	B	C	8	46	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
91	B	C	8	47	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
28	B	C	8	48	縄文土器	(楕円文)		Ⅳ		
138	B	C	8	49	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅱ		
	B	C	8	50	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
19	B	C	8	51	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
20	B	C	8	52	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	C	8	53	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
63	B	C	8	54	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		口縁部
	B	D	6	1	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
226	B	D	6	2	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ		
224	B	D	6	3	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ		
	B	D	6	4	礫			Ⅲ		
	B	D	6	5	礫			Ⅱ		
	B	D	6	6	礫			Ⅲ		
	B	D	6	7	礫			Ⅲ		
	B	D	6	8	礫			Ⅲ		
	B	D	6	9	礫			Ⅲ		
113	B	D	6	10	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	D	6	11	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	6	12	礫			Ⅲ		
	B	D	6	13	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	6	14	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	6	15	礫			Ⅳ		
	B	D	6	16	礫	自然礫？		Ⅴ		
	B	D	6	17	礫			Ⅲ		
70	B	D	6	18	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
294	B	D	6	19	石器	特殊磨石	Sa	Ⅱ		
	B	D	6	20	礫			Ⅲ		
	B	D	6	21	礫			Ⅲ		
210	B	D	6	22	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	D	6	23	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	D	6	24	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	D	6	25	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	7	1	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
195	B	D	7	2	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
76	B	D	7	3	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
200	B	D	7	4	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
123	B	D	7	5	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
80	B	D	7	6	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	7	7	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	7	8	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	D	7	9	石器	剥片	TS	Ⅱ		
	B	D	7	10	礫			Ⅱ		
	B	D	7	11	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	D	7	12	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	D	7	13	礫			Ⅱ		
	B	D	7	14	礫			Ⅱ		
129	B	D	7	15	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
143	B	D	7	16	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	D	7	17	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	D	7	18	礫			Ⅱ		
	B	D	7	19	石器	磨石	And	Ⅱ		
111	B	D	7	20	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	D	7	21	石器	磨石	And	Ⅱ		
	B	D	7	22	石器	剥片	TS	Ⅲ		
100	B	D	7	23	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	D	7	24	石器	磨石	And	Ⅱ		
	B	D	7	25	礫			Ⅲ		
	B	D	7	26	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	7	27	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	D	7	28	土師器			Ⅱ		底部
6	B	D	7	29	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
74	B	D	7	30	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
118	B	D	7	31	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅱ	○	口縁部
	B	D	7	32	礫			Ⅲ		
	B	D	7	33	縄文土器	(無文)		Ⅱ		

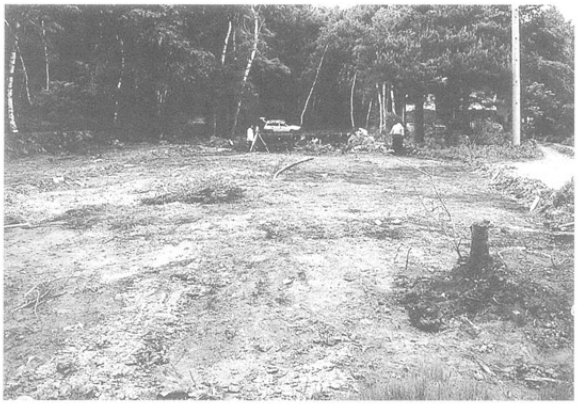
図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
	B	D	7	34	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
4	B	D	7	35	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
167	B	D	7	36	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
13	B	D	7	37	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
118	B	D	7	38	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	口縁部
136	B	D	7	39	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
58	B	D	7	40	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	7	41	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	7	42	礫			Ⅲ		
	B	D	7	43	礫			Ⅲ		
140	B	D	7	44	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	
	B	D	7	45	石器	磨石	And	Ⅱ		
	B	D	7	46	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
150	B	D	7	47	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
288	B	D	7	48	石器	石核	Tu	Ⅱ	○	
288	B	D	7	49	石器	石核	Tu	Ⅱ	○	
137	B	D	7	50	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
35	B	D	7	51	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	7	52	土師器			Ⅱ		
	B	D	7	53	石器	磨石	And	Ⅲ		
118	B	D	7	54	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	口縁部
38	B	D	7	55	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	7	56	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
140	B	D	7	57	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	
	B	D	7	58	礫			Ⅲ		
	B	D	7	59	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
41	B	D	7	60	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	7	61	鉄			Ⅲ		
95	B	D	7	62	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	D	7	63	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	1	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	2	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
293	B	D	8	3	石器	特殊磨石	And	Ⅱ	○	
	B	D	8	4	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	D	8	5	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	B	D	8	6	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	7	礫			Ⅱ		
94	B	D	8	8	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
142	B	D	8	9	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	D	8	10	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	11	礫			Ⅲ		
	B	D	8	12	礫			Ⅱ		
40	B	D	8	13	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
	B	D	8	14	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
104	B	D	8	15	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	D	8	16	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	17	礫			Ⅲ		
99	B	D	8	18	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
39	B	D	8	19	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	8	20	礫			Ⅲ		
135	B	D	8	21	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	D	8	22	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	23	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	24	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	B	D	8	25	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	B	D	8	26	欠番					
36	B	D	8	27	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
37	B	D	8	28	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	8	29	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	30	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
50	B	D	8	31	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	8	32	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	33	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
15	B	D	8	34	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		口縁部
67	B	D	8	35	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	B	D	8	36	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
268	B	D	8	37	石器	削器	Ch	Ⅲ		
	B	D	8	38	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	39	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	40	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	B	D	8	41	石器	剥片	Ag	Ⅲ		
	B	D	8	42	陶器			Ⅲ		
42	B	D	8	43	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
131	B	D	8	44	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	
131	B	D	8	45	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ	○	
	B	D	8	46	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	D	8	47	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
119	B	D	8	48	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		口縁部
	B	E	6	1	土師器			Ⅲ		
	B	E	6	2	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	E	6	3	土師器			Ⅲ		
132	B	E	6	4	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	E	7	1	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
7	B	E	7	2	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
	B	E	7	3	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	E	7	4	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
279	B	E	7	5	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
10	B	E	7	6	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
	B	E	7	7	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	E	7	8	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	E	7	9	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	E	7	10	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
69	B	E	7	11	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
171	B	E	7	12	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		口縁部
108	B	E	7	13	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
250	B	E	7	14	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
170	B	E	7	15	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		口縁部
71	B	E	7	16	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
48	B	E	7	17	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
126	B	E	7	18	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅱ		
88	B	E	7	19	縄文土器	(平行線文)		Ⅱ		
87	B	E	7	20	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	E	7	21	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
45	B	E	7	22	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
96	B	E	7	23	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	E	7	24	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
46	B	E	7	25	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
	B	E	7	26	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
9	B	E	7	27	縄文土器	(山形文)		Ⅱ		
169	B	E	7	28	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
222	B	E	7	29	縄文土器	(条痕文)		Ⅱ		
172	B	E	7	30	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	B	E	7	31	土師器			Ⅱ		
8	B	E	7	32	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
110	B	E	7	33	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	E	7	34	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	B	E	7	35	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	B	E	7	36	礫			Ⅱ		
297	B	E	7	37	石器	特殊磨石	And	Ⅱ		
	B	E	7	38	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
64	B	E	7	39	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
128	B	E	7	40	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
	B	E	7	41	礫			Ⅲ		
68	B	E	7	42	縄文土器	(楕円文)		Ⅳ		
	B	E	7	43	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	E	7	44	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
109	B	E	7	45	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	E	7	46	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	B	E	8	1	陶器	植木鉢		Ⅳ		
	B	E	8	2	鉄			カクラン		
	B	F	7	1	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
1	B	F	7	2	縄文土器	(山形文)		Ⅱ		
	B	F	7	3	土師器			Ⅱ		
	B	F	7	4	陶器			Ⅱ		
	B	F	8	1	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	B	F	8	2	縄文土器	(無文)		Ⅳ		
139	B	F	8	3	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
106	B	F	8	3	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	F	8	4	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
112	B	F	8	5	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	B	F	8	6	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	C	A	8	1	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	C	A	8	2	土師器			Ⅱ		
	C	A	8	3	土師器			Ⅱ		
	C	A	8	4	石器	剥片	Ch	カクラン		
	C	A	8	5	縄文土器	(無文)		Ⅱ	○	
	C	A	8	6	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	C	A	8	7	土師器			Ⅱ		
	C	A	8	8	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	C	A	8	9	土師器			Ⅱ		
	C	A	8	10	黒色土器			Ⅱ		
92	C	A	8	11	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	C	A	8	12	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
319	C	A	8	13	土師器			Ⅱ		底部
	C	A	8	14	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	C	A	8	15	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	C	A	8	16	縄文土器	(無文)		Ⅲ	○	
	C	A	8	17	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	C	A	8	18	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	C	A	8	19	土師器			Ⅱ		
	C	A	8	20	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	C	B	7	1	黒色土器			Ⅱ		
	C	B	8	1	陶器	植木鉢		カクラン		
	C	B	8	2	縄文土器	(無文)		Ⅱ	○	
	C	B	8	3	縄文土器	(無文)		Ⅱ	○	
86	C	B	8	4	縄文土器	(格子目文)		Ⅲ		
	C	B	8	5	黒色土器			カクラン		
	C	C	7	1	土師器			Ⅱ		
	C	C	7	2	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	C	C	8	1	黒色土器			Ⅱ		
	C	C	8	2	石器	剥片	Ch	カクラン		
	C	C	8	3	土師器			カクラン		
	C	C	8	4	土師器			Ⅱ		
	C	C	8	5	黒色土器			Ⅱ		
309	C	C	8	6	土師器			Ⅱ		口縁部
302	C	C	8	7	黒色土器			Ⅱ		口縁部
	C	C	8	8	土師器			Ⅱ		
	C	C	8	9	土師器			Ⅱ		
	C	C	8	10	黒色土器			Ⅱ		
	C	C	8	11	黒色土器			Ⅱ		
	C	C	8	12	土師器			Ⅱ		口縁部
	C	C	8	13	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
260	C	C	8	14	石器	石鏃	Ob	Ⅱ		
	C	C	8	15	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	C	C	8	16	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	C	C	8	17	土師器			Ⅱ		
	C	C	8	18	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	C	C	8	19	礫			Ⅱ		
304	C	C	8	20	黒色土器			Ⅱ		口縁部
305	C	C	8	21	黒色土器			Ⅱ		口縁部
	C	D	7	1	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	C	D	8	1	石器	砕片	Ch	Ⅱ		
	C	D	8	2	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	C	D	8	3	石器	砕片	Ch	Ⅱ		
318	C	D	8	4	土師器			Ⅱ		底部
	C	D	8	5	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
308	C	D	8	6	土師器			Ⅱ		口縁部
312	C	D	8	7	土師器			Ⅱ		口縁部
	C	D	8	8	黒色土器			Ⅱ		
	C	D	8	9	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	C	D	8	10	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	C	D	8	11	礫			カクラン		
	C	D	8	12	土師器			Ⅱ		
	C	D	8	13	黒色土器			Ⅱ		
317	C	D	8	14	黒色土器			Ⅱ	○	底部
317	C	D	8	15	黒色土器			Ⅱ	○	底部
303	C	D	8	16	黒色土器			Ⅱ		口縁部
31	E	H	1	1	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	E	H	1	2	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
287	E	H	1	3	石器	剥片	TS	Ⅲ		
	E	H	2	1	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
59	F	A	1	1	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
	F	A	1	2	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	F	A	1	3	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	F	A	1	4	石器	剥片	Ag	Ⅱ		
	F	A	1	5	石器	砕片	Ch	Ⅱ		
	F	A	1	6	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	F	A	1	7	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	F	A	1	8	礫			Ⅲ		
	F	A	1	9	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	F	A	1	10	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	A	1	11	石器	砕片	Ch	Ⅱ		
81	F	A	1	12	縄文土器	(格子目文)		Ⅲ		
	F	A	1	13	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	F	A	1	14	礫			Ⅱ		
219	F	A	1	15	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ		
	F	A	1	16	礫			Ⅱ		
57	F	A	1	17	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	F	A	1	18	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	A	1	19	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	F	A	1	20	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
59	F	A	1	21	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
291	F	A	1	22	石器	特殊磨石	And	Ⅱ		
27	F	A	1	23	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
78	F	A	1	24	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
27	F	A	1	25	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ	○	
248	F	B	1	1	縄文土器	(縄文)		Ⅲ		
	F	B	1	2	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
181	F	B	1	3	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
187	F	B	1	4	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	F	B	1	5	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	6	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
168	F	B	1	7	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	F	B	1	8	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	9	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
189	F	B	1	10	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	F	B	1	11	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
276	F	B	1	12	石器	剥片	Ch	Ⅲ		
	F	B	1	13	礫			Ⅲ		
	F	B	1	14	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
292	F	B	1	15	石器	特殊磨石	And	Ⅲ		
	F	B	1	16	石器	剥片	Ag	Ⅱ		
	F	B	1	17	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	18	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
258	F	B	1	19	縄文土器	(沈線)		Ⅲ		
166	F	B	1	20	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
251	F	B	1	21	縄文土器	(沈線)		Ⅲ		
252	F	B	1	22	縄文土器	(沈線)		Ⅲ		
223	F	B	1	23	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ	○	
223	F	B	1	24	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ	○	
	F	B	1	25	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
253	F	B	1	26	縄文土器	(沈線)		Ⅲ		
188	F	B	1	27	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	F	B	1	28	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	29	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	30	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	31	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
221	F	B	1	32	縄文土器	(条痕文)		Ⅲ		
271	F	B	1	33	石器	石錐	An	Ⅱ		
	F	B	1	34	石器	砕片	Ch	Ⅲ		
	F	B	1	35	陶器			Ⅲ		
	F	B	1	36	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	F	B	1	37	石器	砕片	Ob	Ⅲ		
	F	B	1	38	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	39	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	40	石器	剥片	Ob	Ⅲ		
117	F	B	1	41	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ	○	
117	F	B	1	42	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ	○	
117	F	B	1	43	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ	○	
85	F	B	1	44	縄文土器	(格子目文)		Ⅲ		
	F	B	1	45	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	46	石器	剥片	Ob	Ⅲ		
	F	B	1	47	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
196	F	B	1	48	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	F	B	1	49	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
175	F	B	1	50	縄文土器	(沈線文)		Ⅲ		
	F	B	1	51	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	52	縄文土器	(無文)		Ⅲ		

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
33	F	B	1	53	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
256	F	B	1	54	縄文土器	(沈線)		Ⅲ		
	F	B	1	55	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	56	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	57	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	58	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	59	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	60	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	61	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	62	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
289	F	B	1	63	石器	石斧	Tu？	Ⅲ		
73	F	B	1	64	縄文土器	(楕円文)		Ⅲ		
	F	B	1	65	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	F	B	1	66	石器	剥片	Ag	Ⅱ		
	F	B	1	67	石器	磨石	And	Ⅱ		
	F	B	1	68	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	F	B	1	69	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	F	B	1	70	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
266	F	C	1	1	石器	石鏃未製品	Tu	Ⅲ		
286	F	C	2	1	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
285	F	C	2	2	石器	剥片	Tu	Ⅲ		
	F	D	1	1	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
79	F	D	1	2	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
127	F	D	1	3	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅱ		
	F	D	2	1	磁器			Ⅱ		
	F	D	2	2	石器	剥片	Ch	Ⅰ		
232	F	E	1	1	縄文土器	(条痕文)		Ⅱ		
	F	E	1	2	石器	剥片	Ag	Ⅱ		
284	F	E	2	1	石器	削器	Tu	Ⅲ		
315	F	E	2	2	黒色土器			Ⅱ		底部
	F	H	1	1	土師器			Ⅱ		口縁部
	F	H	1	2	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	F	H	1	3	土師器			Ⅱ		
	F	H	1	4	土師器			Ⅱ		
	F	H	1	5	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	F	H	1	6	土師器			Ⅱ		口縁部
	F	H	1	7	土師器			Ⅱ		口縁部
	G	A	1	1	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
301	G	A	1	2	黒色土器			Ⅱ		口縁部
	G	A	1	3	黒色土器			Ⅱ		
	G	A	1	4	土師器			Ⅱ		
	G	A	1	5	石器	剥片	TS	Ⅱ		
	G	A	1	6	土師器			Ⅱ		
	G	A	1	7	土師器			Ⅱ		口縁部
	G	A	1	8	土師器			Ⅱ		
	G	A	1	9	土師器			Ⅱ		口縁部
	G	A	1	10	土師器			Ⅱ		
	G	A	1	11	土師器			Ⅱ		口縁部
	G	A	1	12	土師器			Ⅱ		
281	G	A	1	13	石器	石核	Ob	Ⅱ		
	G	A	1	14	黒色土器			Ⅱ		
	G	A	1	15	黒色土器			Ⅲ		
	G	A	1	16	陶器			Ⅱ		
120	G	A	1	17	縄文土器	(異種文様並列)		Ⅲ		
316	G	A	1	18	黒色土器			Ⅱ		底部
	G	A	1	19	黒色土器			Ⅱ		
	G	A	1	20	縄文土器	(無文)		Ⅱ	○	
	G	A	1	21	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	G	A	1	22	土師器			Ⅱ		
	G	A	1	23	黒色土器			Ⅱ		
300	G	A	1	24	黒色土器			Ⅱ		口縁部
	G	B	1	1	黒色土器			Ⅱ		
	G	B	1	2	石器	剥片	Ob	Ⅱ		
	G	B	1	3	土師器			Ⅱ		
	G	B	1	4	土師器			Ⅱ		
	G	B	1	5	土師器			Ⅱ		
	G	B	1	6	土師器			Ⅱ		

図番号	グリッド名・トレンチ名			番号	遺物名	器種名及び文様	石器石材	出土層準	接合	備考
	G	B	1	7	土師器			Ⅱ		
	G	B	1	8	土師器			Ⅱ		
307	G	B	1	9	土師器			Ⅱ		口縁部
	G	B	1	10	土師器			Ⅱ		
	G	B	1	11	土師器			Ⅱ		底部
	G	B	1	12	土師器			Ⅱ		口縁部
	G	B	1	13	黒色土器			Ⅱ		
	G	B	1	14	土師器			Ⅱ		
	G	B	1	15	土師器			Ⅱ		口縁部
	G	B	1	16	土師器			Ⅱ		
	G	B	1	17	黒色土器			Ⅱ		
	G	B	1	18	黒色土器			Ⅱ		
	G	B	1	19	土師器			Ⅱ		
	G	B	6	1	礫			Ⅱ		
	G	B	6	2	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	G	B	6	3	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	G	B	6	4	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
2	G	B	6	5	縄文土器	(山形文)		Ⅲ		
	G	B	6	6	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
228	G	B	6	7	縄文土器	(条痕文)		Ⅱ		
230	G	B	6	8	縄文土器	(条痕文)		Ⅱ		
	G	B	6	9	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	G	B	6	10	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	G	B	6	11	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
	G	B	7	1	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	G	B	7	2	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	G	C	1	1	土師器			Ⅱ		
	G	D	1	1	黒色土器			Ⅱ		
77	G	D	1	2	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
	G	D	1	3	黒色土器			Ⅱ		
	G	D	1	4	土師器			Ⅱ		
314	G	D	1	5	黒色土器			Ⅱ	○	底部
314	G	D	1	6	黒色土器			Ⅱ	○	底部
	G	D	1	7	土師器			Ⅱ		
	G	D	1	8	土師器			Ⅱ		
	G	D	1	9	土師器			Ⅱ		
313	G	D	1	10	黒色土器			Ⅱ		底部
	G	D	1	11	黒色土器			Ⅱ		
	G	D	1	12	土師器			Ⅱ		
	G	D	1	13	黒色土器			Ⅱ		
	G	D	1	14	黒色土器			Ⅱ		
	G	D	1	15	黒色土器			Ⅱ		
	G	D	1	16	黒色土器			Ⅱ		
	G	D	1	17	黒色土器			Ⅱ		
314	G	D	1	18	黒色土器			Ⅱ	○	底部
66	T	P	1	1	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
	T	P	7	1	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	T	P	7	2	石器	剥片	Ob	Ⅰ		
72	T	P	8	1	縄文土器	(楕円文)		Ⅱ		
	T	P	8	2	礫			Ⅳ		
103	T	P	9	1	縄文土器	(平行線文)		Ⅲ		
	T	P	9	2	礫			Ⅰ		
	T	P	10	1	石器	剥片	Ob	Ⅰ		
	T	P	10	2	礫			Ⅲ		
	T	P	10	3	礫			Ⅱ		
	T	P	10	4	礫			Ⅱ		
	T	P	10	5	縄文土器	(無文)		Ⅱ		
	T	P	10	6	礫			Ⅱ		
	T	P	10	7	礫			Ⅲ		
	T	P	10	8	石器	剥片	An	Ⅲ		
	T	P	12	1	石器	剥片	Tu	Ⅱ		
	T	P	22	1	石器	剥片	Ch	Ⅱ		
	T	P	24	1	石器	剥片	TS	Ⅰ		
	T	P	24	2	縄文土器	(無文)		Ⅲ		
231	表面採集				縄文土器	(条痕文)				
306	表面採集				土師器					口縁部

写真図版 1



1．調査区の杭打ちの様子

2．西調査区の調査の様子（西から）

3．西調査区の調査の様子（西から）

4．東調査区の調査の様子（南西から）

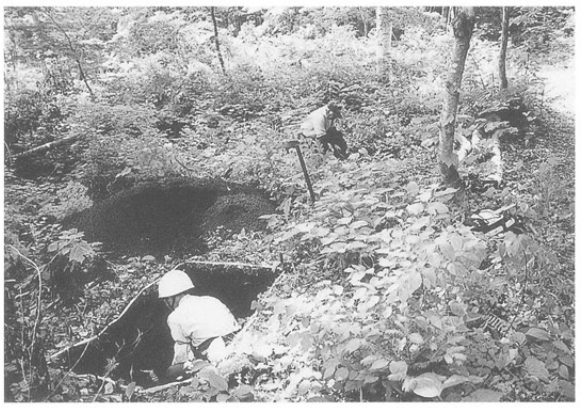
5．東調査区の調査の様子（西から）

6．東調査区の調査の様子（西から）

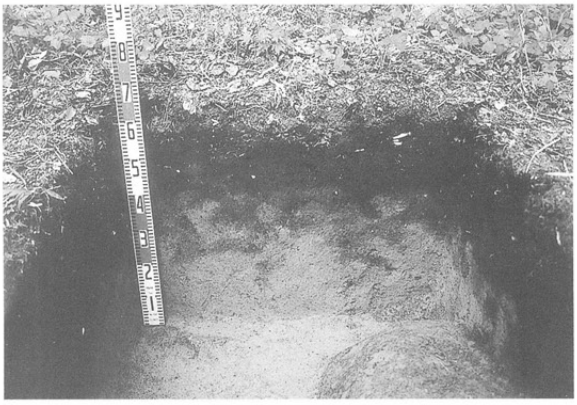
7．西調査区拡張部の表土はぎの様子

8．西調査区の調査の様子（北西から）

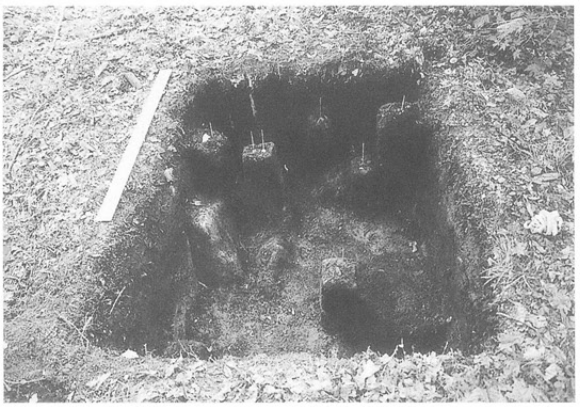
1．南調査区の調査の様子



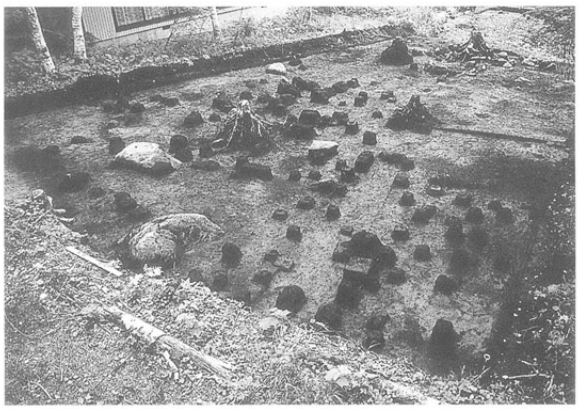
2．試掘トレンチの調査の様子



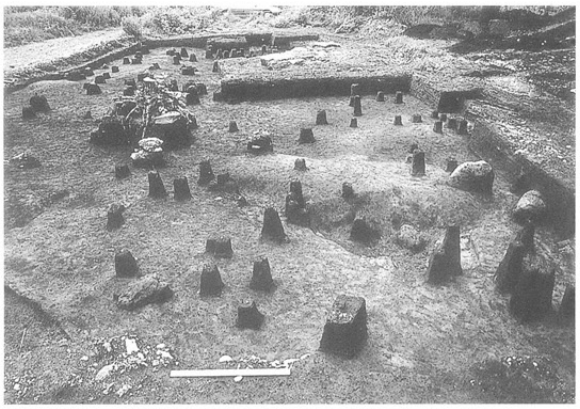
3．基本層序（ＴＰ－８）



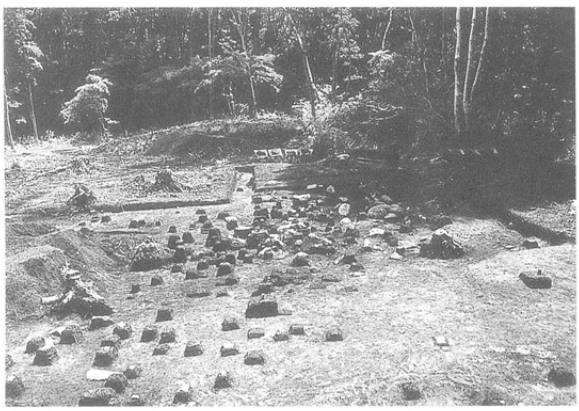
4．ＴＰ-10の遺物の出土状況（西から）



5．西調査区の遺物の出土状況（南西から）



6．東調査区の遺物の出土状況（西から）



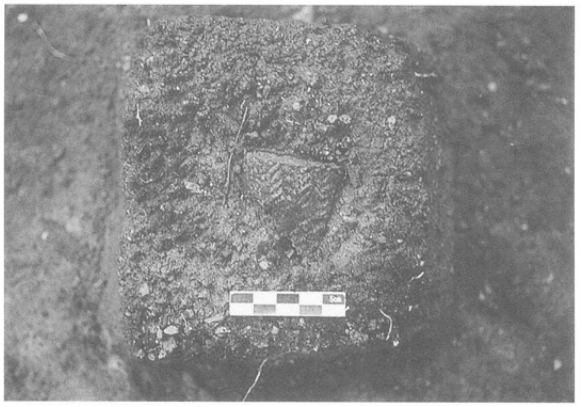
7．西調査区の遺物の出土状況（遠景・北から）

8．西調査区の遺物の出土状況（近景・北から）

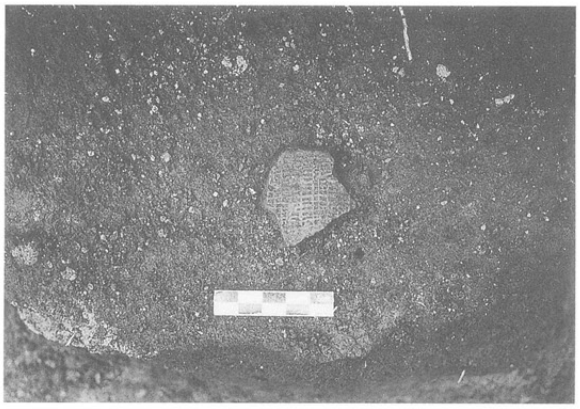
1．縄文土器（図番号133）の出土状況

2．縄文土器（図番号50）の出土状況

3．縄文土器（図番号129）の出土状況

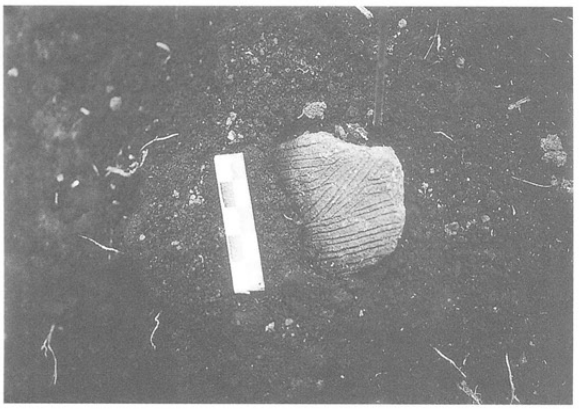


4．縄文土器（図番号120）の出土状況



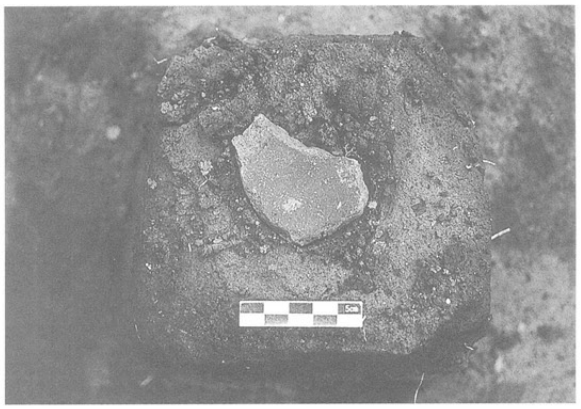
5．縄文土器（図番号86）の出土状況

6．縄文土器（図番号150）の出土状況

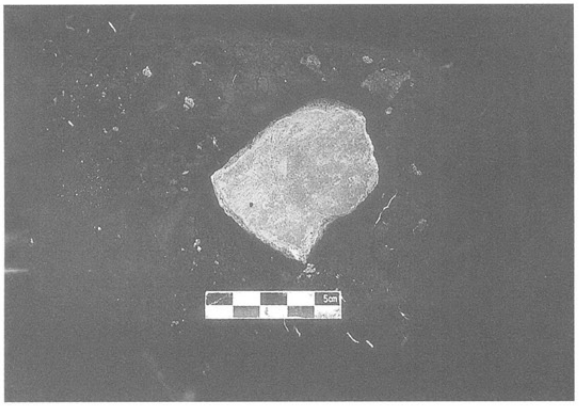


7．縄文土器（図番号176）の出土状況

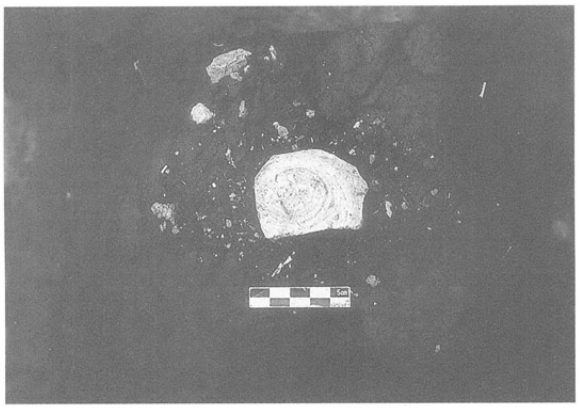
8．縄文土器（図番号224）の出土状況



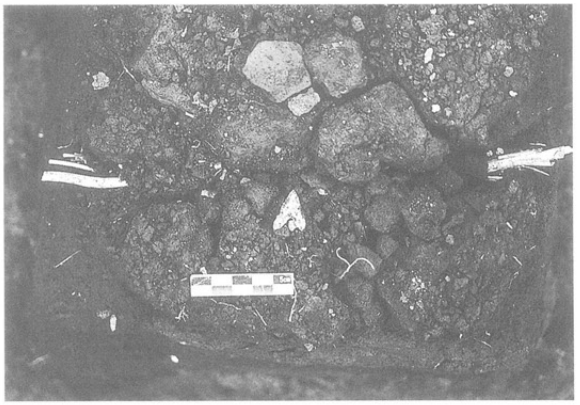
1．黒色土器（図番号314）の出土状況



2．黒色土器（図番号313）の出土状況



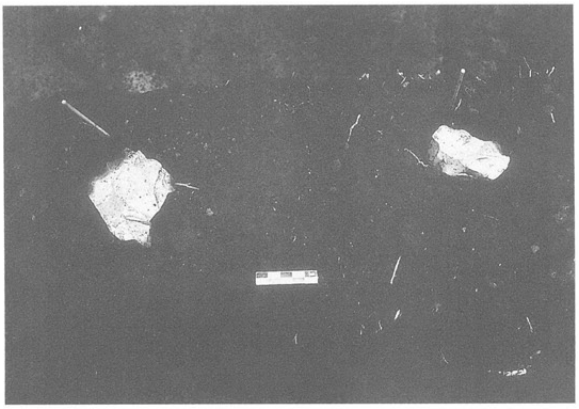
3．土師器（図番号318）の出土状況



4．石鏃（図番号260）の出土状況

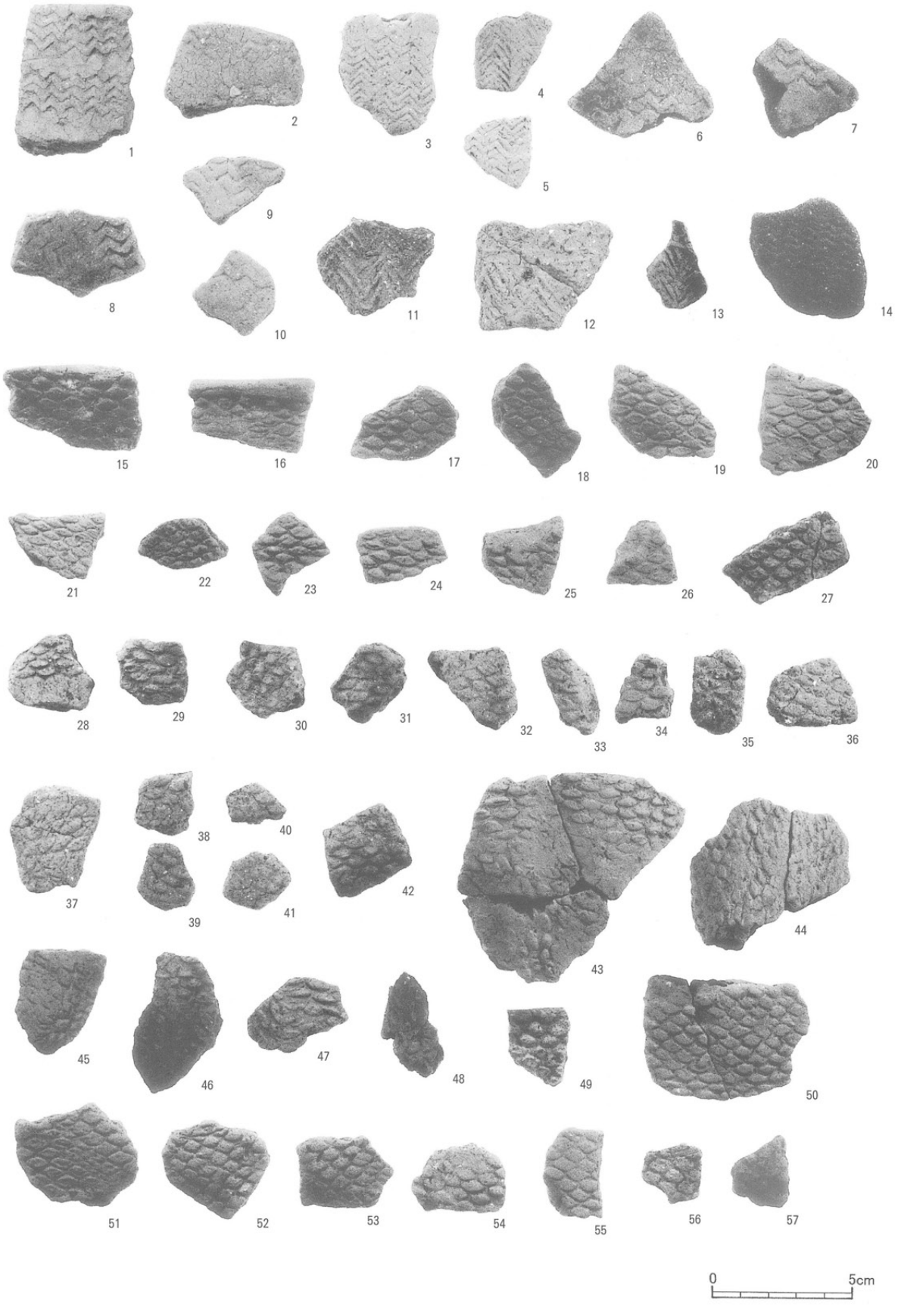
5．敲石（図番号299）の出土状況

6．特殊磨石（図番号294）の出土状況



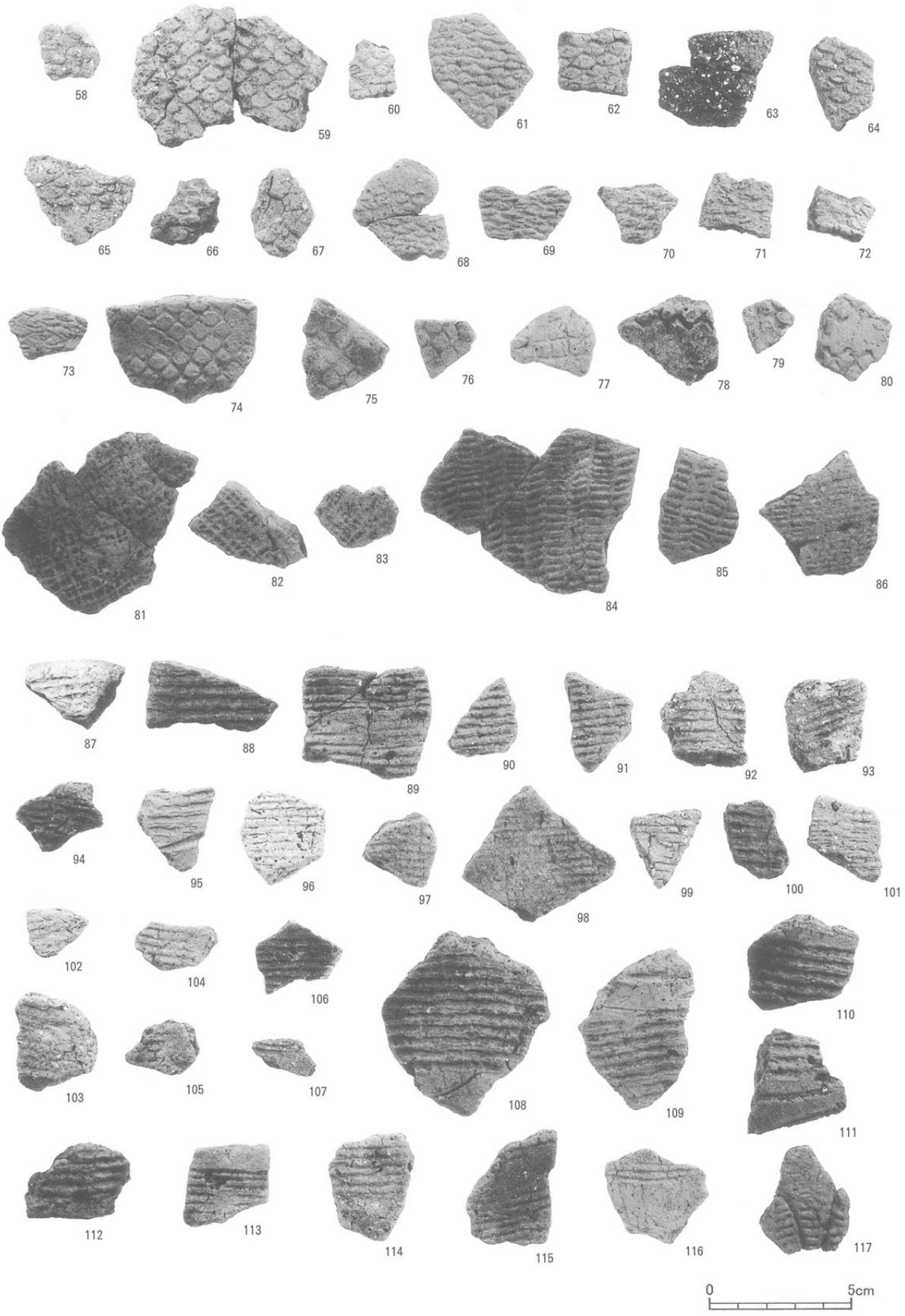
7．石核（図番号288）の出土状況

8．調査参加者（平成15年７月16日撮影）



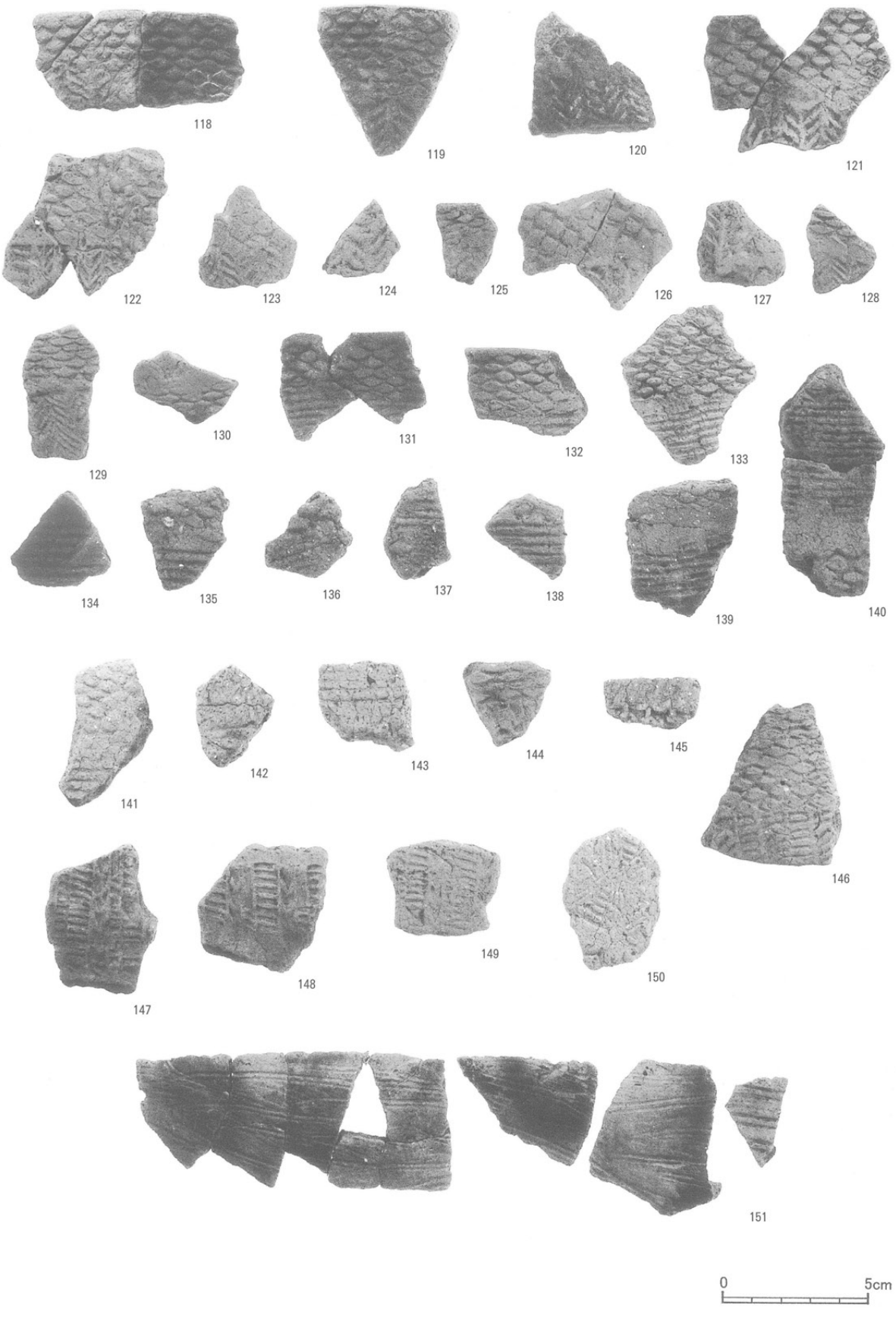
縄文時代早期押型文土器（1～14：山形文，15～57：楕円文）

縄文土器 1



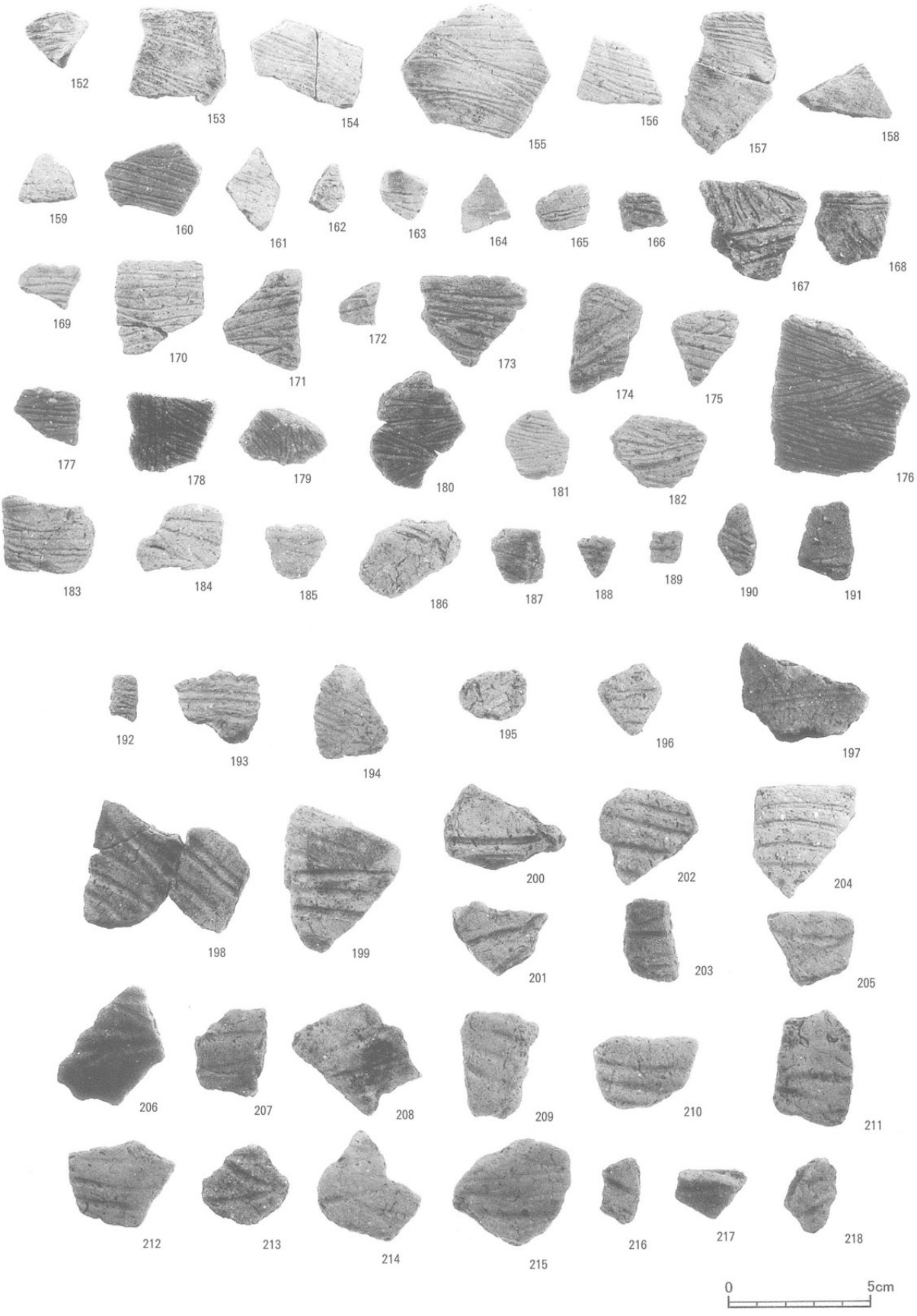
縄文時代早期押型文土器（58～80：楕円文，81～86：格子目文，87～117：平行線文）

縄文土器 2



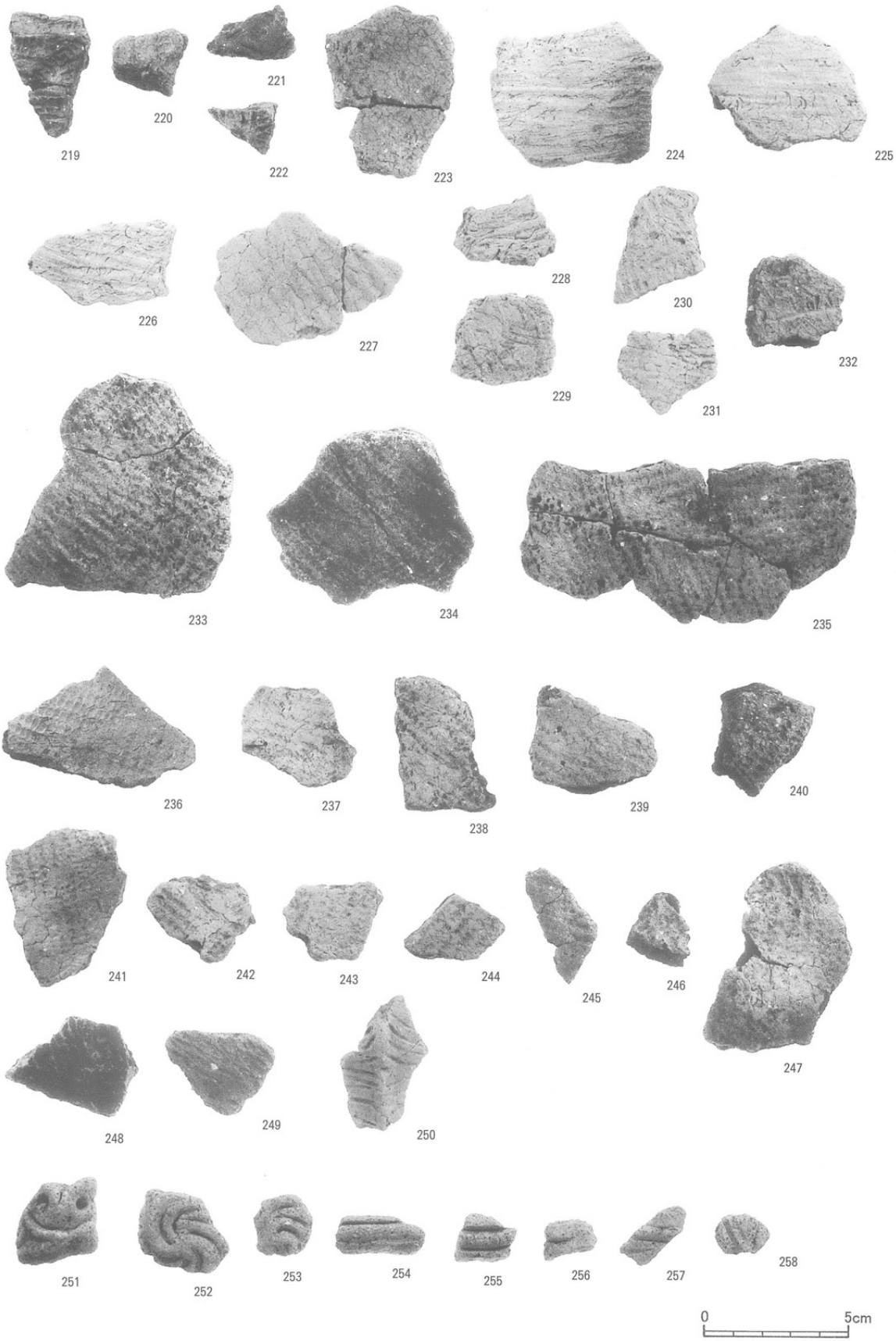
縄文時代早期押型文土器（118～150：異種文様並列），沈線文土器（151）

縄文土器 3



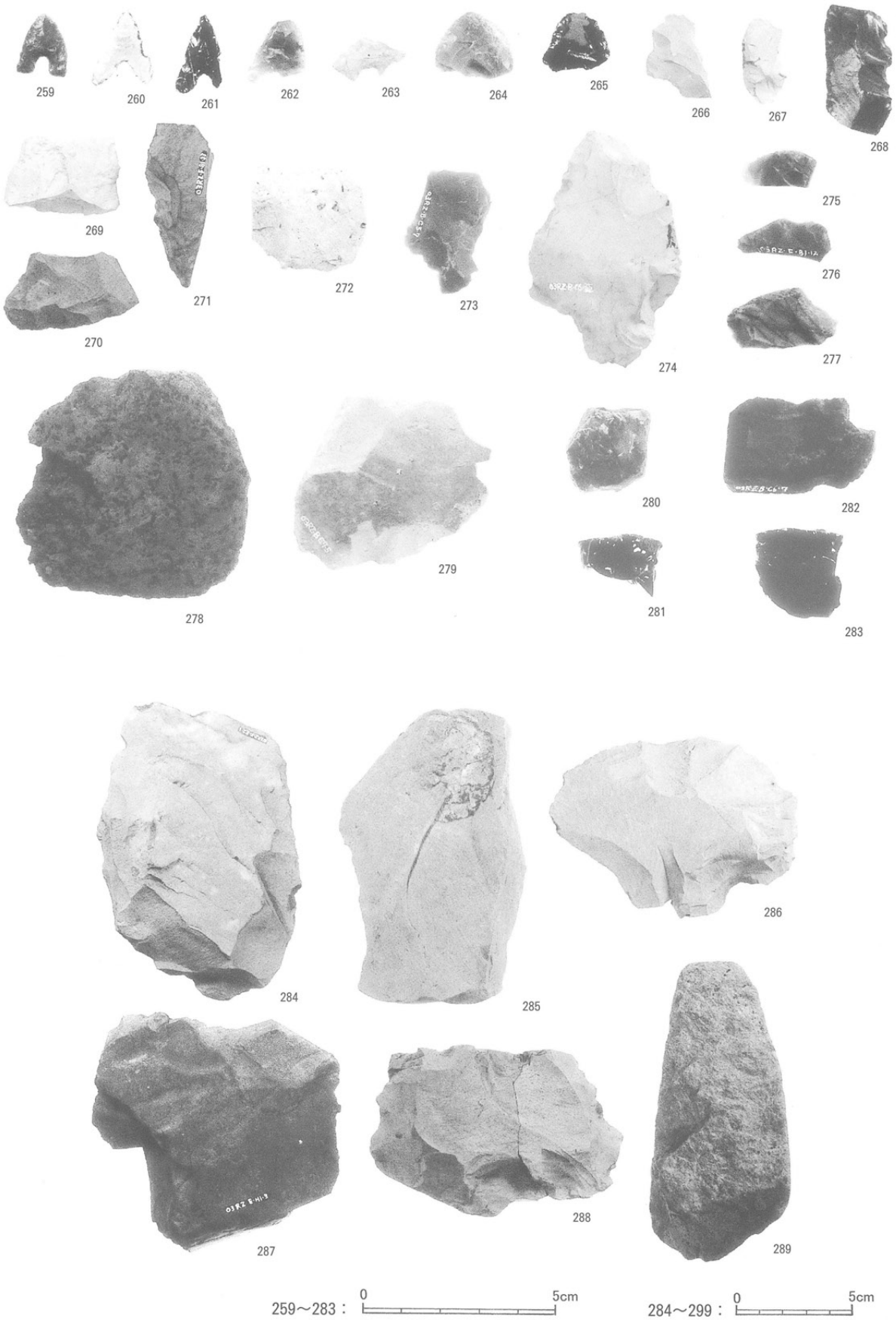
縄文時代早期沈線文土器（152～218）

縄文土器 4



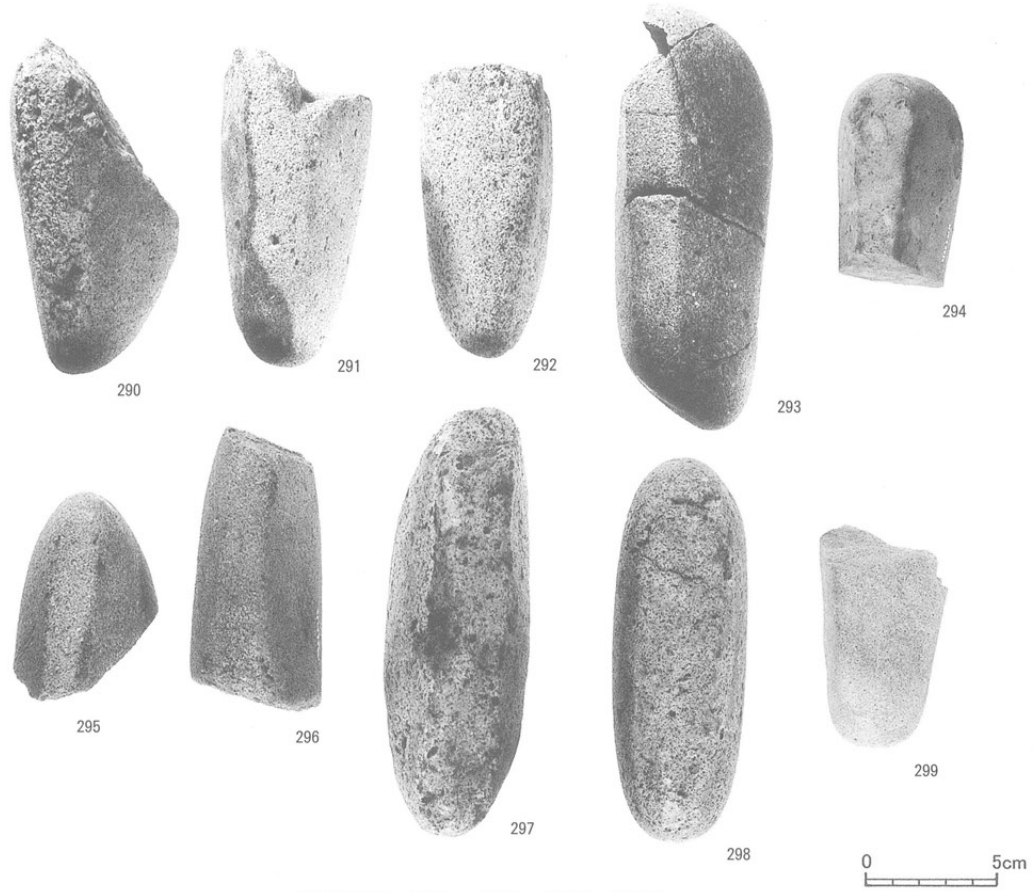
縄文時代早期条痕文土器（219～232），縄文土器（233～249），沈線文土器（250），縄文時代中期土器（251～258）

縄文土器 5



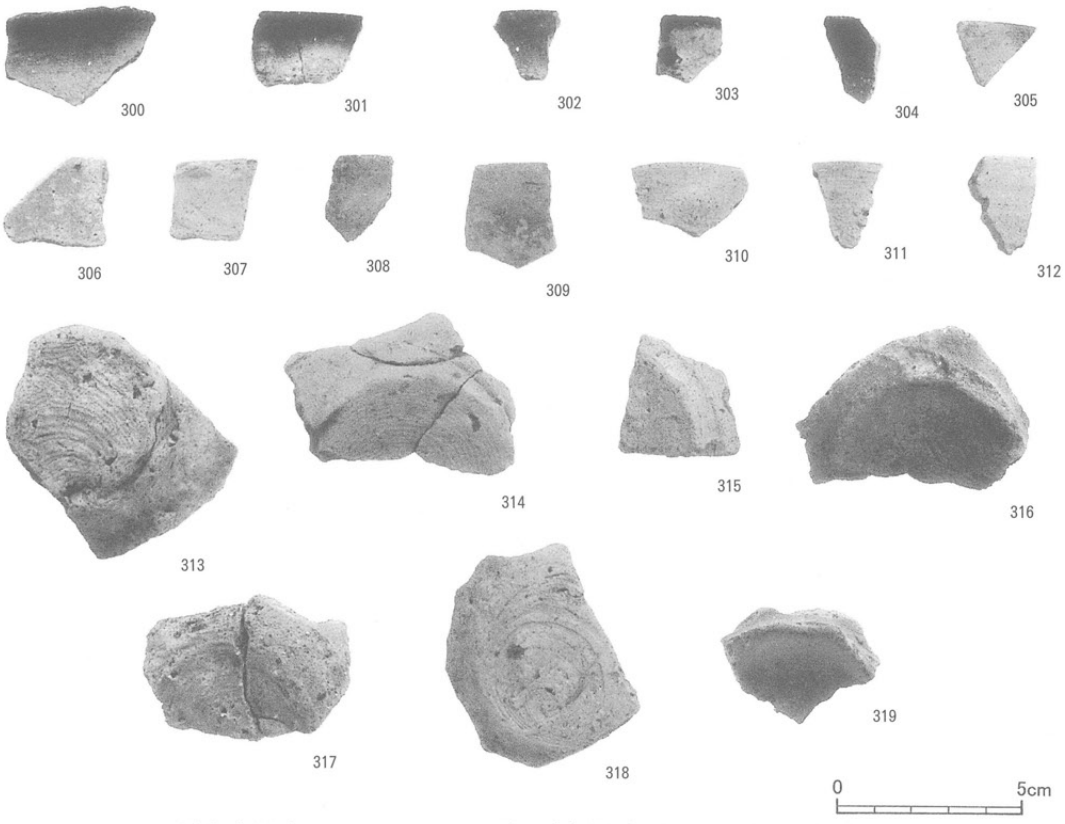
石鏃（259～261），石鏃未製品（262～267），削器（268，284），掻器（269，270），石錐（271），楔形石器（272），不定形石器（273，274），剥片（275～279，285～287），石核（280～283，288），石斧（289）

縄文時代の石器 1



特種磨石（290～298），敲石（299）

縄文時代の石器 2



黒色土器（300～305，313～317），土師器（306～312，318，319）

平安時代の土器

報告書抄録

書名	霊仙寺遺跡（りょうぜんじいせき）
副書名	牟礼村霊仙寺ため池整備工事に伴う発掘調査報告書
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財
シリーズ番号	
編著者名	渡辺哲也
編集機関	信濃町教育委員会
所在地	〒389-1305　長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2　TEL：026-255-5923
発行年月日	2004年（平成16年）3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
りょうぜんじ 霊仙寺	ながのけんかみみのちぐんしなのまち 長野県上水内郡信濃町 おおあざおおい 大字大井2861-2ほか	205834	164	36度 44分 54秒	138度 10分 31秒	20030611 ～ 20030729	820 （工事面積 9,453）	ため池 整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
霊仙寺	散布地	縄文時代（早期中葉～前期初頭・中期） 平安時代	なし	遺物総数898点 縄文土器（押型文、沈線文、条痕文、縄文など）、石器（石鏃、削器、特殊磨石、敲石など） 土師器、黒色土器など	押型文土器終末期の土器群を検出した

霊仙寺遺跡
—牟礼村霊仙寺ため池整備工事に伴う発掘調査報告書—

発行　平成16年（2004）3月31日
発行者　信濃町教育委員会
〒389-1305
長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2
TEL　026-255-5923
印刷　信毎書籍印刷株式会社
〒381-0037
長野県長野市西和田1-30-3
TEL　026-243-2105

Archaeological Reports of Shinano-machi

Ryozenji Site

2004

Shinano-machi Board of Education,

Kamiminochi-gun,Nagano,389-1305 Japan